

井上 委細承リマシテ能ク分リマシタ。

大院君 私ハ何ンデモ寧ロ打明ケテ話スト云フ方デ、包ンデ居ルコトハ出来ヌ方デアルガ、實ニ此ノ朝鮮デモ私ライヤガル者ガ多イ。自分ハ何事ニモ直グ同意モセヌ、私ニ同意ヲサセルノモ困難デアル、ソコデ忘ムト云フコトハ實際アルノデアリマス。與ミシヤスクナイト云フ者ガアル、其レダカラシテ大闕ニ居ツテモ餘リ人ガ來テ相談スルト云フ様ナ事ガナイ。今、日本黨、支那黨、頑固黨ト云フモ、何モ開化黨トカ日本黨トカ云フテ偏頗ニヤル様デハイケナイ、一方ニ偏シテハナラヌ、私ハ何ノ方ニモ偏シナイト云フ考ヘデス。

井上 其レデ日本黨ダノ頑固黨ダノ何々黨ト云フコトハ一切閣下ニモ斷念ナサル様ニ願ヒタイ。又私モ將來政府ノ各省事務着手ニ付テハ、多少日本人ヲ顧問ニ入レナケレバナラナイ、夫レ等ノ採用ニナツタト云フテモ、夫レヲ日本黨ト目視スル様ナ心念アリテハナラヌ。組織、權限、其ノ他制度等制定セシメネバナラヌ。又軍國機務處ノ事モ私ハ餘リ適當ナル仕事ト思ヒマセヌ、ト云フモノハ外國人デ何ンデモ行ツテ聽カレル様ナ始末デアル。路傍デ政治ヲトルト同ジデアル。是レモ何トカ整理スル様ニセネ巴斯様ナ事ヲシテ居テハ逆モ其ノ用ニモ立タズ、却テ困難ノモトトナルベシ。

大院君 何事モ整理シテ政治ノ實ヲ擧ゲテ行ク様ト云フ事ガ要用デアル、今日マデ其ノ實ヲ擧

ゲル事ガ出来ナイデ居ツタカラ、以來ハ充分進ム様ニ致シタシ。

井上 凡ソ政府ノ事務ヲ擧ゲルト云フコトハ、例ヘテ見レバ始メテハ罷メ、又仕掛ケテハ罷メト云フコト許リデハナラヌ。抑モ此ノ政府ノ有様ハ今日マデ彼ノ典圖局ト云フ様ナモノヲ作ツテ出来上ツタ頃ハ早ヤ棄テ、シマウ、其レカラ兵ヲ訓練スル士官ト云フモノハ一ツモナイ、兵ヲ置クニハ士官ト云フモノヲ造ラナケレバナラナイ、今日ハ古昔ノ鎗、刀ヲ以テ戰フ時トハ違フ、之レヲ充分ニ訓練シテ其ノ國ノ國防又ハ其ノ國ニ亂民ガ起ツタ時ニモ之レヲ鎮撫スルニ足ルト云フ兵力ヲ備フル必要ガアル。支那兵隊ガ中々骨格宜シク働キモアルケレ共、戰フ毎ニ輒スク破ル、ノハ士官ト云フモノ、學問訓練ガナイカラ、其ノ兵ニ規律ト云フモノナキ故デアル。又話ヲ聞ケバ貴國ニ於テ亞米利加ノ速射砲ヲ國王が見タイト云フコトデ買フテ來テモ使フ人ガナイ、又蒸汽船ヲ世子が見タイト云フノデ、ワザノ漢口カラ持ツテキテ、終ニ池ノ中ニ入レテ朽ラカシテシマウ。其ノ他電氣燈、機械、電話、電信等買入レテ見タ許リデ用ハ爲サヌノミナラズ、腐蝕ニ任セアルハ無用ノ費トナル、是レハ即チ順序ヲ失ヒ熟慮ヲセヌ仕方トシカ言ハレヌ。

大院君 左様（筆紙ヲ取り人名ヲ記シテ出セリ）是レガ先ヅ將官トシテ用フベキモノナリ。

井 上 先ヅ士官ヲ前ニ作ラナケレバナラス、例ヘバ此ノ人ガ幾ラ正直ナ人デアツテモ、此ノ人ガ學問職務ニ適當スル經驗ナクシテ扱フコトハ當世ハ出來ヌ、之レカラ若年ノ武官ニナル人ニ學問ヲ與ヘテ武官ニスルト云フコトニナラネバナラス、只ダ士官トカ大將トカ云フ名ヲ與ヘテモ、其人ニ價値ガナクテハ用ニ立タザルナリ。今日ハ機械モ悉ク歐羅巴流ヲ用フル必要ノ時、又戰ヒニハ戰ヒノ法ガ一種アリマス。其レヲ士官ガ學バヌ以上ハ、幾ラ大兵ガアツテモ烏合ノ衆トシカ申サレヌ。

大院君 佛蘭西公使館ノ話ニ、佛蘭西人デ鐵砲ヲ賣ル者ガアルト云フコトヲ見、此國デモ鐵砲ガ入ルカラ見マシタ。五連發カ六連發デアアル。大關内ノ守備ニハ今ノ「カトリング」ハ姑ク措キ、兎ニ角鐵砲モ買ハナケレバナラスガ、是レヲ持ツ兵ガナイカラ其レヲ作ラナケレバナラス。忠清道東學黨退治ノ事デスガ、是レハ兵隊ガ出ルニ付キ慰撫使ヲ出シ同行スルコトニナリマシタ。

井 上 今度兵モ新タニ呼ビマシタ、此ノ様ニ亂民ガ起ツテ長ク騷動スル様デハナラヌト思ヒ、之レヲ鎮壓スル爲メ今日出張セシメタリ。

大院君 彼レガ一塊ニナツテ居レバ宜シイガ、何ウモ諸方ニ在ツテ一ヶ所ヲ擊タスレバ外ニ復タ動モスルト現ハレル。私ハ説論文ヲ出シタ時ハ歸化ヲスルト云ツテ復タ直キニ起ルノデアリマス。

井 上 ソコデ貴國ノ兵モ出テ居ル、併シ何分卑怯ニシテ彼黨ニ逢ヘバ先ヅ逃散スル有様デアル、併シ今度ハ散ジテ居テモ剿滅スル考ヘデアアル。

大院君 迎モ朝鮮兵デハ行カヌ、前ニ立ツテ道案内位デ、閣下ノ方ノ兵デナケレバ六ヶ敷イト思ヒマス。今日ハ段々ト御話ヲ致シマシタ、明日ハ孫兒ヲ出ス、其レデ私ハ孫兒ガ二人アル、一人ヲ貴公ニ差出スカラ何ウカ宜シク願ヒマス。

井 上 未ダ御年ノ行カヌ御方ガアル様ニ聞イテヲリマスガ。

大院君 今年十三歳デアリマス。其レデ大イ方ノ孫ヲ先ヅ差上ゲマス。決シテ貴下ニ背キマセヌカラ何ウカ其ノ思召デ然ル可ク願ヒマス。

井 上 私モ大分世間ヲ廻ツテ居ルカラ、閣下ノ小サイ方ノ孫兒サンモ私ニ御任セナサツタ方が良カラウ。

大院君 御任セ申シマス。併シ其レジャ私ガ一人モナクナツテシマウ。

井 上 其レハ私ガ取り上ゲハ社マセヌ。私ニ委セロト云フコトハ即チ有爲ノ人ニスルト云フノデアアル、日本ニ連レテ行ツテ捕人ニスルト云フ意デハナイ。

大院君 先ヅ大キナ方ノモノヲ出シマスカラ、之レヲ御助ケ下サツテ、其レカラ又大キクナツ
タラ次ギノモ又充分ニ願ヒマス。

井上 併シ草木ヲ仕立ルモ人ヲ教育スルモ同様デ、成ル丈ケ僻ノツカヌ中ニナスガ、ヨク育
チ純良ニ成長スルナリ。

大院君 李竣鎔ノコトデ御座リマス、何時デモコチラノ方ヘ呼ンデ御教育願ヒマス。

(右了ツテ大院君ハ歸館シタリ)

李竣鎔來訪談話筆記

明治二十七年十一月十三日午後二時、統營使李竣鎔來訪、井上伯ト談話筆記。

李竣鎔 此間カラ鳥渡參上シヨウト思ツテヲリマシタガ、此頃日モ短カウ御座リマシテ、朝大
闕ノ方ヘ出マスルト、夕方ニナツテ何ウモ間モナク上がりマセンデシタ、併シ昨日大
院君モ此方ヘ出ロト言ハレマス、又外務大臣ノ金允植サンモ出ロト云フコトデアリマ
シテ、兼テ自分モ上ラウト思ツテ居ル所ニ、サウ云フコトデアリマシタカラ、今日ハ
大闕ノ方ヲ斷ツテ此方ヘ出マシタ。

井上 成ル程。

李竣鎔 (良ヤ姑ク默然タリシガ) 昨日大院君モ、コチラカラ歸ラレマシテ、私ヲ呼ンデ言フニ
ハ、貴様公使館ニ行き、井上閣下ニ會フナラバ、自分ニ事ヘルト同様ニ、決シテ不都
合ナコトガ有ツテハナラヌト斯克吳々モ言ハレマシタ。サウシテ見レバ朝鮮ノ風俗デ

井上

言へば、腰ヲ掛ケ、煙草ヲ喫スルト云フコトモ出來ナイノデアリマス。併シ今日ノ禮
デ云へば、朝鮮ノ古イコトバカリ爲シテモ居ラレヌト思ヒマスカラ、御許シ被下タシ。
其ノ様ナ區々タル朝鮮ノ禮式習慣ヲ以テ私ト御交際ナサルト云フコトハ無用ナリ、何
モ儀式又ハ禮式ト云フコトハ入ラヌカラ、貴公方ノコトニ付テハ金宏集サン、魚允中
サン、金允植サンニモ申マシタ、又大院君ニモ明ラカニ言ヒマシタ、大院君モ貴公ハ
未ダ若年ニテ下ニ仕ヘテ居ルモノカラ教唆サレテ、東學黨關係モナシタデアラウ、左
様ナ事ヲナシテハスマヌ、就テハ罰モ與ヘル、流罪ニモスルト云フ様ナ話ガアツタ、
併シ私ガ何モ事ヲ好ンデ混雜ヲ生ジサセヤウト云フ旨意デアアリマセヌ、左様ナ事ヲ
ナサルニハ及バヌ、不問ニ置キナサルガ宜シイト申シタ。其話ノ結果トシテ大院君モ
何ウゾ自分ノ可愛イ孫兒デアルカラト云ツテ、黙ツテ置ク譯ニ行カヌガ、御前ガサウ
イフ様ニ言ツテ呉レ、バ寔ニ宜シイト云フ話デアツタ。就テハ又何ウゾ當人ハ私ノ孫
兒デアルガ、御前ノ孫兒ト思フテ下サレ度シ、オ前ニ頼ムト言フコトデアツタ。サウ
イフ貴公ノ御考ヘナラ、未ダ年モ取ラヌカラ、或ハ離間策ニ乗ツタリ、猜疑心ガ生ズ
ルト云フ事ハアロウ、甚ダ宜シクナイ、後來有爲ノ人ニ御成リナサレナケレバナラヌ、
其レデ今日朝鮮ノ風俗習慣ノ中ニ生育サレテ行クト言フコトヲ惜ムト云フコトハ、是

レカラ世ノ中ノ事ガ多事ニナル、從テ人事モ多事ニナツテ來ル、只ダ支那ト朝鮮ノ有
様ダケヲ知レバ將來有爲ノ青年ニナルト云フコトハ出來ヌ、就テハ他國ノ學文ヲナサ
ツテ、知識ヲ擴メヌト朝鮮ノ獨立ト云フモノハ六ヶ敷シイト私ハ言ツタ次第デシタ。

李統營使

有難ウ御座リマス、一體自分モオツシャル通り經驗モナク學識モナイ、外ニ出タ事
モナイ、外ノ事ト云へバ畢竟人ノ話ヲ聞イタ計リ、一向模様ハ分ラヌ、到底世ノ中ノ
事ハ實地ニヤラナケレバ何モナラヌノデアリマス。今カラ段々御教授ヲ仰ガナケレ
バナラヌト言フコトハ先達ツテモ御話申シマシタガ、其レデ昨日大院君ガコチラカ
ラ歸ツテ後御話シノ點モ段々聞キマシタ。

ソコデ初メ六月ノ事ガ起リシ時分ハ、大ニ驚イテ隨分自分モ心持チヨウ御座リマセン
デシタ、サウシテ田舎ノ者ガ段々私ノ處ヘ往來スルモノガアル(明カニ東學黨ト云ハ
ズシテ田舎ノ者ト云フ)其レモ隨分不平デアツタノデアリマスカラ、六月ニ日本ノ兵
ガ王宮ヘ這入ツタ始末ヨリ互ニ話ガ合ツテ來タノデアリマス。

併シ過失ヲ曉ツテ改ムルト云フコトハ美事ト思ヒマス、第一自分ガ之レマデノ事ハ惡
ルカツタト思へバ改ムルノデアリマスカラ、其ノ過失ヲ改メテ爾來ハ皆サンノ御話シ
モ能ク聽イテ、此ノ如キ事ノナイ様ニ致シマシタ。

井上

左様ニ今日オツシヤレバ貴公ノ心事モヨリ分リマス。併シ六月二十二日ノコト、云フモノモ、貴公モ騒動が起ツタカラ驚イタ、不快ナル考ヘモアツタロウ、去リ乍ラ閔氏ノ勢力ト云フモノハ、日本ノ兵ナクシテ是レヲ壓制スルコトハ出来ナイノデアツタロウ、又言ツテ見レバ何モ日本ノ兵力ガ王宮ニ這入ツテ、大君主モ李氏一族モ閔氏一族モ擒ニシテ、此國ヲ奪フト云フコトデハナカツタ事ハ御分リニナツタロウ。

此際大院君ハドンナ事ヲナサレタカ、則チ七月二十八日ニ平壤監司ヘ手紙ヲ御遣リナサツテ、支那ノ大官ガ何人來タカ分ラヌ、去リナガラ我が宗社ノ危急ナル故ニ奸臣、即チ日本ニ附クトアルカラ、日本人ニ就クモノヲ追拂ハレンコトノ意ヲ致セトアル、支那ノ大官ニ通ジテ吳レト云フコトガ書イテアル。昨日其ノ手紙ヲ御覽ニ入レタノデアル。同時ニ貴公ガ其ノ覺悟ガアツタカ否カ、其レハ分ラヌ、不平デアツタトオツシヤレバ、東學黨ニ關係シタモノハ貴公ガ命令ナサツタカ、貴公ガ利用ナサツタカ、何レニシテモ幾萬ニテモ多イ方が宜イカラ上京セヨトアル手紙ニ、其レニハ石庭松亭ト云フ文字ガアル。ソコデ此ノ天兵ガ來ル、南北相應ジテ其レデ日兵ヲ追拂フト云フ謀略ナラン。ソコデ私ハ此地ニ來ルト如何ニモ疑惑ガ起ツタ、正面ニハ朝鮮政府ハ牙山ノ兵ノ撤歸ヲ依頼シ、續イテ日本ト同盟シ、清國ト宣戰ヲ大君主ハ宣告シナガラ、裏

面ニハ當國ニ於テ勢力アル大院君、又ハ貴公ガ其孫兒デアルノニ、一方ニ於テハ支那ニ隸屬シタ方が安心デアルト云フ考ヘデアツタラウ。又一方ニハ朝鮮ノ東學黨ト云フ様ナ者ヲ引キ入レテ、之レト合ハシタラ日本兵ヲ追拂フト云フコトハ容易ナラント云フ考ヘデアツタロウ。此程山縣大將カラ書面ノ寫シガ來タ、寫シデハ證據ニナラヌカラ本書ヲ尋ネタ處ガ、廣島ノ大本營ニアルト云フコトデアルカラ、直ニ電信ヲ掛ケテ取寄セタ。又貴公ガ指揮命令ヲナサツタカ、又貴公ニ附隨シタルモノカ、貴公ノ命令ヲ受ケタ様ナ手紙モ茲ニ押收シタ。ソコデ恰度大院君サンノ手紙ハ李竣鎔サンノ意圖ヲ受ケテ東學黨ヲ教唆シタ事實ガ書面ニテ附合スル事實ガアル。然ル上ハ如何ン、日本 天皇陛下並ニ政府ガ誠心誠意ヲ以テ朝鮮ノ内政ヲ改革シテ、獨立ヲ鞏固ナラシメント切望シテモ、則チ勢力アル李氏則チ國王始メ大院君、貴公マデ、表面ハ日本ニ依頼スルト云ヒナガラ、其ノ内心ニ反對ノ事實ヲ勉ムルコトガ明々白々ナレバ、最早無益デアルト考ヘタ故ニ、私ハ 天皇陛下ニ上奏シテ朝鮮ニ對シテ誠心正意ヲ以テ御助ケナサルコトハ御無用ナラン、寧ロ朝鮮ヲ敵國視遊バサレテ然ルベシト言上セントマデ考ヘタ。故ニ過日總理大臣、外務大臣マデ呼ンデ其ノ意ヲ御話シタ譯デアアル。夫レノミナラズ、貴公ガ私ノ處ヘ二度御尋ネニナツテ、私ノ方カラ問ヒヲ起シタルニ非ラ

ズ、然ルニ何卒風説ヲ信ジ、吳レルナ、支那ノ兵ニ通信シタトカ、東學黨ニドウシタトカ云フ如キ離間策ヲ爲ス奴ガアルト云フコトヲ貴公カラ度々御話ナサツタ。私ハ最初ヨリ難題ヲ申出ス考ヘハナカツタケレドモ、貴公ガ自分ノ非ヲ蔽フ爲ナラント彌ヨ以テ疑念ヲ増ニ至リタリ。天長節ノ日ニ御面會ノトキ何カ證據ガ出セヨウト云ツタ次第デアアル。併シナガラ貴公ガ今日惡カツタト謝スル、御後悔アレバ私モ釋然トスル。若シ日本政府ニシテ貴國ヲ領奪スルノ野心ガアルナラバ、斯ノ如キ證據モ出タカラ最好ノ時機デアアル、何ニ日本ガ朝鮮ヲ取ルト云フナラバ、一ヶ月立タヌ間ニデキル。然ルニ日本政府ノ意志ハ何ウシテモ此ノ東洋ノ局面ニ平和ヲ保タネバナラヌ、其レニ就テハ朝鮮ト云フ國ハ始終内部ニ面倒ガ起リ混雜ガ生ズル、故ニ之レヲ無事ナ國ニシナケレバナラヌ。無事ト云ヘバ獨立國ニ爲ナケレバナラヌ、夫レ故ニ支那ニ掛合フテ内政ノ改正ヲ協議シタ、貴國ヘ勸誘セント申込ミシモ、支那カラ排除シテシマツタ、故ニ支那ト日本ガ戰爭スルト云フコトニナツタノデアアル、夫レデアアルカラ今年六月ニ事新ニ生ジタ譯デハナク、明治九年以來日本ハ何時モ其ノ精神デアツタノデアアル、然ルニ支那ガ聽カヌ爲ニ終ニ今日ノ結果ニ至ツタノデアアル。ソレデ朝鮮ハ何時マデモ支那ノ屬隸タルコトヲ甘ジテアルコトナラ致方ガナイ、則チ御國ガ通意シタリ、又内ニハ

亂民ヲ教唆シ、清兵ト合體シテ日本ヲ敵視スル實ヲ發顯シタレバ、今度程宜イ機會ハナイ、併シ私ハ、天皇陛下ノ命ヲ承ケテ、何モ朝鮮ヲ取リニ來タノデハナイカラ、最初淡白ニオツシヤレバ、コンナ六ヶ敷イ事モ何モ無イ。又大院君モ初メニ會ツタ時ニ實ハ斯ウ云フコトガアリマシタト淡白ニオツシヤレバ、何モ其時ノ事情ジャサウ云フコトモアツタラウト一切ノ談話ニ置き去ツタロウ。然ルニ隱然有ルコトヲ無イ様ニ辯ジテ隱サウトスルカラ、コンナ事ガ到來スルノデアアル。

李統營使

私ハ却テ辯明ラシク物ヲ言フコトハ致シマセヌ。就テハ其ノ事ハ如何ニモ惡カツタト云フ言葉ヲ以テ謝罪スルヨリ外ハアリマセヌ。申サバ是レマデ朝鮮ノ日本ニ對スルコトヲ考ヘテ見レバ恩國デアアル怨國デハナイ、去レバ此ノ恩國ニ對シテ傷ケルト云フ様ナ考ヘヲナシテ手段ヲナスト云フコトハ、實ニ謝罪スルノ言葉モナイ、併シナガラ之レハ全ク事局ヲ見徹スコトノ出來ナカツタ過チニ出タモノデアリマスカラ、御諒知願ヒ度イ。

井上

只今ノ如ク貴公ガ淡白ニオツシヤレバ、私ニ於テモ深く御咎メスルコトハナイ、又六月二十三日後ノ事ハ支那ノ兵ヲ日本兵ガ牙山デ破ツタト云フコトモ、未ダ今日ノ様ニ連戦連勝ト云フコトハ能ハザラント推量ナスツタ事モ過去ノ事、然ルニ只ダ不淡白ニ

貴公ノミナラズ政府ノ人モ掩蔽ヲ強ヒテ勉ムル故ニ説キ置カナケレバナラヌ必要アリ併シ今日ハ全ク釋然シマシタ。

李統營使

先達テ參ツタ時ニ私ハ奸黨ガアツテ色々離間策ヲ取ルモノデアアル、風説ヲ信用下サルナト云フコトヲ言ヒマシタケレドモ、私ガ昔ノ古イ考ヘカラシテ、何ンデモ仕事ヲスル人ハ奸黨デアルト誤解シテ言ツタノデアアルガ間違デアリマシタ。然シ閣下モ其時東學黨ト云フコトヲ御話ガアツタラ打明ケテ御話スルカモ知レナカツタ、未ダ其ノ方御明シナカツタカラ御話ヲセズシテ不都合デアリマシタ。

井上

モウ其事ハ私モ釋然トシテ來マシタカラ、之レカラ善後ノ策ヲ講ジナケレバナラヌ。又第一陰險手段ヲ掃除シ、政治ヲ公明ニシナケレバナラヌ。又モウ一ツハ今日マデノ如ク政治上ノ事が多門ニ出デ、方々カラ喙ヲ入レル様デハ鞏固ナル政府ト云フモノハ出來ルモノデハナイ。之レカラ鞏固ナル政府ヲ造ル事が第一ノ事デス。

李統營使

此ノ様ナ國ニナツタノモ當リ前ニ政治ヲ議スル所ヲ議サヌカラシテ、何ウシテモ政治ヲ改良シテ政府ハ國王ノ命ニ依ツテ政事ヲ親ラ國ニ向ツテ執ルト云フコトノ極マリヲ付ケネバナラヌ、誰デモ政府外ノ人が仕事ヲスル様ナコトノナイ様ニ。

井上

第一サウ云フ様ナ權限ヲ付ケネバナリマセヌ。サウシテ政府ト云フモノハ堅固ナモノ

ニナツテ、又君主ト雖モ此ノ一國ヲ統御スル權カト云フテモ、人民ニ對シテ凡テ生殺與奪ヲ擅ニスルヤウデハナラヌ。只ダ法律規則等ニ因ルノ必要アリ、故ニ政府ニ委任シタ事ハ委任シ、又惡イ事ヲシタ人ハ法ニ依リ罪シモセネバナラヌ、傍タ改良ヲ講究シ、將來ノ基礎ヲ立テヤウト云フコトハ中々難澁デアルト云フモノハ、第一王室ノ中ニ復讐的ノ様ナコトガ行ナハレテアル。

例ヘテ見レバ閔氏ガ勢力ヲ握ル、サウスレバ大院君ノ勢力ヲ殺ガントシテ、既ニ罪ナキニ罰スル如キ復讐的ノ事がアル、サウ云フコトガ續イテハ國ノ獨立モ出來ヌ、王室モ安全ナラズ。

李統營使

御話シノ通り隨分權カノ争ヒナド、云フコトガ多ク行ハレテアル、其ノ原因ハ百年此方行ナハレタ世道ト云フモノガアル、此ノ世道ト云フモノハ、政府トモ王室トモツカナイモノデ、王室ト政府トノ間ニ挾ツテ居テ、其レガ爲ニ斯クナツタ事ハ事實ヲ正シク見レバ分ルノデアリマス。夫レデ國ニ君主ト云フモノガアツテ、國ノ政治ヲ掌ル、併シ君主ト雖モ不正ナ不都合ナ事ハ決シテ出來ナイ、正シク公平ナ考ヘヲ抱イテヲラナケレバナラヌト云フコトニナツテ、政府ノ大臣モ皆同心協力シテ政治ヲ執ルコトニナランケレバナラヌト思フ。

井上 夫レハ御尤モデス。

李統營使 朝鮮ハ今ノ李氏ノ初メカラ今日マデノ憲法律ト云フ様ナモノガアリマス。然シナガラ申サバ之レハ自分一家ダケデ仕事ヲヤツテ行クニハ其レガ宜カツタ。併シ今日自分一家ニハ方々ノ人が集ツテ來テ居ル、元トノ時分ト違フカラ、古イ古格ノ禮式デアルト云ツテ其レヲ變ヘルコトガ出來ヌ様デハ仕方ガナイ。則チ時勢ニ應ジテ仕事ヲシテ行ク、何ンボ古イ事ダト云フテモ時勢ニ適應シナケレバ廢センケレバナラヌ。

井上 何レノ國デモ最初歐羅巴各國デモ、未ダ政治上ノ組織ト云フモノト、國政ノ區別ノツカヌ間ハ皆サウデアリマシテ、歐羅巴ノ如キモ、又日本ノ如キモ、皆其時ニ追々變化シテ來タノデアアル。夫レデアアルカラ朝鮮國ノ王家ニテモ、王家一家ノコト、國政ノ事トヲ區別シテ置カナケレバ、將來彌ヨ以テ混雜ヲ來タス、故ニ國モ王家モ危險ニ赴ク、故ニ今第一政治ト云フモノハ國政ト王家ノ事ノ區別ヲ付ケルノガ必要デアツテ、又王家ノ中ニ混雜セヌ様ニ王族並ニ外戚等ノ區別モ付ケナケレバナラヌ。貴公ノ意見モ私ノ言フ處ト違ヒハシナイ。其レヲスルニハ手段方法ト云フモノヲ設ケナケレバナラヌ。其ノ手段方法ヲ施ス場合ニ、我儘勝手ナ事ハ出來ナイ。其時ニハ國事ニ付イテモ王室ニ付イテモ一定ノ制度ヲ立テ、其レニ依ツテ事ヲ行ハル、コトガ必要ナリ。又君主ノ

權限並ニ各衙門大臣等ノ責任モ制度ニ依ツテ事ヲ行フ事ニナラネバナラヌ。

李統營使

私ノ國モ元ト政府ト云フモノハ權力モアツテ、今ノ様ニ混雜シタモノデハナカツタト思ヒマス。政府ガ權力ヲ失ヒ、獨立出來ナクナツタモノハ何歟ト云フニ、畢竟王族外戚ト云フモノガ役人ニナツテ、段々政治ノ權ヲ自ラ執ツテ、個人ニ歸スル事ニナツテ、政府ハ漸ク權力ガナクナツテ、竟ニ今日ノ様ナ事ニナツタノデ御座リマス。其レモ畢竟君主ガ好キデサウ云フ様ニシタノデハナク、則チ臣下ガ惡クテ、下ニ居ルモノガ惡イ爲ニサウ云フ様ニナツテシマツタノデアアル。此頃ハ大院君、自分ノ父宮内大臣ナドノ考ヘハ全ク國王ヲ補佐シテ行クト云フ考ヘデアツテ、政府ニハ關係シナイ、政府ハ則チ各大臣ト云フモノガアツテ、凡テ仕方ヲスル様ニヤツテ行ク考ヘ、皆其積リデ居リマス。

井上

如何ニモ其通リニナラナケレバナラヌ、矢張り其職務權限ト云フモノガ明カナツテ來レバ、事務モ一人ガ勝手ニスルト云フコトハ出來ナイ。例ヘバ歲入モ勝手ニ徵收シテ各所ニ隨フテ費用スト云フ如キ取勝チニスルト云フ様ナコトハ出來ナイ。其ノ度支衙門ハ國ノ經濟ヲ司ル、故ニ徵收ハ統一シテ其ノ支出ニ付イテモ其ノ責任ヲ盡サネバナラヌ。

又陸軍デ命令ヲ出シテ兵ヲ動かスベキニ、此ノ命令ガ王族カラ出タリ、又ハ政府ノ一人ノ考ヘデ之レヲ動かスト云フ様ナコトガ有ツテハナラヌ。政府デ議シ、國王ノ許可ガアツテ、兵ヲ用フルト云フコトニナラナケレバナラヌ。併シ何事モ秩序ヲ立テ、手段方法ヲ施サネバナラヌ。然ルニ例ヘテ云ヘバ、貴國ノ陸軍ノコトニシテモ、鐵砲ヲ買ツテ見ル、亞米利加ノ野戰砲ヲ買タリ、其ノ器械ヲ用ヒシムル兵隊ハ第一士官ノ學問モ識力モナシ、兵卒ハ訓練ナシ、只ダ平人ト異ナル服ヲ着テアルノミ。或ハ江華デ海軍ノ學校ト云フモノヲ設ケテ英語ヲ教ヘル様ナ處モアルト云フ。又兵卒ニ訓練シタカラ、之レヲ扱フモノハ士官ガ扱ハナケレバナラヌ、所ガ之レヲ扱フモノヲ知ツテ居ルモノハ一人モナイ。例ヘバ中隊司令官、大隊司令官ト云フ名ヲ與ヘテモ、其ノ實之レヲ扱フコトハ無識無能、海軍ノ事ニシタ處デ、軍艦ヲ買ハントシテモ、貴國ノ財政今日デハ之レニ應ズル財ハナシ、只ダ英語學ヲ習ヒサヘスレバ、海軍ガ出來ルト云フモノデハナイ、故ニ順序方法ガ立タザルナリ。

李範營使

先ヅ以テ政府ノ事ヲ整頓セントスルニハ、職務權限ト云フモノ、職制ト云フモノヲ完フシナケレバナラヌ。明カニ規則モ出來、組織モ出來テ一定シテ、夫レカラナラデハ今マデノ様ナ工合デハ到底六ヶ敷シイダラウト思フ。本來朝鮮ト云フ國ハ兵制ナド

ハナシ、兵ガアツテモ規律ハ正シカラズ、教育ハナシ、到底之レヲ以テ兵隊ト名付クル事ハ出來ナイ。尤モ其ノ上ニ大將ト云フモノガアル、將官ト云フモノガアルケレ共、一向兵法ナドハ知らヌ人ガヤツテアルノデアアルカラ、今日ノ處デハ無教育ノ兵卒ト無教育ノ士官デアアルカラ、是レニ充分教育ヲナシテ行クト云フコトニ爲サンケレバナラヌ。アンナ兵ヲ置イタ處デ無駄デアリマセウ。

井上

教育ヲ爲サント言ツテモ、其ノ組織制度ヲ立テント言ツタ所デ、容易ナル業ニアラズ、各省ノ事務ニ付イテモ同様、先ヅ各省顧問ト云フモノヲ日本カラ入レズバナナルマイ。サウシテ此ノ組立ヲシテ、夫レニハ法律モ入レバ規則モ入ル、職務權限ノ制モ必要、今朝鮮人ニ制定スベシト云フタ處デ、實驗ナキ故ニ難事ナリ、故ニ貴公方モ大院君ナドニモ言ヒマシタガ、倭黨ダトカ何黨ダトカ言フ様ナコトヲ心ニ思ヒ、口ニシテハナラヌ、只ダ其ノ能力ヲ使ツテ朝鮮ノ國ヲシテ獨立ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルコトデナケレバナラヌ。始終此間猜疑ガ起リヤスシ、第二ニ貴國ハ主トシテ支那ヲ真似テ組織シタノデアアル、總テノ事、行政ノ組織、規則ノコトニ就テモ國ノ成立ニ依ツテ多少ノ違ヒハアルナリ、併シ萬事ガ尊大ニ過ギルト思フ。今少シ簡略ニシナイト改良ニ差間ガ起ル。サウシテ又王室ト雖モ今日ノ如ク無用ナ費用ヲ使ヒ、無用ナ人ヲ養ヒ置クト言

フコトガ有ツテハ國費が續クモノデハナイ。
則チ尊大ノ弊ヲ矯メ、虚禮ナドノナイ様ニシナケレバナライ。

(此時齋藤修一郎君外二名ヲ呼ビ紹介ス)

是レガ齋藤ト云フ人デアリマス。之レガ安廣ト云フ人、コチラガ廣澤ト云フ人デアリマス。御紹介ヲシテオキマス。

李統營使

御話シノ通り倭黨トカ清黨トカ何黨トカ云フモノモアリマセウガ、今日ハソソナコトヲ抱イテ居ラレマセヌカラ、私共初メ皆獨立黨ト云フ方ニ協力シテヤランケレバナラヌ、如何ニモ御尤モナ話デアリマス。ソコデ此國モ恰度五百年ヲ過ギタノデアリマス。最初國法ヲ設ケタ時分ニハ、其ノ時節ニ格好シタノデアリマセウケレドモ、段々時代ガ過ギタニ付テハ、之レヲ換ヘナケレバナラヌ。何時モ舊法ヲ守ツテ居テハナラス。其ノ時世ニ適シテ必要ナ法ニ變ヘテ行カネバナラヌト同ジク、王室ノ事モ今日ニ適スル法ヲ設ケテ行カナケレバナラヌ。今例ヘテ見レバ、爰ニ五百年前ニ建テタ家ガ崩レントスルケレドモ、其レガ造リ換ヘルコトガ出來ヌト云フコトハナイ。其儘惡イ所ヲ直スナリシテ將來ニ維持セシムル様ニシナケレバナラヌ。夫レニ付イテ何ウシテモ御話ノ様ニ丸デ破壊セズトモ、保存サル、モノハ保存シ、改ムル事ノ出來ルモノハ

改ムル様ニシテ行カナケレバナラヌ。

井上

大院君カラモ御前ノ孫兒ト思フテ吳レト云フコトデアツタカラ、御引受ケスルト言ヒマシタ。其レデ兎角種々ナル猜疑離間政權ヲ爭奪スルト云フ様ナ事許リ、中等以上ノ人ノ内ニ行ナハレテアル、又其ノ目的ヲ達スルニハ如何ト云フニ、隱險ノ手段ニ依ツテ之レヲ達スルト云フコトが行ナハレテアル。即チ國ニ兵ヲ備ヘルト云フコトハ、一方ニハ國防、其國ニ應ズル丈ケノ兵ヲ以テシ、第二ハ内ニ謀反人ガ起リ、或ハ東學黨ノ様ナモノガ此頃ノ様ニ起ツタ時ニ、兵ノ必要ガアルノデアル。又行政上ノ事ニシテモ、則チ此ノ警察ノ權ト云フモノガ必要デアツテ、國ノ政治ヲ行フニハ此ノ行政ノ警察權ト云フモノガ是非附着スルモノデアアル。

此ノ二ツノモノヲ以テ其ノ謀反スルモノ、又惡事ヲ企ツルモノガアレバ、此ノ警察權ヲ適當ニ使用セネバナラヌ。貴公ノ國デハ兵モ役ニ立タズ、警察モ腐敗シテアル、其腐敗シテ居ル警察ヲ隱險手段ニ銘々利用スルト云フ有様ナリ。斯ノ如キ空氣中ニ朝鮮人ノミト交ハル、終ニハ習ヒ性ト成リ、貴公ガ聰明ナ性質デアツテモ、其ノ聰明ハ習慣ノ爲ニ埋没サル、ト云フコトガアル。大院君ニ對シテ御引受ケスルト云ツタ以上ハ、是レ又貴公ヲ有爲ノ人トセンケレバナラヌ。人ト約束ヲスレバ實ヲ舉ゲネバナラヌ、

ソコデ今茲ニ三人ヲ召シタノハ、之レハ皆歐羅巴ニ行ツテ學問ヲナシ、日本ニ於テモ學問ヲシテ、世界ノ事ヲ能ク知ツテ居ル。故ニ斯ウ云フ人ヲ貴公ノ處へ上ゲルカラ、貴公ノ朋友トシテ、歐羅巴ノ歴史、亞米利加ノ歴史、獨逸ト云フ國ニモ斯々ノ變化ガアツテ、英國モ斯々ノ時代ガアツタガ、今日ハ人民ノ權利ガ斯ウ云フ様ニナツタト種ナル新話ガ聞カル、方向ヲ轉ズル好手段ナリ。只ダ此朝鮮ト支那ノ空氣ノ中ニ教ヘラル、ト聰明ヲ埋没スルト云フコトニナル。

李統營使

夫レハ難有御座リマス。自分モサウ思ハヌデハナイ、到底今ノ様ナ工合デ此國ヲヤツテ居テハ私モ隨分話ヲ聞キマシタガ、未ダ外國ハ見タコトガアリマセヌ。夫レデ來春ニナツタラ何カ使命ヲ受ケルカ、若クハ自分ノ只ダ遊歴ト云フ様ナ名義デ、外國ニ出ヨウト折角考ヘテラル。此ノ兵ヲ用フルニハ如何云フ方法ガ宜シイカトカ、財政ヲ執ルニハドウスルヤラ、其他種々ナ事ニ付イテ研究シテ見マセウト考ヘテ居ル。御承知ノ通り此國デ我々ノ年輩ノ者ガ集マレバ、イヤドウイウ務メガ宜シイトカ、或ハドウイウ役目ヲ失ツタカト云フ様ナ考ヘノ話ガ多イ。中ニハソウデナイモノモアリマスケレドモ、其レハ又昔ノ古イ考ヘデ、一向今日ノ世ニ適セヌ話デアリマス。或ハ又中ニハ外ニ行ツタモノモアリマスケレドモ、此レ迪モ外ニ出テ充分學校ヲ卒業

シテ歸ツタモノモナイカラ、蘊奧ヲ究ムルト云フコトハ出來ナイノデアリマス。ソコデ今御話シノ通り此三人ノ人ニ御目ニカ、ツテ、段々有益ノ話ヲ承レバ、此上ナク難有御座リマス。

井上

左様ニ貴公ガ分カレバ貴國ノ爲ニ私ハ悦ブ。

李統營使

ソレデ兎角私ハ知識ガ足ラヌノデアリマスガ、併シ公平ナ心ヲ以テ御話シ致シマスカラ。

井上

又度々御目ニ掛ルコトニシマセウ、又私モ用事ノナイトキハ出モシマスル、貴公モ御出ナサルコトニ致シマセウ。

(右ニテ談話終ル)

井上伯内謁見筆録

十一月二十日、井上伯參内、内謁見ヲ賜フ。列席ノ諸大臣ハ總理大臣金宏集、外務大臣金允植、度支大臣魚允中、署理軍務大臣趙義淵、工務大臣徐正淳、法務大臣洪鐘軒、學務大臣朴定陽、農商務大臣嚴世永、宮内大臣李載冕、並ビニ特ニ參席ヲ許サレタル統營使李竣鎔ナリ。

井上 過日大本營ヨリ書面ノ原書到達セルニ付（國王始メ大院君ノ一族ヨリ平壤前監司閔内夷ニ宛テ贈リタル清將來護云々ニ關スル書翰ヲ指ス）金總理大臣、金外務大臣、魚度支大臣ト會見ノ際之レヲ示シタル末、大君主ニハ早速金總理大臣ヲシテ事ノ不都合ヲ謝セラレ、大院君モ亦公使館ニ就テ書面ノ顛末ヲ述べ、其不都合ヲ謝セラレタリ。本使以爲ラク、該書通ノコト事體極メテ不條理ト認メ謝セラル、以上ハ、爾來清國ニ隸屬スル依頼心ハ全ク之レヲ絶チ、専心ニ獨立ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル爲メ、内政改良ノ實ヲ擧ケザル可カラズ。扱テ此ノ内政改良ト云フコトハ頗ル困難ナル事業ニシテ、

大君主ノ御決心如何ニアリ。否、大君主ノミナラズ、王族、諸大臣ノ決心モ同一ナラザル可カラズ。然ラバ本使ガ奏言シ、先ヅ主トシテ茲ニ大君主、並ニ諸大臣ノ決心、從事セラル、勇氣アルヤ否ヤヲ問ヒ置カザルヲ得ズ。

大君主 然リ、朕ハ書簡ノ事ハ後悔ス。朕ハ勿論内政改良ヲ爲シ、熱心ニ國歩ヲ進捗ナラシメント欲スルナリ。

井上 國歩ヲ進ムルトハ即チ獨立シテ歩ヲ移ストノ意味ナリ。是レ目下貴國ノ状態ヲ察スルニ、數多ノ困難ヲ冒シ何等ノ障害ニ逢フトモ此ノ中興ノ業ヲ成就スルニ當リ、一切沮喪セズトノ勇氣ト決心ヲナサザル可カラズ。

大君主 然リ。

井上 大君主ノ御決心既ニ然リトアラバ、諸大臣ノ決心如何、希クハ陛下ノ御目前ニ於テ諸大臣ノ意見ヲ聞クヲ得バ幸ヒナリ。

（此ノ時王妃ハ背後障子ノ内ニアツテ國王ノ後ヨリ國王ニ切リニ再語セラル、一瞬間國王ハ大ニ憤怒ノ御氣色アリテ）

大君主 列席各大臣（ト一呼シ）六月二十一日（我ガ本年七月二十三日）以後、朕ハ殆ンド國務上ノ何等ノ權利ヲ行フヲ得ズ、國政ノ事舉ゲテ各大臣ノ掌管スル所ヨリ、斯ク一國

ノ君權ナルモノ汚損スルコトナキカ、又今日朕ガ政令ハ殆ンド宮門外ニ行ナハレズト、抑モ之レ誰ノ罪ナルカ、今ヤ外國使臣ヲシテ自國ノ國政ニ關シテ杞憂此ノ極ニ至ラシムルハ何ゾヤ。然ルニ此席ノ井上公使ハ朕是レヲ顧問官視スレバ、其ノ我が國ノ爲メ衷情ノ此ニ出ヅルハ深ク謝スベシト雖モ、又顧ミテ我が臣僚ノ朕ガ爲メ其ノ不忠ヲ責メザル可カラズ。

金總理大臣 先ヅ其不敏重任ニ堪ヘザルヲ謝ス。

次イデ諸大臣皆惶悚々々ト奏ス。

魚度支大臣 陛下諸大臣ニ充分ノ職權ヲ與ヘ、然カモ諸大臣尙ホ其ノ職責ヲ舉グル能ハズンバ當然其ノ官職ヲ褫奪セラレテ可ナリ。已往ハ兎モ角モ、將來ノ經綸ニ關シテハ陛下ノ御決斷ノ如何ニアリ、臣等奉體敢テ決行ヲ辭センヤ。

井上 國政ノ事、獨リ之レヲ陛下ノ臣僚ニ責ム可カラズ、君主其ノ臣僚ヲシテ國務ヲ責成スルノ權アルト同時ニ之レヲ信任シ、之レヲ統愛シ、又充分保護ヲ與ヘル等ノ事ナカルベカラズ。

夫レ之レヲ爲サズシテ君主濫リニ臣僚ニ向ツテ之レヲ責ムルハ酷ニ過ギルノ嫌ヒナキ能ハズ、陛下其レ之レヲ諒セヨ。

大君主 誠ニ卿ノ言ノ如シ、朕モ充分親愛シ相當ノ保護ヲ與フベキハ勿論ナリ。

井上 茲ニ一言致置度ハ、日清ノ交戦モ御承知ノ様ニ我軍連戦連勝着々歩ヲ進メ、隨テ日本ノ威力モ加ハル今日ニ於テ、井上ガ公使トシテ此國ニ來駐セシ以來、内政改良ヲ遂行セシメントテ強迫ヲ以テ君權ヲ押ヘ、且ツ事ノ若シ成就セザルニ於テハ終ヒニ其威力ニ訴フル如キ手段ヲ執ルモ未ダ知ルベカラズトノ疑惑心ヲ大君主始メ大院君、其他諸大臣ニ於テ生ズル様ノ事アリテハ、窃カニ恐ル、是レ我 皇帝陛下ノ誠意ニ背キ、我が政府並ニ全國民ノ企望ト相反スルモノニシテ、貴國ノ前途亦甚ダ嘆ズベキモノアリ、此儀ハ豫メ御了解相成度シ。

大君主 従前ノ事姑ク措キ、卿ガ貴國重要ノ地位ニアルニモ拘ラズ、特ニ我國ニ派駐セラル、貴國皇帝陛下始メ貴國政府ノ主意ノ存スル所、朕已ニ業ニ之レヲ諒悉ス、安レゾ我が上下一點ノ疑惑ヲ此ノ間ニ挾ムノ理アラシヤ、卿夫レ深ク意トスル勿レ。

井上 清國ニ屬隸スルノ心ヲ斷チ、今後朝鮮國ノ獨立ヲ鞏固ナラシムル事ヲ圖ルニ於テ、緊要ノ條項ヲ逐一申述ブベシ。尤モ各箇條離レテ單獨ナルモノハナスベカラズ。第一ハ第二、第二ハ第三ト何レモ皆全體ニ相關連スル儀ト御認メ相成タシ。又是レヨリ述ブル事ニ付イテハ、本使ハ強テ理窟ガマシキ儀ヲ敢テ述ブルニ非ラズ。只ダ斯クセラレ

ザル可カラズト云フコトニ付キ申上グル儀ナレバ、其ノ主意豫メ御認め相成置カレタシ。

又通辯ニ依リ申上ルコトナレバ、自然御了解相成リ難キ儀モ之レアル可クト存ゼラルルニ付イテハ、御分リナキコトハ一々御下問アラセラレタシ。又本日ハ各大臣御列席ニ付キ、各大臣ニ於テモ本使ノ申述ブルコト一々御聞キ取り相成リ置カレタシ。是レ又自然御分リナキコト若クハ御異見ノ廉モアラバ、此席ニテ充分承知致度ト存ズ。

第一、政權ハ總テ一ノ源流ヨリ出ヅルコト。

是レハ政權ガ多門ニ出ヅルト云フコトハ最モ恐ルベキコトニテ、此弊ハ漸ク君主ノ權カヲ薄クシ、必竟世道ノ如キ者ヲ顯ハスニ至ルガ故、是非トモ一ツ本ヨリ政權出ヅルヤウ致サザルベカラズ。即チ大君主ハ政權ヲ統一セラルレドモ、百ノ號令皆ナ大君主ノ親裁ニ出ヅベキハ理ノ當然トスル所、若シ大君主ノ外、陰ニ陽ニ大君主ト同等ノ政權ヲ掌握スルモノアランニハ、命令數途ニ出デ、號令一ナラズ、此ノ如クナルトキハ、廷臣何ニ頼ツテ政ヲ行フコトヲ得ベキカ、有司百官各忠良ニ職ヲ盡スニ由ナクシテ、凡百ノ弊害皆是レヨリ生ゼン。貴國ニテハ是レマデ數人ノ君主アル有様ナレバ、此ノ弊ハ速カニ矯正セラレザルベカラズ。彼ノ大院君ハ君主ニテモアラセラレズ、亦臣下

ニテモアラセラレズ、故ニ決シテ國政上並ニ廷臣ノ進退黜陟等ニ口ヲ入レラルベカラズ。大君主ノ御親裁セラル、コト緊要ト存ズ。王妃陛下モ亦御同様タルベキ儀ニ付イテハ、過般大院君並ニ宮内大臣ニマデ申込ミ置キタレバ、御聞キ取りアラセラレシナラン。此ノ事ハ是非御確守アラセラレタシ。此儀ニ付キ陛下ノ思召ハ如何アラセラルヤ。

大君主 尤モナル事ナリ。

井上 陛下ニ於テ既ニ斯克セラルベシトノ御意アル以上ハ、我々ニ於テモ異存アルベキナラズ。

(各大臣何レモ唯々)

第二ハ大君主ガ政務御親裁ノ權アルト同時ニ、法令ヲ守ラル、義務アラセラル、事。是レハ第一ト直ニ相關スル事ニテ、大君主ガ御親裁アラセラレシ法ニ付イテ、大君主ハ其ノ法ヲ守リ、其ノ法ニ依リ事ヲ御處分アラセラルベキ筈ナリ。但シ法令ト申スハ別ニ定ムル法令規則ニ從テ制定公布セラル、モノヲ云フ。國政ハ大君主之レヲ直接ニ各大臣ニ諮詢セラレタル上、御裁可アラセラレ、百事並ニ官吏ノ進退黜陟何レモ只ダ大君主ノ專横ニ御處分アラセラレ、御意思ノ儘ニセララルベカラズ。專横ト申スコトハ

只大君主ニ於テ彼ハ宜シキニ付キ此ノ役ニ採用スベシ、是レハ好マセラレザルニ付キ免官スベシ杯ト、別ニ各大臣ニ御諮詢アラセラレズシテ直ニ裁斷セラレ、進退セラル、事ヲ云フ。凡ソ事ハ順序アリ、然ルニ此ノ如キハ弊因ヲ生ズル原因ト存ゼラル、ガ故、決シテアルベカラザルコトナリ。又百官人民ヲシテ遵守セシムル爲メ、一タビ法令規則ヲ出ダサル、トキハ、其法令ノ變更セラレザル限リハ、臣庶ハ申スニ及バズ、各大臣假令ヘ大君主タリトモ擅ニ之レヲ破ラル、コトハ甚ダ理ニ於テアルベカラズ。故ニ大君主ハ法令ヲ出ダサレ、其ノ法令ノ範圍内ニ於テ政ヲ行ハセラルベキモノニテ、即チ法令ヲ御守リ相成ルベキモノナリ。此儀ニ付大君主ノ思召ハ如何アラセラル、ヤ。文明諸國ハ皆然リト聞キ及ベリ、予モ亦今後斯クスベシ。

大君主

(各大臣何レモ異議ナシ、唯々)

井上

第三、王室ノ事務ヲ國政事務ヨリ分離スルコト。

是レハ貴國從來ノ習慣ニ依ルトキハ、人民ノ生命財産ハ王室ノ一命令ノ下ニ與奪セラル、故ニ、上君主ヨリ下人民ノ腦裡ニマデ、王室ノ外、又國家アルモノナシト思フガ如キ姿アリ。王室ト國政トヲ混合スルノ原因ヲ生ズル弊害ハ甚ダ大ナリ。承候、内官等ガ國政或ハ官吏ノ進退ニ干預スルノ弊ハ宜シク速廢トスベシ。

(此時國王、承候トハ何ナルヤヲ問ハル、金宏集氏ハ直ニ國王ノ左右ニ侍候スル者ナラント答フ)

井上

貴國官制ニ承候官ナル者アルニ非ラズヤ。

金宏集

承候官ニ非ラズ、承旨ナル者ナラン、承旨ハ王命ヲ出入スルヲ職トス。

大君主

然ラバ承候トハ何ナルカ。

金宏集

兎モ角政事ニ干預セザルベキ者ガ干預スルト云フハ好キ事ニ非ラズトノ意ナラン。但シ承候トハ官職ニアラズシテ國王ニ入侍スルモノヲ云フナラン。

井上

文字ハ兎ニ角、宮内官等ニアラズシテ國政及ビ官吏ノ進退等ニ口ヲ入ルル者ハ弊害ノ本ナレバ、斯カル者ハ廢止セザル可カラズ。

此ノ如キ弊ハ皆王室ト國政トヲ混合スルヨリ生ズル弊ナリ。王室ノ事務ハ宮内府之レヲ司リ、國政ノ事務ハ總理大臣、各衙門大臣之レヲ行ヒ、宮中ノ官吏ヲシテ喙ヲ國政ニ挾ムコトヲ得ザラシムベシ。故ニ大君主ハ法令規則又ハ一定シタル手續ヲ離レ、猥リニ各大臣並ニ國政ニ預カル重職以外ノ者ニ向ツテ國政上ノコトヲ御相談アラセラレザル事最モ必要ナリ。此儀ニ付キ陛下ノ思召ハ。

大君主

尤モナリ。

(各大臣何レモ唯々)

井上

第四、王室ノ組織ヲ定ムルコト。

是レハ王室ノ鞏固ハ國家ノ鞏固ト相俟ツテ離ル可ラザルモノ、即チ王室ノ鞏固ハ國家ノ鞏固ナリ。故ニ王室ニ關スル制度及ビ組織ヲ定ムルコト必要ナリト存ズ。此事ハ王室制度ナルモノヲ御設ケ相成ラバ、自然御明亮ヲ得ン。此儀ニ付キ陛下ノ思召ハ。

大君主

尤モナリ。

(各大臣、唯々)

井上

第五、議政府及ビ各衙門ノ職務權限ヲ定ムルコト。

是レハ議政府ハ内閣ニシテ各大臣參集、君主御臨席アラセラレ、國政ヲ執ラル、處、此ノ議政府及ビ各衙門ノ職務權限トハ、外務衙門ハ外交ノコトヲ掌リ、度支衙門ハ財政ノコトヲ掌ルト云フガ如シ。假令バ茲ニ海關稅ノコトアリトセバ、稅ノ事務ハ度支ニ關シ、外國トノ事ハ外務ニ屬スル故ニ、衙門大臣協議ノ上外務大臣ガ外國ニ交渉スルノ類ヲ云フ。即チ職務トハ各衙門ノ取扱フ事務ヲ云ヒ、權限トハ何ソノ事項ヲ委任セラレ之レヲ行フト云フ義ナリ。

大君主

内閣トハ如何ナルモノナルヤ。

井上

内閣トハ即チ國王御親臨アラセラレ、各大臣ヲ集メテ國政ヲ議セラル、處ナリ。君主ガ各大臣ヲ集メテ國政ヲ議セラル、ヨリ稱スル言辭ナリ。

大君主

然ラバ宮中ニ設ケザル可ラズ。内閣ナル語ハ確カ明ノ時代ニ始マリシモノト覺ユ、我國ニテモ前ニハ常參ナルモノアリテ、各判書及ビ大監(判書以上ノ官ヲ經シ者ノ稱呼)ヲ集メテ國政ヲ議セシヨリ、宮中ノ内殿ニテ集會ノ制ニテアリシ。

(此時金宏集、魚允中氏、明時代ニ内閣ノ語ノ創マリシコト及ビ常參ノ事ヲ述ブ)

井上

内閣ナル語ノ明カニ始マリシト否トニ關ラズ、兎ニ角内閣ハ大君主モ親臨アリテ各大臣ト事ヲ議セラル、處云々、凡ソ世ノ創業ニ拘ハルトキハ、君主其ノ重ナル臣僚ト事ヲ議セラレザル可カラズ。

此ノ場合ニハ職務モナク權限モナカリシモ、臣僚ヲ集メテ事ヲ議セラル、事ハ是レアリシナラン。謂ユル政事ヲ議セラル、所、即チ國王内閣ナリ。内閣ト申上ゲテ御分リナクバ、即チ議政府ト申スベシ。議政府ニテ各大臣ヲ集メ君主御親臨アラセラル、事ナリ。而シテ各大臣ノ職務權限ハ之レヲ定メザル可カラズ。

(此時金宏集、國王ニ向フテ職務權限ナル語ヲ説明ス)

井上

右御定メニ就テハ議政府及ビ各衙門ノ組織及ビ職務權限ヲ定ムル法令規則ヲ制定セラ

井上伯内謁見筆錄

レザル可カラズ。只今申上タルコトハ學校ニテ政治學ノ講義ヲナスガ如ク、仲々六ヶ敷キ事ナレドモ、法令規則ヲ御設ケ相成レバ自然御明亮ヲ得ル事ナラント存ズ。此ノ議ニ付陛下ノ思召ハ。

大君主 至極尤モナリ。左様スベシ。

(各大臣何レモ唯々)

井上 第六、租税其他一切ノ貢納等ハ度支衙門ノ統一ニ歸セシメ、人民ニ課セル租税ハ一定ノ率ヲ以テシ、外ニ何等ノ名義方法ニ係ラズ之レヲ徵收スベカラザルコト。

是レハ從來當國ニテハ租税ヲ徵收スルノ公署ハ宮内其他ニ七、八ヶ處モアリテ、其ノ收入ハ各自ニ之レヲ支出セリ。右ノ外尙ホ春坊明禮宮ヨリハ憑文ヲ發シテ一種特別ノ徵收ヲナスコトヲ得ルノ習慣ナリ。此ノ如ク各處ニテ勝手ニ徵收シ得ルハ經濟ノ基礎ヲ紊亂シ、其ノ弊ヲ生ジ易シ。

(此時大君主收税ノ類ナラント私語セラル)

又各處ニテ各自々由ニ支出スルハ、第一國政ト王室トノ費用ノ區別ヲ混合シ、第二ニ財政ノ統一ヲ缺クモノナレバ、宜シク收入、支出トモニ度支衙門ノ權限ニ屬セシムベシ。右租税ノ外ニ官吏ガ私ニ收斂シ……………

(此時大君主首肯セラル)

甚ダシキニ至リテハ其ノ之レヲ拒ムモノヲ恣ニ監禁處罰スルノ弊アリテ……………

(此時大君主頻リニ首肯セラル)

人民各々其ノ事業ニ安ジ、福利ヲ享有スルコト能ハズ。斯クテハ一國ノ富ヲ致ス能ハズ。人民ヲシテ各々其ノ事業ニ安ゼシメンニハ、濫リニ人民ノ財産ヲ侵略セザルヤウ一定ノ税則ヲ定メ、之レニ據ラシムベシ。而シテ富國ノ基始メテ立ツコトヲ得ベシ。我國ニテハ以前各司何レノ官衙ニテモ各々別ニ徵收セザル所ナク、春坊明禮宮等ノミニ止マラズ。

井上 陛下ハ先キニ弊害等ハアル可キ筈ナキ旨御意アラセラレタルモ、此ノ如キハ即チ弊害ノ大ナルモノニシテ、陛下ハ御承知アラセラレザルモ知ルベカラズト雖モ、本使ハ既ニ已ニ多クノ弊害アル事ヲ發見致セリ。此ノ事モ即チ其一ナリ。斯カル事ハ速カニ御一掃セララルベキ事ト存ズ。此儀ニ付陛下ノ思召ハ。

大君主 誠ニ閣下ノ言ノ如シ。

(各大臣一同唯々)

井上 第七、歳入、歳出ヲ計リ財政ノ基礎ヲ定メ、王室並ニ各衙門ニ要スル費用ノ額ヲ豫定

セラル、コト。

是レハ入ルヲ量リテ出ヅルヲ制スト云フハ、何レノ國ニテモ皆然リ。然ルニ貴國ニテハ出ヅルヲ量リテ入ルヲ制スト云フガ如キ傾キアリテ……………

(此時金宏集、魚允中兩氏、入ルヲ量リ出ヅルヲ制スト言フ事ヲ説明ス)

支出ニ隨ヒ人民ヨリ徴收スルガ故ニ、勢ヒ不規律ニ且ツ強索等ノ事ヲ生ゼザルヲ得ズ。故ニ毎年ノ歲入ヲ豫定シ、國家財政ノ基礎ヲ定メ、之レヨリ王室並ニ各衙門等ノ經費ヲ一言セザルベカラズ。

(此時大君主、朴主等ヲシテ國政一班等ヲ持來ラシメ切リニ閱覽セラル)

即チ宮内府及ビ各衙門ノ經費ハ各衙門議政府等ニ之レヲ豫算シ、陛下ノ御裁可ヲ經テ確定スルモノナリ。既ニ御裁可ニ相成リタル以上ハ何人タリトモ之レヲ増減變更スルコト能ハズシテ、各大臣ハ其ノ御裁可相成リタル定額ニテ一切ノ事ヲ辨ズベキモノナリ。

(此時金宏集氏來年ノ分ヲ本年ニ豫算シテ定ムベキモノアル事ヲ言上ス)

又思フニ貴國王室並ニ政府ノ官吏ハ事務ノ割合ニ比シテ過多ニ失ス、此等ノ費用ハ部減上宜シク適當ノ員數ヲ定メ冗員ヲ淘汰セラルベシ。

(此時金宏集氏事務ヲ執ラザル官吏ハ即チ冗員ナリ、新設官吏ニテ冗員甚ダ多シトノ事ナリト言上シ、大君主ハ成程冗員ハ省クベシ、又地方官ノ如キモ能ク調べテ少ナクスル等ノ事ハ行ナハザルベカラズト述べラル)

此事ニ付キ陛下ノ思召ハ。

大君主 委細承知セリ。

(各大臣一同唯々)

井上 第八、軍制ヲ定ムルコト。

是レハ凡ソ兵權ハ大君主ニ屬シ一途ニ出ヅルヲ要ス。現今ノ如ク之レヲ多頭將帥ノ下ニ分屬セシムベカラズ。且ツ軍備ハ國ノ基礎ヲ立ルニ缺クベカラザルモノナレバ、少ナクトモ内亂ヲ鎮撫スルニ充分ナル兵力ヲ養フヲ必要トス。依ツテ歲入、歲出ノ豫算ヲ立テ、節減シ得ル丈ケノ費用ヲ節減シタル上、歲入ノ幾部分丈ヲ軍備費ニ充ツルヲ得ルヤウ算定セザル可カラズ。扱テ軍備ノ基礎ヲ立テンニハ先ヅ士官ヲ養成スルノ途ヲ開キ、兵學ノ知識及ビ經驗ヲ有スル者ヲ將校ニ任用シ、漸次軍備ノ擴張ヲ期スベキナリ。近時我が士官ガ訓練セシ教導中隊ナルモノアリ、該中隊ガ東徒征討ノ爲メ出軍スルニ際シ、本使ハ和城ニ於テ其演習ヲ一觀セシコトアリ。技藝ハ可成出來申分ナキモ、

如何セン之レヲ統率スル士官ナシ。元來戰爭ニハ兵學モ必要ナリ、又測量等モ必要ナリ。其他總テ軍事上ノ知識ハ皆士官ニ必要ナルニ、貴國ニテハ毫モ士官ヲ養成セラレズ。今若シ此回清國トノ戰ヒニ付テ之レヲ言ハバ、清兵ハ一人トシテハ何レモ強壯ナリト雖モ、之レヲ率キル士官ハ皆兵ヲ知ラザル輩ナリ。平壤ノ戰ヒノ如キモ砲臺等ハ可ナリニ設ケアルモ、其將軍略等ヲ知ラズ、爲ニ遂ニ一敗地ニ塗ルニ至レリ。之レ將タ其ノ人ヲ得ズ、其ノ技倆ナキニ依ル。以テ好證トナスニ足ル。故ニ士官ヲ養成スルハ最モ必要ナリ。

(此時大君主甚ダ御解得ノ姿ニテ度々首肯セラレ、尋イデ我國ニテモ古キ事ナレ共日本ヨリ堀本ナル者ヲ聘シ、士官ノ教育ヲナセシ事アリ。士官ノ教育ハ誠ニ述ベラル、ガ如シト述ベラル)

然レドモ歳入ヲ量ラズシテ徒ラニ擴張セントスルハ、財政ヲ紊亂スルノミナレバ鑑ミザル可カラズ。

(此時大君主甚ダ然リ、財政ヲ度ラズシテハ到底ナスベキモノナラズト述ベラル) 又未ダ陸軍制度モ立タザルニ、海軍ナドハ元ヨリ無用ナラン。海軍ハ他日陸軍ノ基礎ヲ鞏固ニシタル上、歳入ノ餘裕アラバ之レヲ起スベキナリ。

(此時大君主首肯セララル)

此儀ニ付陛下ノ思召ハ。

大君主 至極尤モナリ。

(各大臣一同唯々ス)

井上 第九、百事虚飾ヲ去リ誇大ノ弊ヲ矯ムベキコト。

是レハ虚飾ト云フハ奢多若クハ虚禮ヲ崇ブ事、外觀ヲ飾ル等ノ事ニテ、貴國ニ於テハ兎角此種ノ事多シ。假令バ回旋砲ヲ購ツテ王宮ニ据ヘ、電氣機械ヲ宮中ニ置カレシハ不急ノ事ナリ。又右等ハ何レモ買入レシノミニテ其儘トナリ、何ノ役ニモ立タズ。彼ノ典圖局ノ如キモ莫大ノ費用ヲ投ジテ爲ス事何モナク、其他幾多ノ事業ハ何レモ皆斯クノ如キ有様ニテ、多分ノ費用ヲ投ジテ一モ功ヲ奏セシモノナシ。之レ皆虚飾ト云フ外ナシ。又誇大ト申スハ、事ニ付一例ヲ舉ゲレバ、恐レ多キ事ナレドモ、嘗テ世子宮ガ蒸汽ヲ見ラレントセラレシト云フヲ以テ、小蒸汽ヲ宮中ノ園池ニ浮ベラレタリト言フ。若シ李宮ニテ蒸汽船ヲ御一覽トナラバ、仁川ニ赴キテ外國軍艦ナリ御一覽アレバ事却テ充分ナルニ、ワザワザ蒸汽ヲ曳キ上ゲテ園池ニ浮ベラル、ト云フガ如キハ誇大ト申上グル外ナシ。世子宮ト雖モ外出ハ更ニナク、徒ラニ深宮裏ニアツテ外氣ニ觸ル

井上伯内謁見筆録

ルヲ務メテ避ケラル、ガ如キハ最モ其ノ養育上ニ不可ナルアラン。

(此時國王ハ彼ノ蒸汽ハ日本ヨリ寄贈ノモノナリ、既ニ他ニ持チ出セリト述ベラレ、又世子ヲ外出サスル事ニ付テハ我國ノ習ハシトシテ能ハザルノミナラズ、警察ノ事モ充分ナラザル等ノ爲メナリ。何ニモ恐レテ外出ヲサセヌト云フ譯ニモアラズ、兎ニ角我が國ノ習ヒナレバナリト述ベラル)

イクラカ御危険ノ事モアルベケレドモ、餘リ外氣ニ觸レシメラレザルハ好キ事トハ存ゼズ。我が皇太子殿下ノ如キハ御外出アラセラル、モ、扈從ハ纔カニ二、三人ニ過ギズ、又近頃ハ臣下子弟ト共ニ華族學校ニテ御勉強アラセラル、然ルニ貴國ニテハ事甚ダ異ナリ、一切ノ事誇大ナラザルハナシ。斯クシテ世子宮ヲ深宮ノ中ニノミ置カル、ハ、恐レ多キ事ナレドモ或ハ勢力ノ爭奪又ハ猜疑、離間、復讐ナドト云フ惡空氣ノ中ニノミ置カル、ト一般ニテ、終ヒニハ斯カル事ノ御學ビアリテ依ツテ性トナル事ナシトモ申サレズ、警メザル可カラザルコトト存ゼラル。

(此時大君主ハ日本太子ノ斯クアル事ハ嘗テ聞キ及ベリ。予モ亦漸次世子ヲシテ然カセシムベシ、又學問ヲモ爲サシムル事トスベシト述ベラル)

現ニ李峻鎔氏ノ如キハ王族ノ一人ナリ、王室ノ鞏固ヲ計ルニ直接ノ關係ヲ有セラル、御方ナリ。然ルニ兎角ニ尊大ノ弊ヲ制セラレ居レリ。同氏ハ御歳モ若カケレバ此後充分學問セラル、ハ最モ必要ノ事ナリ。過般モ數年間日本ニ赴カレ、通學セラル可キヲ御咄シ致シタル事アリ。斯クアルベキ事ト存ゼラル。

凡ソ百年ノ王室ヨリ各衙門ニ至ルマデ、誇大ニ構ヘ虚飾自ラ得意トスルハ貴國ノ弊ナリ。之レガ爲メ王室並ニ國政上ニ於ケル冗費頗ル多カラシ。此等ノ弊ハ速カニ矯正セラレ、且ツ目下不必要ノ物品ヲ購求シ、並ニ前途維持ノ方法ヲ攻究セズシテ不急ノ事業ヲ起ス事アルベカラズ。王室タルモノハ此際宜シク率先シテ諸事ニ節儉ヲ勉メ、以テ冗費ヲ除キ臣民ニ模範ヲ示サルベキ事ナリ。

(此時大君主ハ、奢侈ニシテ華麗ヲ崇ブト云フコトハ最モ驚ク可キコトナリ。而シテ節儉ヲ勉ムルト云フハ甚ダ必要ナル事ナリ。閣下ノ言ハ一々御尤モナリ。是等ノ弊アルガ爲メ人民ニ於テモ兎角消シ難キ事トナルナリト述ベラル)

本使ノ申スハ人民ノ虚禮虚飾誇大ヲ申スニ非ラズ、王室内廷ノ事ヲ申上グルナリ。虚飾誇大ニシテ冗費ノ多キガ爲メ、人民ハ實ニ疾苦ニ堪ヘザルガ如キ有様ナルハ嘆ズベキコト共ナリ。

(此時大君主ニハ民ハ國ノ本ナリト古語ニアリ、民ヲシテ苦シマシムルハ予ノ心外

トスル處ナリト述ベラル)

誠ニ陛下ノ御言葉ノ如シ、民ハ國ノ本ナリ、民アリ國アリテ而シテ王室アルハ篤ト御注意アラセラレタシ。故ニ右等ノ諸弊ハ須ラク御一掃アラセラル可キ事ナリ。此儀ニ付キ陛下ノ思召ハ。

大君主 一々御尤モナリ。

(各大臣一同唯々)

井上 扱テ本日ハ本使ノ意見ヲ腹藏ナク逐一申上ゲタル上、陛下ノ御決心及ビ各大臣ノ御決心ヲ伺ハント致セシニ、事長クシテ時既ニ遷レリ。陛下始メ各大臣御一同定メテ御億レノ事ト存ゼラル、ニ付テハ、本日ハ是レマデトシ、他日引キ續キ申上グル事ト致サシ。

大君主 然ラバ他日再ビ聽ク事トセン。

魚允中氏 閣下ガ只今マデ言上セラレ文書ニ認メラレタル事ハ其儘陛下ニ御差上相成ランニハ又篤ト御閱覽アラセラル可シト存ズ。

井上 本使ハ喜ンデ差上グベシ。決シテ差支ヘナシ。去レドモ逐條悉皆ヲ申上ゲシ上、陛下ガ斯クスベシトノ御決心ト、各大臣ノ御決心ヲ伺ヒタル上ナラデハ此書ヲ差上グル事

難シ。何ントナレバ本使ノ意見ヲ採用アラセラレザルニ於テハ、此書モ遂ニ徒勞ニ屬スルヤモ知ルベカラザルガ爲メナリ。又本書ハ日本假名交リナレバ、御閱覽モ如何ハシク存ゼラレ、旁々悉皆申上ゲシ上、御採用、否、及ビ御決心否ヤヲ伺ヒ、彌ヨ御採用アラセラレ、御實行アラセラル、事ト御決定ノ上ハ、漢文ニ翻譯シテ差上グル事ニ致シタシ。

大君主 長時間ニ互リ定メテ閣下モ億レシナラン。貴國 皇帝及ビ閣下ガ我國ノ爲ニ斯克カラ盡サル、ハ誠ニ感謝ノ外ナシ。又自國ノ事ヲ自國ノ者ガ處理スルコト能ハズシテ、斯ク他ノ力ヲ借ルト云フコトハ誠ニ面目ナキ次第ナリ。

井上 我 皇帝陛下始メ我ガ帝國一般ノモノハ熱心ニ貴國ノ爲ニ獨立ヲ計リ、貴國ノ自主國タルノ實ヲ舉ゲン事ヲ務メラレリ。陛下ガ先刻モ着々歩ヲ進ムベシトノ御意ハ誠ニ左ル事ナレドモ、這ハ甚ダ難事ナリ。難事ナレドモ能ク御決心ノ上御實行アララルベシトナラバ出來ザル事ナシ。去レド中途ニテ沮喪スル様ノ事アリテハ、到底此ノ事業ヲ成就スル事ナカルベシ。左レド難キニ堪ヘラレテ此ノ事業ヲ成シ遂ゲラレンニハ、陛下ハ實ニ貴國中興ノ大君主トナラセラルベキ儀ト存ズ。

就テハ本日申殘シタル箇條ハ、何レモ本日申述べタル箇條ト相牽聯致シ居レバ、願ク

バ至急ニ再ビ御引見降サル、事ト致サレタシ。何トナレバ時日ヲ經ルニ從ヒ自然義理ノ貫徹ヲ缺クノ虞レアルガ故ナリ。

大君主 然ラバ閣下ニ於テモ憊レ居ルベケレバ明後日トシテハ如何。

井上 (宮内大臣李載冕ニ向ヒ) 本使ハ成ルベク速カナランコトヲ欲スルガ故ニ、更ニ明日ト御決定下サル、譯ニハ相成リ難キカ、此儀然ルベク御取計ヒヲ請フ。

(李載冕氏右ノ趣ヲ言上ス)

國王 閣下ニシテ差支ヘナクバ明日モ可ナリ。然ラバ明日午後二時ヨリト定メ置クベシ。

井上 然ラバ明日午後二時ヨリ再ビ參内可仕、本日ハ誠ニ長時間ニ亘リ陛下ニ於カセラレテモ定メテ御憊レノ事ト恐察セラル、是レニテ退去致スベシ。

右ニテ一同退出、休憩室ニ至ル。

此日席上各大臣及ビ李竣鎔氏參ス。

謁見中國王御席背後ノ障子ノ隙間(一寸許リ)ヨリ王妃時々國王ニ耳語セラル、ヲ見ル。

陛下ハ御容顏麗シク始終微笑ヲ浮ベラレ、公使ノ言上ヲ一々御理解アラセラレシ體ニ見受ク。

席上李竣鎔氏二回席ヲ離ル、其度毎ニ公使宮内大臣ニ勸メテ席ニ付カシム。

休憩所ニテハ各大臣何レモ喜色アリ、殊ニ金宏集、李載冕、魚允中ノ三氏ヲ然リトス。

井上伯再内謁見筆錄

明治二十七年十一月二十一日、前日ニ引續キ内謁見ス、午後二時公使、各大臣謁見室ニ進ム、國王、世子宮既ニ出御アリ。

井上 (李載冕氏ニ向ツテ) 本日ハ李竣鎔氏ニハ御列席ナキヤ。

李載冕氏 本日ハ入闕ノ日取リナラズ、又大君主ヨリ列席スベキノ御命令モナシ、故ニ來ラズ。

井上 同氏ハ王族ノ御一人ニモアレバ、御列席相成ルコト、致サレタシ。閣下ヨリ君主へ言上セラレ、列席ノ事取計ハレタシ。

(李載冕氏此旨ヲ言上ス)

大君主 然ラバ直チニ呼ビ出スベシ。

(李載冕氏直チニ人ヲ派ス)

井上 昨日ノ例ニ依リ各大臣ノ外御退ケヲ願ヒタシ。

(此時國王及世子宮ニ侍スル内官二人退席ス)

井上 昨日ハ陛下ノ尊顔ヲ犯シ、種々言上致セリ。定メシ不敬ト覺召サル、ナラン。尙ホ長時間ニ亘リタレバ陛下ハ定メテ御憊レアラセラレシナラン。又各大臣モ同様御憊レナラント想像ス。

大君主 種々好キ事ノミヲ聽ケリ、決シテ耳ニ逆フ様ノ事ナシ、是レ皆當サニ行フベキコトナリ。隔意アルベカラズ。

井上 是レヨリ昨日申殘シタル箇條ヲ言上致スベシ。

第十、刑律ヲ制定スルコト。

是レハ刑法、民法等ノ法律ヲ制定スルノ必要ニシテ、刑法トハ主トシテ惡事ヲナセシ者ヲ處分スル法ニテ、民法トハ動産、不動産、人民相互ノ權利義務等ニ付キ、人民相互ノ間、若クハ政府ニ對シ、王室ニ對スル貸借等ノコトヲ規定スル法律ヲ云フ。刑法ハ二百條乃至三百條ニテ事足ルベシト雖モ、民法ハ千ヶ條モ要スルモノナリ。故ニ民法ノ制定ハ大事業ナレバ一朝ニシテナル可キモノナラズ。故ニ先ヅ第一着ニ舊律ヲ改正スルニ他國ノ刑法ヲ參酌シ、國情ニ適シタル刑律ヲ定ムル事差當リ必要ナリ。去レドモ安全ナル民法等ヲ制定スルコトハ決シテ等閑ニ附スベキモノナラズ。今ヤ貴國人

モ亦外國ニ渡航スルコトナレバ、法律ト云フコトハ最モ注意ヲ要スベキコトナリ。即チ現在ノ有様ニテ云ヘバ、自國ノ人ハ外國ニ往キ外國ノ法律ニ從ハザルベカラズ。而シテ外國人ガ朝鮮ニアルモ朝鮮ノ法律ニテ支配スルコト出來ズシテ、在留外人ハ其ノ外國ノ法律ヲ以テ支配スルコト、ナリ居レリ。是レ他ナシ、此國ノ法律ガ不完全ナルガ故、外國人ガ此國ノ法律ニ支配セラル、事能ハザルニ因ル。一體其國ノ法律ハ其ノ國內ニアル人ハ外國人タルト否トニ拘ラズ、一切之レヲ支配スベキニ、事茲ニ出デズシテ、外國人ハ外國ノ法律ニ依リ支配セラル、是レ即チ治外法權ノ害ヲ生ゼリ。故ニ刑法、民法、商法等ノ諸法律ヲ時勢ニ適合スル様、外國ノ法律ヲモ參酌シ制定セラルルハ、他年治外法權ヲ撤去セラレ國體ヲ保タル、ノ基礎ナレバ、決シテ忽諸ナルベカラザル事ナリ。

商法トハ即チ商業上ニ關スル一切ノ事ヲ規定スル法律ナリ。

大君主 日本今現ニ治外法權回復中ト聞ク、已ニ悉ク回復セシヤ否。

井上 然リ、近頃英國トノ間條約改正ナリテ既ニ之レヲ撤シ、又其他諸外國ト交渉中ナレバ遠カラズシテ皆之レヲ撤去スルニ至ルベシ。

是レ我ガ國ガ銳意以上ノ諸法律ヲ制定セシニ依ル、貴國モ亦之レヲ制定セラレテ他年

治外法權ヲ撤去セラル、事ヲ御務メアラセラレ、以テ國體ヲ保タセラレザルベカラズ。然シ之レハ中々ノ大事業ナレバ、五年、十年ニ成ル譯ニモ參ラザレバ、漸次ニセラルル事トシ、差當リノ急務ハ刑律ヲ制定セラル、事はレナリ。刑律ヲ制定セラレ、人民ヲ罰スルニ總テ此ノ刑律ニ依リ、此ノ刑律以外ニハ假令大君主ト雖モ濫リニ人民ヲ監禁懲罰セラル、如キハ一切之レヲ廢セラレザルベカラズ。斯クシテ人民其ノ途ニ安ゼバ、經國ノ基礎始メテ立ツナリ。又裁判官ノ獨立ト云フコトハ裁判ノ公平ヲ保ツコトニ最モ必要ナルコトナレバ、漸次適當ノ人物ヲ得ルニ從ヒ裁判官ハ行政官ヨリ分離シテ一ノ公署ヲ設置セラルベシ。

第十一、警察權ヲシテ一途ニ出デシムルコト。抑モ警察ハ行政上並ニ司法上必要ナルモノニシテ、國家ノ行政機關ニ缺クベカラザルモノナリ。就中其ノ要務ト云フハ、人民ノ生命財産ヲ保護シ、犯罪ヲ搜索スルノ具ニシテ、宜シク一途ニ出デシメザル可カラズ。故ニ適當ナル職權アルモノ、外、陰ニ陽ニ之レヲ用ヒ又ハ其ノ命令ヲ受クルコトヲ得ズ。

現今ノ如ク警察廳ナルモノ法務衙門ノ下ニアリテ、警察ノ職務ヲトルノ外ニ、巡捕、一名別巡檢ナル一種異様ノモノアルベカラズ。此等ハ職務ノ權限ヲ亂スノ基ナリ。須

ラク廢止セラレザル可カラズ。警察ノ職務權限並ニ警察官ノ登用ニ關スル規則ハ別ニ制定スルヲ要ス。

(此時國王各大臣ニ向ツテ別巡檢ナルモノアリヤ、予ハ嘗テ之レアルヲ聞カズ、如何ニト述ベラル)

内務大臣 別巡檢ハ巡檢ノ下ニアリテ使役ニ供セラレ、現ニ臣ガ衙門ニアル別巡檢ノ如キハ巡檢ニ使役セラレ居レリ。

大君主 予ハ斯カル事ハ毫モ知ラズ、巡檢ト別巡檢トノ二アルヲ聞カズ。

井上 巡檢ヲ置キ、別巡檢ヲ置キ、其ノ弊害タル一途ニ出デザルニアリ。今其ノ弊害ヲ云ヘバ、現ニ金鶴羽ガ暗殺セラレタル如キハ此者等ノ所業ナリト云フ、此ノ如クシテ如何ニシテ警察權ヲ鞏固ナラシムルヲ得ンヤ。

扱テ警察權ノ行政上ニ必要ナル點ヲ述ブベシ。假令ヘバ茲ニ之レヲ病ノ發生スルコトアリトセバ、其ノ傳染ト蔓延ヲ豫防スル爲ニハ患者アル家ヲ掃除シ、患者ノ衣類ヲ燒キ捨ツル等ノ事ヲモナサザル可カラズ。是レ其ノ病毒ノ蔓延シ他ニ傳染センコトヲ恐レ、豫メ之レヲ防止スル手段ナリ。之レ即チ警察ノ權利ヲ適當ニ用フルナリ、又作物等ニ害蟲ノ寄生セントキハ、他ノ田地ニ遷ルヲ防グ爲ニハ其ノ作物ヲ燒キ捨ツル等ノ

コトヲナス、是等モ亦警察ノ權利ナリ。又堤防ニ樹木ヲ植ユレバ、自然潰決ノ恐れアルガ爲ニ植付ケテ禁ズ、此等皆實ニ警察ノ權利ナリ。

故ニ凡百ノ行政上ニハ一トシテ警察ノ必要ナラザルハナシ、大君主陛下ヲ始メ各大臣トモ警察ノ必要缺クベカラザルモノナルコトヲ御了解ナルヤ否ヤ。

大君主 其必要ナルコトハ大概了解シ居レリ、日本ニテ警察ノ盛ンニ行ナハレ居ルコトヲ知ル。

(各大臣唯々)

井上 然ラバ法務大臣ニ向テ敢テ問ハン、警務廳ハ貴衙門ニ隸屬スト云フ、然ルニ巡檢ト別巡檢トノ二ツアルハ、其ノ利ノ宜シキヲ得タルモノト認メラル、ヤ。

法務大臣 巡檢ハ警務廳新設ニヨリ出來シモノナレバ、譏察、即チ盜賊偵察捕縛等ニ不熟ナル者共ナルガ故ニ、前捕廳ノトキニ譏察ニ從事シ居リシ巡捕ヲ其儘別巡檢トシテ差當リ譏察ノ事ヲナサシメ居レリ。

井上 貴大臣ハ先刻ヨリ本使ガ述べ居ルコトヲ御聞キ取りナサレシヤ、謂フ所ノ譏察モ亦警察ノ事務ナリ、然ルニ巡檢ト別巡檢トノ二ニ區別セラル、ハ何等ノ理由アルニ依ルヤ。

法務大臣 警務ノ事ハ警務使アリテ余ノ關セザル所ナリ、委細ハ承知致サズ。

井上 極メテ奇怪ノ御説ナリ、抑モ警務廳ハ貴衙門ニ隸屬シ、監督ノ下ニ非ラズヤ、然ルニ

大臣ガ其ノ事ヲ知ラズト云ハル、ハ果シテ如何ナル理由ナルヤ、本使ハ甚ダ其ノ意ヲ解スルニ苦シム。

法務大臣 事創設ニ係リ、一切ノ事未ダ定マラズ、故ニ然リ、漸次ニ改ムルコトト致スベシ。

井上 目下ノ最急務ナルニ漸次ニ改ムルハ甚ダ其意ヲ得ザルコトナリ、一日モ速カニ弊事ヲ除キテ事務ノ整頓ヲ期セザル可カラズ。

金宏集、魚允中氏 是レマデノ事ハ是非ナキ事ナリ、是レヨリ改ムル事ト致ス可シ。

井上 陛下ニ於テ本使ノ申上タルコトヲ御採用アラセラル、トセバ、本使ハ警察ノコト目下ノ急務ト思考スル故、一ツノ希望ヲ申上グベシ。他ニ非ラズ、今現ニ我が政府ヨリ當地ニ派遣シアル奏任官ナル武久警視ハ本使ガ本邦ニアリテ内務大官タリシトキ、本邦警察ガ内務省ニ屬スルガ故、親シク同人ヲ使ヒシ事アリ。同人ハ警察事務ニ通達シ居ルノミナラズ、同人ノ腦力ハ貴國ノ爲メ充分警察制度ヲ新定スルヲ得ベケレバ、同人ヲ直チニ警務廳ノ顧問官ニ御聘用アリ、速カニ警察制度ヲ布カレタランニハ宜シカルベシト存ズ。尤モ貴國財政困難ノ由ナレバ、俸給等ハ今差當リ取定メザルモ差支ナキコトナリ、此儀陛下ノ覺召ハ。

大君主 警務ハ最モ急務ナリ、公使ノ意ニ從ヒ顧問官ニ聘用スベシ。

井上伯再内謁見筆録

大君主 (此時大君主各大臣ニ向ハセラレ、右様スベシト命ゼラレ、各大臣唯々)

井上 今直チニ聘用アラセラレタシト申上グルニ非ラズ。

本使ノ意見ヲ逐一申述べタル上、御採用相成リ、彌ヨ御實行ト御決定アラセラレタル後ノコトト御承知アリタシ。

第十二、官吏ノ服務規律ヲ立テ、之レヲ嚴行スベキコト。

是レハ官吏タル者ハ宜シク其ノ職務ヲ盡クシ、且ツ清廉ヲ守ルベキ筈ナリ。賄賂行ナレ苟クモ不公平ナレバ、コレ紊亂ノ基ナリ、宜シク鑑ンミザルベカラズ。官吏ヲシテ清廉ナラシムルニハ、各々相當ノ俸給ヲ與ヘ、之レニ頼リテ位地ニ相當ナル衣食住ニ宛テシムベシ。現今ノ如ク地方官職ヲ鬻賣シ、若クハ請負的ノモノトナスガ如キ速カニ改メザル可カラズ。

地方官吏組織ノ改正ハ租稅課法ノ改正ト共ニ最モ必要ナリ。

此儀ニ付キ陛下ノ覺召ハ。

大君主 尤モノ事、カクセザル可カラザルコトナリ。

(各大臣唯々)

井上 第十三、地方官ノ權力ヲ限制シテ之レヲ中央政府ノ收攬スルコト。

是レハ從來ノ慣例ニテ、地方官ハ其ノ管轄ノ地内ニ於テ兵權及ビ裁判權ヲ有シ、且ツ中央政府ニ納ム可キ定稅外課稅ヲ隨意ニ徵收スルヲ得、此等ノ弊ハ皆賣官ヨリ來ルモノナリ。地方官タルモノハ、官職ニ付クニハ皆巨額ノ金員ヲ納メタルガ故、就官後ニハ人民ヨリ收斂スルノ結果ヲ生ズルナリ(此時大君主微笑)、賣官ノ弊ハ改革ノ時之レヲ嚴禁セシモ、尙ホ今後ニ此等ノ弊ヲ生ゼザルガ爲メ嚴重ナル制ヲ設ケザル可カラズ。右ハ適當ノ權力ナルノミナラズ、從來之レヲ恣ニ使用シテ人民ノ疾苦ヲ來セシガ故、宜シク適當ノ度合マデニ之レヲ中央政府ニ收攬シ、内務、度支等ノ衙門ニテ監督スルノ法ヲ設定セラルベシ。

此事ニ付キ陛下ノ覺召ハ。

大君主 夫等ノ弊一切嚴禁スベシ。

(各大臣唯々)

井上 第十四、官吏登用並ニ免黜ノ規則ヲ設ケ、私意ヲ以テ之レヲ進退スベカラザルコト。賄賂苞苴ハ之ヲ嚴禁スベシ。同時ニ官吏ノ登用並ニ免黜ノ規則ヲ設ケ、其進退黜陟、總テ公平ナラザル可カラズ。官吏ノ進退ニ私ヲ挾ムハ是レ自己一身ノミ顧ミテ國家ヲ顧ミザルノ弊ヲ生ズ。左レバ大君主ガ大臣ヲ進退スルニモ、大臣ガ所屬官吏ヲ黜陟ス

ルニモ、私恩又ハ私怨ヲ以テ之レヲ行フ可カラズ。其ノ職務ノ適否ヲ鑑ミ、規則ニ照ラシ、公平ヲ專一トシテ苟クモ一點ノ私心アル可カラズ。此儀ニ付キ陛下ノ思召ハ。

大君主 何レモソウセザル可カラザルコトナリ。

(各大臣唯々)

井上 第十五、勢力ノ爭奪又ハ猜疑離間ノ惡弊ヲ斷ジテ之レヲ止メ、政治上ニ復讐の觀念ヲ抱クベカラザルコト。

是レハ國政ハ宜シク公明ニ之レヲ處シ、一點ノ私心ヲ挾ム可カラズ。勢力ノ爭奪及ビ政治上ノ復讐ハ皆私慾私怨ヨリ生ジ、國家ノ紊亂亦是レニ基因ス。故ニ今日ヨリ其ノ念ヲ斷絶セザル可カラズ。本使ガ特ニ此一項ヲ入レシモノハ事偶然ニ出デシニ非ラズ。渡韓以來熟々當地ノ模様ヲ觀察スルニ、某ハ大院君ニ出入セリ、某ハ只管日本公使館ニ出入ス、某ハ誰ト、誰ハ某ト、互ニ斯カル事ヲ言ヒ合ヒテ猜疑シ、又誰レハ某處ニ出入スルガ故ニ何黨ナリ、何派ナリト稱シテ之レヲ相離間シ、而シテ其ノ目的ハ互ニ勢力ヲ爭フニ他ナラズ。目下ノ場合ニアリテ斯クアリテハ到底國政ノ舉グルベキ筈ナシ。此ノ如キ觀念ハ一切掃除セザル可カラズ。

大君主 誠ニ然リ、今後ハ何レモ疑ノ字又ハ黨ノ字ヲ全ク捨テザル可カラズ。

井上 仰セノ通り本使嘗テ大院君又李竣鎔氏ニ語リシコトナリ。或ハ日本黨、或ハ頑固黨、又ハ大院君黨、開化黨等ト互ニ相呼ンデ猜疑離間、斯クシテ其勢力ヲ爭フガ如キ有様ニテハ、到底政事ヲ行フコト能ハザルガ故、今ノ場合ニアリテハ各人トモ何レモ獨立黨ト云フ名ノ下ニ立チ、協心同力シテ國事ニ當リ、萬難ヲ排除シ國家ヲ安キニ置クヲ最モ勇氣ヲ持ツテ努メザルベカラザルコトナリ。各大臣ニ於テハ如何御考ヘナルヤ。

(各大臣何レモ唯々首肯)

第十六、工務衙門ハ未ダ必要ヲ認メザルコト。是レハ工務上ノ事務ハ現今ノ有様ニテハ、一ツノ衙門トシテ之レヲ置クノ必要ナカラシ。依テ現今ノ工務衙門ヲ農商衙門又ハ他ノ衙門ニ合併シテハ如何。

此儀ニ付各大臣ノ御考ハ。

魚允中氏 工務ハ成程閣下ノ御説ノ如ク只今ノ所デハ差當リタル事務モナケレバ、之レニ應ズルモ可ナリ。去レド追々工務上ノ事務生ズベケレバ存シ置ク方可ナラント考フ。

井上 財政ノ點ハ如何御考ヘナサル、ヤ。之レヲ一衙門トセバ大臣モ要シ、協辦モ要シ、參

議モ要シ、其他其レ相應ノ吏員モ要シ、費用モ要スベキナリ。本使ハ何ニモ工務ト云フコトガ全ク不必要ナリト云フニ非ラズ。目下財政困難ノ際ニモアレバ、只ダ衙門名アルガ爲メ多分ヲ費用スル必要ヲ見ズト言フ意ナリ。必竟農商衙門ナリ他ノ衙門ニ合セテ一局トナシ置カルレバ事足レリト信ズルガ故ナリ。事務モナキニ一ツノ衙門ヲ設ケ置カル、ハ誠ニ名實相伴フノ儀ニ反セリ。

魚允中氏

財政ノ點ヨリセバ本大臣ノ如キハ或ハ一二ノ衙門トスルモ可ナラント考ヘ居レリ。既ニ度支衙門ノ如キモ官吏定員ニ滿タザルモ、財政上ノ困難アルガ爲メ任命ヲモ差控ヘ居ル位ノ事ナリ。工務衙門ノ如キハ御説ノ如ク差當リ事務モナケレバ之レヲ置クノ必要モナケレドモ、諸事緒ニ就クニ從ヒ、漸次鐵路ヲモ開通シ、鑛山ヲモ採掘スルニ至ルベシ。又電信ノ如キハ既ニ其事務アリ、又郵便ノ如キモ往クハ工務衙門ニ結ビ付ケテ開始スベキ筈ナレバ、差當リ同衙門ヲ置クノ必要ナキモ、既ニ設ケアルモノニモアリ、又行クハ事務ノ生ズベキ事ナレバ、之レヲ廢スルニハ及バザル可シト考ヘラル。

井上

本使ハ此事ニ付第一ニ同意セラル、ハ度支衙門ナラント思ヒ居リシニ、是ハ餘リニモ意外ノ事ナリ。只今ノ御説ノ如クスレバ、未ダ子ヲ擧ゲザルニ先ヅ名ヲ付ケテ置クト

云フニ異ナラズ、名實相反スル事甚ダシカラズヤ。

魚允中氏

然リ、然レドモ子ト云フ名ハ既ニアリ。

井上

工務ト云フ事ハ全ク廢セント云フニアラズ、工務ト云フ名アルガ爲メ、工務衙門ト云フ名ヲ付ケザルベカラズト云ハル、ハ、恰モ子ト云フ名アルガ爲メ、未ダ産レザルニ子ニ名ヲ付クト云フガ如シ。此ノ如ク名實相伴ハザル事ヲナスハ目下ノ急ナラズト思フガ故ナリ。工務ハ某衙門ノ一局トセバ事充分ナリ。

金宏集、

魚允中氏 君前ノ事ニモアリ、斯ク争ハズ、後ニテ各大臣協議ノ上、兎モ角モ致スベシ。

大君主

(各大臣ニ向ハセラレ) 農工衙門トスレバ字句ハ如何ナルヤ、兎モ角モ各大臣協議スベシ。

井上

然ラバ左様致スベシ。本使ガ只今ノ争ノ如キハ是レ實ニ事國政ニ關スルガ故ナリ。此ノ如ク君主ノ前ヲモ憚ラズ、相争フ様ニシテ國政ヲ議セラル、ハ最モ然ル可キ事ト考ヘラル。徒ラニ大君主ノ御震怒ヲ恐レ、御前ニテハ只ダ體ヨクノミ取計ハレ、唯々是レ事トセラル、ハ是レ臣下ガ國家ニ對シ忠良ヲ缺クト申スモノナリ。此ノ如クニシテ國政ノ擧ガル可キ筈ナシ。本使ハ故ニ各大臣ガ今後國政上ノ事ニ付キ充分御論議ヲ盡

井上伯再内謁見筆錄

サレ、時ニハ争ハル、マデ議ヲ盡サレンコトヲ望ム。

第十七、軍國機務所ノ組織權限ヲ改ムルコト。

是レハ軍國機務處ノ權限稍ヤ大ニ失スルガ故、今之レガ組織ヲ改良シ、法令ハ各衙門ニ於テ之ヲ立案シ、大君主ノ御裁可ヲ乞フ前ニ軍國機務處ニ諮詢スルコトニ定メ、軍國機務處自ラ立案スルコトヲ得ザル様改メラレタシ。(此時公使立ツテ官報ヲ國王ノ卓上ニ差出サレ、機務處議案啓下ニ係ル開國五百三年七月三日發兌官報トアル一項ヲ國王ニ示サル)、此ノ如ク現今機務處ノ權限ハ宏大ニ失シ、機務處ニテ法令ヲ議決シ、議政府及ビ各衙門ヲシテ執行セシムルガ如キ有様トナリ居レリ。此ノ如クンバ從來機務處議員中ニ才幹アル者生ゼンニハ、機務處ハ或ハ議政府及ビ各衙門ヲ凌駕シ使役スルコトトナル可シ。是レ國政紊亂ヲ致スノ基ナレバ、今之ヲ改メ各衙門ニ於テ立案セシモノヲ機務處ニ與ヘテ其ノ可否ヲ諮詢シ、而シテ機務處可否ノ議ヲ採用スルト否トノ權ハ一々各衙門大臣ニアル事トセバ甚ダ宜シカラシ。

大君主

日本ノ元老院ノ如クセバ可ナラン。議政府ヨリ權限多キハ惡シカラシ、閣下ノ言ニ從フベシ。

(各大臣何レモ異見ナシ)

井上

第十八、事務ノ必要ニ應ジ、各衙門ノ事務ニ熟練シタル顧問官ヲ聘用スルコト。此事ニ付キ陛下ノ思召ハ。

大君主

聘用スル事トスベシ。

(各大臣、以前既ニ聘用ノ事ト定メアルコトナレバ、今更ラ異議アルベキ事ナラズト述ブ)

井上

第十九、留學生ヲ日本ニ派遣スルコト。

是レハ顧問官聘用ハ一時ニシテ久シクスベキコトナラザレバ、其間ニ於テ是非人才ヲ養成シテ他日顧問官ヲ要セザルヤウ豫メ準備ヲ爲シ置カル可キナリ。從來日本へ留學セシ貴國學生モ多カル可ケレ共、何レモ自己ノ勝手ニ修學スルガ故ニ、兎角事普ネカラザルノ觀アリ。今後ノ留學生ハ是非トモ豫メ科目ヲ定メテ修業セシムル事ト致サレ度シ。

大君主

此ノ事ハ最モ急務ナリ、直チニ派遣スル事トスベシ。

(各大臣何レモ唯々)

井上

本使ガ言上セント欲スルハ以上ノ十九ヶ條ナリ。

扱テ陛下始メ各大臣ハ本使ガ兩日ニ互ツテ言上セシ事ヲ一々御實行アラルベキヤ。

井上伯再内謁見筆錄

大君主 何レモ宜シキ事ナリ、天下ノ大勢既ニ斯クナル以上ハ、我國トテ改革ヲ實行セザル可カラザルハ固ヨリナリ。

井上 之レヲ口ニスルハ易シト雖モ、之レヲ行フヤ實ニ難シ、陛下ガ之レヲ御實行アラセラレントナラバ、非常ナル御困難ニ堪ヘラル、トノ御勇氣御決心アラセラレザルベカラズ。先ヅ第一ニ王室、即チ大院君、李竣鎔氏、若クハ外戚ノ御方々ト國政上ノ御關係ヲ斷タル、ノ御困難ニ堪ヘラル、御勇氣、御決心アラセラレザルベカラズ。若シ陛下ニ於テ井上ガ來リテ強ヒテ斯クセヨト迫ルガ故、兎モ角モ行フコトトスベシト云ハルルガ如キコトナラバ、改革ノ大事業、貴國獨立ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルノ大事業ハ、到底成就スルコト覺束ナシト存ズ。只ダ一時ノ御決心ニテハ只今着手スルモ、又直チニ幾多ノ弊害ニ遮ギラレ、中途ニ蹉跌スベケレバ、寧ロ始メヨリ着手セザルニ如カザルベシト存ゼラル。然レドモ若シ陛下ガ是非トモ斷行セラルベシトノ御決心ニモアラバ、獨立ヲ鞏固ナラシムルヲ得ルノミナラズ、貴國中興ノ大事業ヲ成シ遂ゲラル、事疑フベキナシ。識ラズ、陛下ノ思召又ハ各大臣ノ御意見ハ。

(此時大君主ノ背後ノ障子ノ隙間ニアリテ、王妃ト覺シク、切りニ大君主ト耳語セラル)

大君主 (各大臣ニ向ハセラレ) 凡ソ一事ヲ舉ゲントナラバ、一事ヲ取ツテ直チニ之レヲ行フベシ。若シ行ハレザルトキハ夫レマデナリ。

金宏集氏 行ハレザル時ハ即チ國ノ亡ブルナリ、是非行フベキコト存ズ。

大君主 閣下ノ言、委細承知セリ、之レヲ行フニ付テハ困難モアルベケレドモ左程心配スルニ及バズ。

(此時點燈ス)

井上 斯ク本使ノ言上スル所一々御採用アラセラル、コトナラバ、本使ハ尙ホ茲ニ一、二申上グルコトアリ。即チ獨立ノ基礎ヲ鞏固ニスル爲ニ、内政改良ヲナシ、清國トノ關係ヲ斷タル、ト云フ國是ノ變更ヲ宗廟ニ誓ハレ、且ツ全國ニ宣布セラル可キコト是レナリ。現今ノ有様ニ依ルニ、貴國官吏ノ内ニサヘモ、尙ホ國是ノアル所ヲ知ルモノナシ。況ンヤ國民一般ヲヤ。故ニ斯ク國是ヲ御改メ相成ルニ付テハ、是非之レヲ宗廟ニ誓ハレ、之レヲ國民ニ頒布セラレザルベカラズ。

大君主 宗廟ニ誓フトハ。

金宏集 我が國ニテ宗廟ニ告グル事ナリ、凡ソ斯カル大事ニ當リテハ、我が國ノ古例ニヨルモ宗廟ニ告ゲテ國中ニ公布セラルベキ事ナリ。

井上伯再内謁見筆録

大君主 然ラバ斯克スベシ。

井上 今一ヶ條ハ六月二十四日陛下ガ大院君ニ降サレシ御委任(傳曰、凡今庶務遇有緊重事件先爲就明干大院君)、(傳曰、各國事例其軍務皆歸親王管轄本國則海陸軍務進明干大院君前裁法)ノ二條ヲ朗讀ス。此ノ如キモノノ存住スルハ御親政ノ儀ト違フガ故、右御取消ノ御傳教ヲ下サル、ハ甚ダ必要ノ事ト存ズ。

(此時、大君主傳教ノ語ニ付キ先ヅ少シク躊躇セラル)

金宏集

大院君ハ位尊キ御方ナレバ、直チニ御傳教ト申スハ同君ノ御面目ニ係ハル事モアラン、此事ニ付キ閣下ガ斯克言上セラレシ趣ヲ大院君ニ申上ダレバ、同君ヨリ御辭退アラセラルベキハ必要ナリ(此時李載冕氏モ同様ノ事ヲ述べラル)、兎モ角御委任ヲ解カセラル、コトトナラバ、手續キハ如何ニテモ宜シカラン。

井上 左様ナリ。

大君主 然ラバソウスベシ。

井上 政事上ニハ王族又ハ外戚ノ御容喙ヲ斷タセラレ、本使言上ノ各條一々御實行アラセラル、ハ至難ノ事ナリ。能々御決心アラセラルベキ儀ナリ。陛下ガ此ノ至難ノ事業ヲ御成就アラセラレ、獨立ノ基礎ヲ鞏固ナラシメラル、ハ、即チ貴國中興ノ大事業ヲ成就

セラルノ儀ニシテ、實ニ貴國ノ爲メ非常ニ御幸福ナルノミナラズ、我 皇帝陛下ノ御
窺慮モ達セラレ、輦下ニ駐在スル本使ニ於テモ面目ノ至リニ堪ヘズ。尙ホ御再考ヲ願
フ。

大君主 天下ノ形勢斯克ノ如クナル以上ハ、實行スベシ。

(此時大君主各大臣ニ向ハセラレ、實行ヲ務ム可キ旨御下命、各大臣唯々)

井上 然ラバ兩日ニ引續キ言上セシ次第ヲ漢文ニ認メ差上ゲン。右ニ付キ自然御分リ相成ラザル廉モアラセラルレバ、何時ニテモ御下命次第參内仕ル可ク、又本使ニ於テ言上致シ度次第モ有之、今後御引見ヲ願出ヅルコトアルベシ。

大君主 予モ用アラバ招クベシ、又閣下ニ於テモ用アラバ何時ニテモ來ラルベシ。

井上 本日モ亦長時間ニ互リ御憊レノ事ト存ズ、退出致スベシ。

大君主 否、予ハ毫モ憊レズ、閣下コソ憊レシナラン。

(是ニ於テ公使退出。大君主、各大臣ニ居殘ル可キ旨御命令、宮内大臣、外務大臣ノミ公使ニ隨ヒ退出、休憩所ニ至ル)

朝鮮改革ニ付井上伯ノ意見

對韓政略ニ關シテハ先日大要通報申候。御承知相成事ト存申候。王妃、大院君、李竣鎔ハ實ニ朝鮮内政改革ノ前途ニ横ハル妨害物ニ候。此等妨害物ノ勢力ヲ羈絆シタル上ナラデハ、到底何等ノ改革ニ着手スルモ無益ノ儀ニ候間、本官赴任以來第一着ニ此等妨害物ヲ箱制スルノ策略ヲ取り、大院君、李竣鎔等ガ一方ニハ巧言令色我ガ媚ヲ求メ、同人等ニ異圖陰謀アリト云フハ全ク讒者ガ日本ニ向ヒ離間ヲ試ムルノ策ナレバ、信用ヲ置カザラン事ヲ願フナド甘言ヲ以テ我ヲ欺キ、一方ニハ開化黨ノ者ヲ恐嚇シ、日本ニ對スル依頼心ヲ絶タシメントシ、種々ノ手段ヲ以テ從來ナセシ謀略ヲ掩蔽セント障害ヲ試ミタルニ係ラズ、彼等ガ爲セシ陰謀密計ノ事實ヲ掌握スル事ニ着手シ、大院君等ガ平壤ニアル清將ニ其ノ内意ヲ通ゼシメタル書柬ハ曩キニ御送致相成リ、此中ニ國王ヨリ其密旨ヲ通ゼシメタル書柬モアリ、又李竣鎔ガ部下ニ内命シ、東學黨煽動ノ爲メ某首領等ニ送りタル書柬モ我手ニ入りタレバ、此等ノ證據物ヲ以テ表面ヨリハ金宏

集、金允植、魚允中ニ向ヒ（十一月八日）貴官等ハ百事我ガ日本ニ依頼スルトテ言ヲ飾ラレドモ、此證據ヲ見ラレヨ、現ニ貴國ガ我國ニ向ヒ東學黨ノ鎮撫ヲ請ヒ、及ビ我國ト同盟シ清兵ヲ征討スルノ約ヲ結ブニ係ラズ、斯ノ如ク國父トシテ廷臣ヨリ尊敬セラレ、且ツ恐怖セラル、大院君並ニ其愛孫等ガ陰カニ清將等ト共謀シテ東學黨ト相應ジテ我兵ノ驅逐ヲ企ツルノ有様ニテハ、我ガ帝國ノ厚意モ是レマデナリ。最早我國モ朝鮮國ヲ扶持シ朝鮮ノ獨立ヲ助ケントスルモ無益ナリト言ヒシニ、彼等三人顔色ヲ失ヒタリ。又裏面ニハ岡本柳之助ヲ大院君ノ許ニ遣シ、岡本ノ意ヲ以テ同人ガ六月二十三日大院君ガ王宮ニ入ルコトヲ盡力セシモ、皆信ヲ大院君ニ措キシヲ以テナリ。然ルニ公使ヨリ證據物ヲ示サレテ始メテ大院君ノ陰謀ヲ知リタリ、圖ラザリキスクマデニ同君及ビ愛孫等ガ日本ニ向ヒ不利ノ企謀アラントハ、實ニ驚愕ノ外ナシ。斯クテハ我等モ我が國ノ敵ナル同君等ヲ助クルノ途ナシト迫ラシメタレバ、彼等モ茲ニ至リテハ其ノ陰謀ヲ隱蔽スルノ術ナク、謝罪スルノ已ムヲ得ザルノ窮途ニ迫リ、國王ハ金宏集ヲ我が公使館ニ遣シ（十日）謝罪ノ意ヲ表シ、大院君モ公使館ニ來リ從來ノ罪ヲ謝シ、今後ハ政治ニ喙ヲ容レザルベシト述べ、李竣鎔モ亦同様自ラ公使館ニ來リ、是レマデノ舉動ニ對シ謝罪ノ意ヲ陳述シタリ。委細ハ別紙談話筆記ニ付テ御承知相成度候。左レバ大院君、李竣鎔モ最早其ノ暴戾詐誦ヲ擅ニシ、政治上ニ容喙スルコトナカルベシト思考候へ共、口ト心トハ常ニ相違シテ決シテ

信用ヲ置ク能ハザルハ朝鮮人ノ常ニ候ヘバ、敢テ安心トハ申難ク候。次ニ大院君ト同様内政改良ノ妨害物タルハ〇〇ニ御座候。左レバ大院君ノ暴戾ヲ羈伴スルモ、〇〇ノ跋扈ヲ制セザレバ畢竟暴ヲ以テ暴ニ代ユルモノニシテ、一ヲ抑制ンテ他ノ跋扈ヲ助クルニ過ギズ。依ツテ毒ヲ以テ毒ヲ制スルノ手段ヲ取り、大院君ヲシテ國政ニ容喙能ハシメザラシムト同時ニ、宮闈内ニアリテ〇〇ヲ制御スルノ具ニ供シ、併セテ大院君ヲシテ失望ノ途ニ陥ラザシメザルノ手段ヲ取ルベキ積リニ御座候。扱テ此等ノ妨害物ヲ制御シ内政改良ノ道ヲ開キタル以上ハ、是レマデ反目敵視シタル開化黨、頑固黨ヲシテ敵讎ノ念慮ヲ去リ、朝鮮ノ獨立ヲ鞏固ニスルノ黨トナリテ内政釐革ノ事ニ協心戮力セシムル事必要ナリ、本官モ（公使ノ資格ニアラズ顧問ノ資格ヲ以テ）去ル二十日、二十一日ノ兩日參内内謁見各大臣列座ノ上、別紙改革ニ關スル要領二十ヶ條ヲ奏上致シ、採用スルトノ決答ヲ取り、委細ハ不日筆記ニテ御通報可致候。第一ハ落着シタレドモ第二ノ内政改良コソ中々ノ難事ニ御座候。

數百年來習慣トナリタル惡弊ノ根蒂ハ、中々一朝一夕ニシテ之レヲ芟除スル能ハザルコト元ヨリ當然ノ理ニハ候ヘ共、内政ノ改良ニ關シテハ官廳ノ職務權限及ビ君主權等ノ事ニ説キ及ボスモ、其ノ文字ノ意味スラモ理解スル能ハズ、君主權ト云ヘバ恣ニ人民ノ生命財産ヲ與奪スルノ權トノミ解シ、此ノ如キ專横ナル權力ハ宜シク制限スベシト説ケバ、直ニ國會ヲ開設シ、諸

事人民ノ承諾ヲ要スルト誤解スルナド、其ノ蠢愚ナル實ニ意想外ナリ。腦裡只ダ自己アルヲ知リテ國家ノ何物タルヲ知ラズ、頑愚ニ向ヒ内政ノ改良ナドヲ説クハ、恰カモ小學校ノ兒童ニ向ヒ政治談ヲナスト一般ナリ。

顧ミテ内政ノ有様ヲ見レバ、地方官ハ總テ請負的營業ニテ、地方官職ハ競走的ニ最高價ヲ拂ヒタルモノニ落札シ（一例ヲ聞ケバ慶尙道監司ノ官ハ凡ソ我ガ金ニシテ十萬圓位ナリ）、落札者ハ地方ニ赴任シタル後、人民ヨリ苛稅ヲ收斂シテ曩キニ官職ニ向ツテ支拂ヒタル價ヲ償還スルノ慣例ナリ。又租稅及ビ公用金等ヲ徵收スルヲ得ル公署ハ七、八ヶ所モアリテ、之レヲ統一スルモノナシ。就中尤モ奇怪ナルハ春坊（東宮職）及ビ明禮宮（皇宮官職）ハ各徵收ノ特許證ヲ與フルヲ得ルノ慣例ナリ。

何人ニテモ金ヲ出ストキハ此ノ特許證ヲ得ルナリ、之レヲ憑文ト云フ。此ノ憑文ヲ所持スルモノハ河川若クハ道路ニ於テ自由ニ關テ設ケ、通過ノ貨物ニ課稅スルヲ得ルナリ。是レ單ニ一例ヲ舉ゲタルニ過ギズ。此ノ如キ内政ハ百事亂麻ノ如ク、殆ンド收拾ス可カラザル有様ニ御座候ヘ共、之レヲ整理シテ改良ノ緒ニ就カシムルコト非常ノ難事ニ御座候。就テ第一宮室ノ組織行政機關ノ組織權限等ヲ制定スルコト必要ニ御座候間、先日電報ノ通り山脇評定官、若クハ中根書記官長ノ中一名、能文ノ官吏一名ヲ隨ヘ至急出張御命ジ相成度、又當國財政ノ有様ハ實ニ

非常ノ窮乏ニ加フルニ、平安、黃海ノ二道ハ日、清戰爭ノ爲ニ蹂躪セラレ、全羅、忠清ノ二道及ビ慶尙ノ一半ハ東學黨ノ掠奪ニ遇ヒタル上、猶ホ朝鮮兵ノ爲メ掠略セラレタル有様ナレバ、到底今年ノ租稅ヲ徵收スルノ見込ミナシ。殘ル三道ノ中、江原道ハ山嶽多クシテ原野少ナク、咸鏡道ノ租稅ハ從來俄境ヲ守ル兵備ニ充ツルノ例ナリ。此ノ如キ狀況ニシテ本年朝鮮國ノ歲入ハ到底歲出ト相償フコト能ハザルヤ明カナリ。左レバ諸事冗費ヲ節減シ、十分ノ節約ヲ務メタル上、猶ホ不足アレバ我國ヨリ惠貸スルノ他ナカルベシ。右ニツキ財政ノ現況ヲ恢復センニハ、先ヅ當國毎年ノ歲入額ヲ調査シタル上、財政ノ整理ヲ計畫スルコト實ニ目下ノ須要ニ御座候間是レ又先日電報ノ通り收稅ノ事務ニ熟練ノ高等官吏一名、屬官吏一兩名ヲ隨ヘ出張ノ儀至急御取計相成度候。此等ノ人物ハ目下朝鮮政府ノ顧問ナレドモ、未ダ報酬ヲ與ヘシムル積リニハ無之候間、其邊ハ御含ミ相成、在官ノ儘單ニ出張御命ジ相成度候。併シ乍ラ内政改良ノ端緒相着キ候ニ從ヒ、漸次ニ顧問トシテ適當ノ人物入用ニ應ジ聘用ノ儀ニ可有之候。

小官出發前御話ノ鐵道並ニ秘密條約ニ關スル書類、今ニ御送り無之候間早速御送可被下度候。

明治二十七年十一月二十四日

特命全權公使 伯爵 井 上 馨

外務大臣 子爵 陸 奧 宗 光 殿

井上伯ヨリ韓國皇帝ニ捧呈セル 内政改革要目書

清國ニ隸屬スルノ心ヲ斷チ、今後朝鮮國ノ獨立ヲ鞏固ナラシムルコトヲ圖ルニ於テ緊急ノ條項大略左ノ如シ。

一、政權ハ總テ一ノ源流ヨリ出ヅルコト。
大君主ハ政權ヲ統一シ、號令皆大君主ノ親裁ニ出ヅベキハ理ノ當然ナリ。若シ大君主ノ外ニ陰ニ陽ニ大君主ト同等ノ政權ヲ掌握スルモノアランニハ、命令數途ニ出デ號令一ナラズ、廷臣何ニ賴ツテ政ヲ行フコトヲ得ンヤ。有司百官ノ各忠良ニ職務ヲ盡スニ由ナシ、凡百ノ弊害之レヨリ生ズベシ。當國ニテハ是レマデ數人ノ君主アル有様ナリ。此ノ弊速カニ矯メザル可カラズ。大院君ハ君ニモアラズ亦臣ニモアラザレバ、決シテ國政上並ニ廷臣ノ進退黜陟ニ喙ヲ容レラズ、大君主ノ親裁ニ出ヅルコト緊要ナリ。

王妃モ亦同様ノ儀、大院君等宮内大臣ニ申込ミタレバ御聞取アリテ御確守アリタシ。

二、大君主ハ政務ヲ親裁スルノ權アルト同様、同時ニ法令ヲ守ルノ義務アルコト。

但シ法令トハ別ニ定ムル所ノ法令規則ニ從ヒテ制定公布セラル、モノヲ言フ。

國政ハ大君主之レヲ直接ニ大臣ニ諮詢シタル後裁斷シ、百事並ニ官吏ノ進退黜陟モ只ダ大君主ノ專横ニ處斷シ、其ノ意志ノ儘ニスベカラズ、百官人民ヲシテ遵據セシムル爲メ一タビ法令ヲ出ス時ハ（其法令規則ヲ變更セザル限リハ）臣庶ハ申スマデモナシ、假令大君主タリトモ擅マニ之レヲ破ルコトヲ得ズ、法令規則ノ範圍内ニ於テ政ヲ行フベシ。

三、王室ノ事務ヲ國政ノ事務ヨリ分離スルコト。

朝鮮國從來ノ習慣ニテハ人民ノ生命財産ハ王室ノ一命令ノ下ニ與奪セラレ、上君主ヨリ下人民ノ腦裏ニ王室ノ外又國家ナルモノナシ。是レ王室一家ノ事務ト國政事務トヲ混合スル原因ヨリ生ズル大弊害ナリ。承候、内官等ノ者ガ國政又ハ官吏ノ進退等ニ干渉スルノ弊ハ宜シク速カニ廢止セザルベカラズ。此ノ如キ弊ハ皆此ノ混合ヨリ生ズ、王室事務ハ官内府全ク之レヲ司リ、國政事務ハ總理大臣、各衙門大臣之レヲ行フ、宮内府ノ官吏ヲシテ喙ヲ國政ニ挾ム事ヲ得ザラシム可シ。故ニ大君主ハ法令規則ニ定メ

タル手續ヲ離レ、猥リニ國務大臣並ニ國勢ニ預カル重職以外ノ者ニ國政上ノ事務ヲ涉議スベカラズ。

四、王室ノ組織ヲ定ムルコト。

王室ノ鞏固ハ國家鞏固ト相待テ相離ルベカラズ。依ツテ王室ニ關スル制度及ビ其ノ組織ヲ定ムルコト必要ナリ。

五、議政府及ビ各衙門ノ職務權限ヲ定ムルコト。

議政府並ニ各衙門ノ組織及ビ職務權限ヲ定ムル爲メ法令規則ヲ定メザル可カラズ。

六、租稅ハ度支衙門ノ統一ニ歸セシメ、人民ニ課スル租稅ハ一定ノ率ヲ以テスルノ外何等ノ名義方法ニ係ラズ、之レヲ徵收スベカラザルコト。

從來當國ニテハ租稅ヲ徵收スルノ公署ハ宮内其ノ他ニ七、八ヶ處モアリテ、其ノ收入ハ各自ニ之レヲ支出セリ。右ノ外尙ホ春坊及ビ明禮宮ヨリハ憑文ヲ發シテ一種特別ノ徵收ヲナスコトヲ得ルノ習慣ナリ。此ノ如ク各處ニテ勝手ニ徵收シ、各處ニテ自由ニ支出スルハ第一王室ト國政事務トノ費用ノ區別ヲ混同シ、第二ニ財政ノ統一ヲ缺クモノナレバ、宜シク收入、支出共ニ度支衙門ノ權限ニ處セシムベシ。右租稅ノ外ニ官吏ガ私カニ收斂シ、甚ダシキニ至ツテハ其レノ之レヲ拒ムモノヲ恣ニ監禁處罰スルノ弊

アリテ、人民各其業ニ安ンジ其ノ勞働ノ利益ヲ享有スルコト能ハズ。斯クテハ一國ノ富ヲ致スコト能ハズ、人民ヲシテ各其業ニ安ゼシメンニハ濫リニ人民ノ財産ヲ侵掠セザルヤウ一定稅則ヲ定メ、一ニ之レニ據ラシムベシ。而シテ富國ノ基、始メテ立ツコトヲ得ベシ。

七、歳入、歳出ヲ計ツテ財政ノ基礎ヲ定メ、王室並ニ各衙門ニ要スル費用ノ額ヲ豫定スルコト。

入ルヲ量リテ出ルヲ制セザル可カラズ。毎年ノ歳入ヲ豫定シ、國家財政基礎ヲ定メ、之レニヨリ王室並ニ各衙門等ノ經費額ヲ一定セザル可カラズ。思フニ當王室並ニ政府ノ官吏ハ、事務ノ割合ニ比シテ過多ニ失スルモノナリ。此等ハ費用ノ節減上宜シク適當ノ員數ヲ定メ、冗員ヲ淘汰スベキモノナリ。

八、軍制ヲ定ムルコト。

凡ソ兵權ハ大君主ニ屬シ一途ニ出ヅルヲ要ス。現今ノ如ク之レヲ多頭將帥ノ下ニ分屬セシム可カラズ、且ツ軍備ハ國ノ基礎ヲ立ツルニ缺ク可カラザルモノナレバ、少ナクトモ内亂ヲ鎮撫スルニ十分ナル兵力ヲ養フヲ必要トス。依ツテ歳入、歳出豫算ヲ立テ節減シ得ル丈ケノ費用ヲ節減シタル上、歳入ノ幾分丈ヲ軍備費ニ充ツルヲ得ルヤウ算

定セザル可カラズ。扱テ軍備ノ基礎ヲ立テシニハ、先ヅ士官ヲ養成スルノ途ヲ開キ、兵學ノ知識及ビ經驗ヲ有スル者ヲ將校ニ任用シ、漸次軍備擴張ノ緒ニ就クベシ。然レドモ歳入ヲ度ラズシテ徒ラニ軍備ヲ擴張セントスルハ財政ヲ紊亂スルノミ、鑑ミザル可カラズ。未ダ陸軍制度モ立タザルニ海軍制度ナドハ元ヨリ無用ナラン。是ハ他日陸軍ノ基礎ヲ鞏固ニシタル上、歳入ノ餘裕アラバ之レニ充ツルモ可ナリ。

九、百事虚飾ヲ去リ誇大ノ弊ヲ矯ムベキコト。

凡ソ百事王室ヨリ各衙門ニ至ルマデ誇大ヲ構へ、華飾自ラ得意トスルハ當國ノ弊ナリ。之レガ爲メ王室並ニ國政上ニ於ケル冗費頗ル多カラン。此等ノ弊ハ速カニ之レヲ矯正シ、且ツ目下不必要ノ物品ヲ購求シ、並ニ前途維持ノ方法ヲ攻究セズシテ不急ノ事業ヲ起ス等ノ事アル可カラズ。王室タルモノハ此際宜シク卒先シテ諸事ニ節儉ヲ勉メ、以テ冗費ヲ除キ臣民ノ模範ヲ示ス可シ。

十、刑律ヲ制定スルコト。

刑法、民法等ノ法律ヲ制定スルコト必要ナレドモ、民法ノ制定ハ大事業ナレバ一朝ニ成ル可キモノニアラズ。先ヅ第一着ニ舊律ヲ改正スルニハ他國ノ刑法ヲ參酌シ、國法ニ適シタル刑律ヲ定ムルコト差當リ必要ナリ。人民ヲ罰スルハ總テ此ノ刑律ニ依リ、

此ノ刑律以外ニハ假令大君主ト雖モ濫リニ人民ヲ刑罰スル能ハズ。從來諸官吏又ハ權門閥族ガ擅マニ人民ヲ監禁懲罰シタルガ如キ、一切之レヲ廢スベシ。斯クシテ人民各其ノ途ニ安ジ、經國ノ基礎始メテ立ツ矣。抑モ裁判官ノ獨立ハ裁判ノ公平ヲ保ツニ最モ必要ナルガ故ニ、漸次適當ノ人物ヲ得ルニ隨ヒ裁判官ハ行政官ヨリ分離シテ一ツノ公署ヲ設置スベシ。

十一、警察權ヲシテ一途ニ出デシムルコト。

抑モ警察ハ行政上並ニ司法上必要ノモノニテ、國家ノ行政機關ニ缺クベカラザルモノナリ。就中其ノ要務ト云フハ人民ノ生命、財産ヲ保護シ、犯罪ヲ捜査スルノ具ニシテ、宜シク一途ニ出デシメザル可ラズ。故ニ適當ナル職權アルモノノ外、陰ニ陽ニ之レヲ使用シ、又ハ其命令ヲ受クルコトヲ得ズ。現今ノ如ク警察ノ職務ヲ掌ルノ外ニ巡捕、一名別巡檢ナル一種異様ノモノアル可カラズ、警察ノ職務權限並ニ警察官ノ登用ニ關スル規則ハ別ニ制定スルヲ要ス。

十二、官吏ノ服務規律ヲ立テ之レヲ嚴行スベキコト。

官吏タルモノ宜シク其ノ職務ヲ盡シ、且ツ清廉ヲ守ル可シ。賄賂行ハレ不公平ナルハ政事紊亂ノ基ナリ。宜シク鑑ミザル可カラズ。官吏ヲシテ清廉ナラシメンニハ、各相

當ノ俸給ヲ與ヘ、地方ノ官職ヲ嚮買シ、若クハ請負的ノモノトナス如キハ速カニ改メザル可カラズ。地方官吏組織ノ改正ハ租稅賦課法ノ改正ト共ニ必要ナリ。

十三、地方官ノ權力ヲ制限シテ之レヲ中央政府ニ收攬スルコト。

從來ノ慣例ニテハ地方官ハ其管轄地内ニ於テ兵權及ビ裁判權ヲ有シ、且ツ中央政府ニ納ムベキ定稅ノ外、苛稅ヲ隨意ニ徵收スルヲ得タリ。此等ノ弊ハ皆賣官ヨリ來ルナリ。地方官タル者ガ官職ニ就クニハ皆巨額ノ金員ヲ納メタルガ故ニ、就官後ニハ人民ヨリ收斂スルノ結果ヲ生ジタルナリ。(賣官ノ弊ハ改革ノ時之レヲ嚴禁セルモ、尙ホ此等ノ弊ヲ今後ニ生ゼシメザル爲メ嚴重ナル制ヲ設クベシ)右ハ適當ノ權力ナルノミナラズ、從來之レヲ恣ニ使用シ、人民ノ疾苦ヲ來スニ付キ、宜シク適當ノ度マデ之レヲ中央政府ニ收攬シ、内務衙門及ビ度支衙門等ニテ監督スルノ法ヲ設定スベシ。

十四、官吏登用並ニ免黜ノ規則ヲ設ケ、私意ヲ以テ之レヲ進退スベカラザルコト。

賄賂苞苴ノ嚴禁スベキト同時ニ、官吏ノ登用並ニ免黜ノ規則ヲ設ケ、其ノ進退黜陟總テ公平ナラザル可カラズ。官吏ノ進退ニ私ヲ挾ムハ是レ自己一身ノミ顧ミテ國家ヲ顧ミザルノ弊ヲ來ス。左レバ大君主ガ大臣ヲ進退スルニモ、大臣ガ所屬官吏ヲ黜陟スルニモ、私恩又ハ私怨ヲ以テ之レヲナスベカラズ。只ダ其ノ職務ノ適否ヲ鑑ミ、規則ニ

照シ公平ヲ專一トシ、苟クモ一點ノ私心アルベカラズ。

十五、勢力ノ爭奪又ハ猜疑離間ノ惡弊ハ斷ジテ之ヲ止メ、政治上ニ復讐的觀念ヲ抱クベカラザルコト。

國政ハ宜シク公明ニ之レヲ處シ、一點ノ私心ヲ挾ムベカラズ。勢力ノ爭奪及ビ政治上ノ復讐ハ皆私慾私怨ヨリ生ズ。國家ノ紊亂ハ之レニ基因ス、故ニ今日ヨリ其ノ念ヲ斷絶スベシ。

十六、工務衙門ハ未ダ必要ヲ認メザルコト。

工務ハ現今ノ有様ニテハ一衙門ヲ設置スル程ノ必要ナカラシ、依テ之レヲ農商衙門、若クハ他ノ衙門ニ合併シテハ如何。

十七、軍國機務處ノ組織權限ヲ改ムルコト。

軍國機務處ノ權限稍ヤ大ニ失スルニ似タリ、依テ今之レガ組織ヲ改定シ、法令ハ各衙門ニ於テ之レヲ立案シ、大君主ノ裁可ヲ乞フ前ニ軍國機務處ニ諮詢スルコトニ定メ、軍國機務處自ラ法令ヲ立案スルコト能ハザルコト。

十八、事務ノ必要ニ應ジ各衙門ノ事務ニ熟練シタル顧問官ヲ聘用スルコト。

十九、留學生ヲ日本ニ派遣スルコト。

各科目ニ就キ之レヲ研究スル爲メ日本ニ留學生ヲ派遣シ、人才ヲ養生スルコト必要ナル可シ。

二十、獨立ノ基礎ヲ鞏固ニスル爲メ、右内政改良ニ關スル必要ナル事項國是ヲ一定シ、宜シク宗廟ニ誓ヒ、之レヲ臣民ニ宣布スルコト必要ナリ。

去ル六月二十日付ヲ以テ發布セラレタル左ノ王詔ハ、國王親政ヲ爲ス上ニ牴觸アリト考ヘラル、ニ付、之レヲ取消スカ又ハ新タニ詔ヲ出スヲ要ス。

六月二十二日傳言

傳曰 凡今庶務遇有緊重事件先爲就明于大院君。

同日

傳曰 各國事例其軍務皆歸親王管轄本國則海陸軍事務進明于大院君前裁決

井上伯内謁見記

十一月二十六日、井上伯參内謁見シタルトキノ談話筆記。

井上 本日内謁見ヲ賜ハルニ付、先日奏上ヲ經タル箇條ヲ漢文ニ譯シ携帶致サントスル爲メ多少時間ニ行違ヒヲ生ジ、金外務大臣ハ其レ故未ダ參内セラレザルモ、宮内大臣ノ同意ヲ得テ特ニ入謁ニ及ビタル次第ナリ(當國謁見ノ例、宮内、外務兩大臣ノ參席ヲ要ス、故ニ奏スルコト然リ)

大君主 其ノ事ハ承知セリ、是レマデ公使ハ數次我國ノ爲メ有益ナル忠告ヲナシ大ニ満足ニ堪ヘズ、今日特ニ公使ヲ謁見シテ其ノ厚意ヲ謝シ、併セテ朕ガ旨ヲ致サント欲スルナリ。

井上 過日ハ都合兩日間長時間ニ渉ル奏上ヲナシ、定メテ陛下ニテモ御困憊ヲ感ゼラレタルナラン。

大君主 否、朕ハ寧ロ其有益ナル談話ヲ好ミ、困憊ヲ覺エズ、却テ公使ノ勞ヲ謝スルナリ。

井上 本日奏言ニ先チ、希クハ陛下ノ左右ハ宮内大臣ヲ除キ、其他ハ退出ヲ命ゼラレン事ヲ望ム。

大君主 (入侍ノ内官ニ退出ヲ命ゼラル)

井上 未ダ各衙門大臣ノ職務權限等制定セラレザル前ニ於テ、強ヒテ大臣ニ職務ノ擧ラザルヲ以テ責メラル、ハ不可ナリ。縱ヘバ法律制度ノ如キモ一ヶ月ヤ二ヶ月間ニ忽チニ制定セララル可キモノニアラズ、凡ソ法ハ國ノ風俗習慣ニ適合セザル可カラザレバ、先ヅ以テ貴國ノ習慣法律ニ泰西ノ法律ヲ參酌シ、而シテ其民度ニ相應ノ法律ヲ編纂スルノ要アリ。本使モ顧問官ノ資格ニ於テ貴國ノ舊法習慣ヲ取調べ、又必要ニ應ジテ他ノ顧問官ヲモ招キテ參同セシムル等自ラ其ノ便法ニ依ル可シ。而シテ諸法章成ルノ後、之レヲ實施セバ自然又不適當ノ事モ可有之、然レドモ是等ハ逐次刪正ヲ加ヘ、年所ヲ經ルニ從ヒテ其完全ヲ期スル外ナキナリ。

大君主 然リ、卿ノ言ノ如シ、我が習慣舊法ニ參スルニ泰西各國ノ良法ヲ次イデセバ、極メテ時勢ニ投合スベシト思ハル。

井上 過日繰返シ奏上致セシ如ク、大君主ノ親政トハ即チ當局大臣ト一堂ニ相會シ、一定ノ手續ニ依リ日程ヲ定メ、毎日若クハ隔日ニ國政ヲ諮詢セラレ、又ハ上奏シ、從來ノ如

ク國王ト各大臣トノ間ニ紹介使ヲ措キ、大小ノ事之レヲ經テ一々奏達裁可ヲ經ルト云フ如キコトアリテハ、國政ヲ親裁セラル、トノ實ト相反スルモノナリ。只今參内ノ途中光化門ヲ入り興禮門内ニ於テ勤政殿トノ扁額ヲ掲ゲタル大厦ヲ目撃セリ、惟フニ此ノ堂宇ハ從前國王親シク臣僚ト會同シ國務ヲ執ラレタル場所ト相像セラル、ナリ。

大君主

我國モ往昔定宗大王ノ時代ハ國王自ラ便殿ニ出御シ、大臣、判書、大諫等ノ臣僚ヲ命ジ、國政ヲ議スルノ例ナリシ。然ルニ此例ハ何時カ廢セラレテ今日ハ全く其跡ヲ止メザルニ至レリ。去レバ朕ハ今此ノ法ヲ復興シ、隔日ニ於テ諸大臣ヲ便殿ニ於テ召集シ、椅子ヲ與ヘ互ニ膝ヲ交ヘテ國政ヲ談ズルコトニ定ムベシ（毎日會スル程ノ事ニモ及ブマジク）、勤政殿云々ノ事ハ儀式上君臣相見ルノ場所ニシテ、毎年元旦、冬至、誕辰ノ三佳節ニ當リ、國王大ニ儀仗ヲ張り、之レニ臨ンデ百官ノ參賀ヲ受クルノ例アリテ、此席ニアリテハ何等ノ國政上ノ諮詢ヲナスノ例ナシ。

井上

此ニ國政改良ニ關スル十九ヶ條ノ漢譯文ヲ呈スルニ當リ、意味明晰ヲ缺クカ、但シハ質問ヲ要セラル、事アラバ、何時ニテモ御下問アリタシ。又過日モ奏上セシ如ク、逐條相貫聯シテ密接ノ關係ヲ有スルノ儀ナレバ、各條格別ニ御判斷不相成ヤウ望ミ置キ度ク候。縱ヘバ第一ニ於テハ君主政權ヲ收攬ストアルモ、其ノ以下ノ條目中國政ハ各

大臣ニ諮詢ストアルガ如キ類之レナリ。

扱テ以上ノ條目ヲ採用シテ之レヲ施行スベシトアルハ甚ダ善シト雖モ、之レヲ行フハ難ク言フハ易シ。前途幾多ノ盤根錯節ヲ經テ能ク阻來スル事ナク不撓不拔此ノ大難ニ克タザルヲ得ズ。申サバ官制改革ノ日、數多ノ冗員ヲ淘汰セザル能ハズ、此等減省ニ遭ヒタル者ハ必ラズ其意不平ヲ抱キ、或ハ離間策モ行ハレ、種々ノ疑惑モ生ズルコトナラン。斯ノ如キ場合ニ臨ンデ若シ萬一陛下ノ意、之レニ堪フル能ハズシテ沮喪センカ、竟ニ陛下中興ノ大事業是レヨリ挫折スルニ至ルベシ。凡ソ事業ハ中途ニシテ沮喪スル程弊害多キモノハアラズ、去レバ成効ノ見込ミナキ事業ハ寧ロ事前ニ止ムルノ優レルニ如カズ。就中宗廟社稷ニ告グルニ改革誓文ヲ以テスルガ如キハ容易ノコトニアラズシテ大切ナリ。何トナレバ陛下ノ大業中途ニシテ廢セラレンカ、是レ取りモ直サズ上祖先ノ神靈ヲ欺キ、下信ヲ國民ニ失ヒ、又陛下自ラ其心ヲ欺キ、引イテ本使ヲ欺カル、ニ至ル。本使ハ我 皇帝陛下ノ誠意ヲ奉體シ、來リテ陛下中興ノ大業ヲ翼賛スルモノナリ。然シテ事此ニ至リテハ本使ノ力如何トモスル能ハズ、内政改良ノ美舉遂ニ擧ゲザルニ至ラン。果シテ斯ノ如クナレバ本使モ不得止失望ヲ齎ラシテ本國ニ歸リ、事由ヲ以テ我 皇帝陛下ニ復命スルノ外ナキノミ。之レト同時ニ恐ラク我が政府ハ政

略モ一變シテ、我が日本ハ最早厚意ヲ盡ス可キ手段方法ハ罄キタリトテ全ク反對ノ結果ヲ顯ハスニ至ラン。又貴國ノ内部ハ如何ント云ヘバ、内亂民擾簇發シテ外患ヲ挑起シ、竟ニ又收拾ス可カラザルニ至ラン。豈深ク鑑ミザル可ケンヤ。事未來ニ屬シ、辭意不遜ニ涉レドモ、本使卒直ノ性、豫メ此ニ一言シテ陛下ノ猛省ト再考トヲ煩ハス所以ナリ。

大君主

此際朕及ビ朕ガ政府大臣モ奮發一番シテ斷然内政改良ヲ爲サザルトキハ、國家ノ前途知ル可カラズ。今日ノ儘ニテハ所詮世間ニ介立スルノ見込ミナキナリ。朕ガ意已ニ決ス、幾多ノ困難アリト雖モ之ヲ冒進セント覺悟ス。卿新タニ來駐後屢次謁見奏上ヲ經テ朕ガ意大ニ貴政府ノ厚意ヲ感ズ。何故ニ已往ニ於テ今日ノ如ク釋然疑ヒヲ解キ、改頁ニ從事セザリシカラ後悔スルナリ。セメテ壬午年以來（十五年）上下一致國政ノ改頁ニ熱中シタランニハ、今日ハ多少ノ進歩ヲ見テ貴國ノ稱賛ヲ受クル事モアリタランニ、長嘆ノ他ナシ。

井上

我が第二軍ハ本月二十一日ヨリ旅順口ヲ攻撃シ、同二十二日ニ於テ之レヲ占領セリ。敵ノ大砲、彈藥、無數我手ニ歸ス。抑モ旅順口ハ彼ノ要塞ニシテ、其ノ建築ニハ一千萬「テール」以上ヲ費シ、西洋風ノ堅牢ナルモノナリ。然ルニ僅カ二日ヲ出デズシテ

我軍ノ手裡ニ歸ス。是レヲ以テスルモ彼軍隊ノ用ユルニ足ラザルヲ知ルベシ。貴國人始メ歐羅巴人モ以爲ヘラク、清國ノ廣大ナル、人口ノ夥多ナル、到底日本ノ如キ小國ノ兵力ヲ以テ能ク之レヲ征服シ得ベキニアラズシテ、其ノ敗ヲ取ルヤ必セリト。今ヤ始メテ我が兵力ノ侮ル可カラザルヲ知ルニ至リシナラン。旅順敗報後、北京政府ハ大ニ驚動シ、人心洶々或ハ遷都ノ議アリト傳フ。是レヨリ先キ我が國人以爲ラク、必竟貴國問題ノ爲ニ一度清國ト干戟ヲ交ユルノ日アルベシト、上政府ヨリ下人民ニ及ブマデ、一ニ之レヲ念願ニ置カザルハナシ。本使モ内閣員ノ一トシテ常ニ此ノ念ヲ抱ケリ。經營十數年間孜孜兵備ニ怠リナカリシ結果ニアラズ、特ニ昨年中我 皇帝陛下ハ、皇室費中三拾萬圓ヲ割與シ、製艦費中ニ加ヘシメラレタルガ如キモ又之レヲ爲セルナリ。從來貴國ハ清國崇拜ノ俗上國ト呼ビ、或ハ大國ト呼ビ、甚ダシキハ隸屬ニ甘ンジテ顧ミザルノ狀アリシモ、今ハ已ニ彼國ニ頼ミ少ナキ可憐ノ境遇ニ沈メリ、果シテ然ラバ最早斷念ノ外ナカル可シ。

宜シク眼ヲ東洋ノ全局ニ注ギ、進ンデ自家獨立ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルノ策ヲ講ゼザル可カラズ。我が日本ハ終始貴國ニ對シテ無限ノ厚意ヲ表彰シツ、アルナリ。貴國モ亦我ニ依信ヲ以テ内政ヲ整頓セラル、事コソ得策ナラン。

大君主

旅順口ノ勝ハ甚ダ爽快ナリ。

井上

上ノ好ム處、下之ヨリ甚ダシキハナシ。又君子ノ徳ハ風、小人ノ徳ハ草ナリ、草之レニ風ヲ與フレバ必ラズ偃ズト、夫レ國政改良ノ事ノ如キモ第一率先以テ源流ノ溷濁トモ言フベキ王宮内ノ虛禮陋習ヲ芟除シ、積弊舊套ヲ矯正シテ以テ下流ノ清澄ヲ期セザル可カラズ。扱テ宮内ノ改革ヲ斷行セラル、ニハ、即チ大院君ハ國父トシテ陛下ヲ輔ケテ宮中ノ改革ニ執掌セラレ、宮内大臣ハ職務上之レヲ決行セザル可カラズ。又中宮陛下ハ内部ニアリテハ只ダ君徳ヲ助ケラル、ノ外、苟クモ國政上ニ容喙セラル、如キコトアル可カラズ。此ノ如クシテ宮内ノ事、清淨潔白一點ノ遺憾ナカラシムカ、是レガ下風ニ立ツモノ靡然トシテ向フ所ヲ一ニシ、諸般改良ノ事業日ヲ追フテ効果ヲ奏スルニ至ラン。

(此奏言中、世子宮ハ暈氣ノ氣味アリトテ席ヲ立テ入御セントスル際、昏倒セラレントス、本使傍ヨリ之レヲ扶持シ、宮内大臣ヲ呼ビ、内殿ニ扶掖シテ入ラシム)陛下ト廷臣トノ間柄ハ前ニ屢々奏上セシ如ク、互ニ愛情ナクシテハ成ラザルナリ。縱ヘバ君主上ニ居ツテ威權臣僚ヲ凌ギ、君主ト言ヘバ何人モ之レニ逆フ事ヲ許サズ、去レバ大臣モ事ノ善惡ニ論ナク、唯ダ命ノマ、是レ從フト云フガ如キコトアリテハ、國

政上ノ弊害ハ到底免レ得ベキニアラズ。

世ニ所謂明君ト云ヒ、忠臣ナルモノ善ク廷臣ノ諫ヲ容レ、廷臣亦諫ヲ憚カラザルヲ云フ。之レニ反シテ君主ハ己ノ意ニ戻リタルガ故、忽チ之レヲ退斥シ、己レノ意ニ阿諛スルモノヲ親愛スルト云フ如キ事アリトセバ、之レ其ノ亡國タルヲ免レザルナリ。君臣ノ義ト云フモ愛情ヨリ來ラザル可カラズ。此ノ愛情ハ君臣ノ間互ニ密接セザルニアラザレバ生ズ可キ様ナシ。本使望ムラクハ陛下能ク臣僚ノ諫ヲ入レ、之レト相親愛シ上下和衷、以テ内政改良ノ途ニ就カレタシ。

大君主

卿ノ奏言ノ如ク、君臣ノ情分ハ尤モ親愛ナラザル可カラズ。朕又意ヲ此ニ注ギ、大小ノ事、廷臣ニ諮議スベシ。

井上

尙ホ日本始メ泰西各國ニ於ケル皇后、王妃、若シクハ王族ノ勤務、其他ノ行狀ニ關シテ詳細申述ベタシト存ズレドモ、本日ハ日暮ニ及ビ、且ツ世子ニモ御不快ニ在セバ、更ニ他日謁見ノ日ニ讓ルベシ。尤モ二十ヶ條ハ篤ト御考ヘヲ乞フ。

大君主

朕此ニ二十ヶ條ノ譯漢文ニ就キ一々熱閱ヲ遂ゲタル後、不明了ノ廉モアラズ、次回謁見ノ時、質問スルコトトセン、又朕モ申述ベタキコトアレドモ、是レ亦次回ニ讓ル可

井上伯内謁見記

右ニテ退出ヲ奏シ歸館セリ。

シ。

朝鮮政況ノ報告

五大臣ノ誓約、國王ノ認可並ニ内謁見

前報告ニ記載セル四協辦ノ任命並ニ閔黨ガ近頃陰ニ密旨ヲ矯メテ東學黨ヲ煽動シタル形迹アル事ハ、本官ヲシテ十二月一日ノ謁見ニ二十ヶ條ヲ撤回スル言ヲ吐カシメタル原因トナレリ。右四協辦ノ突然トシテ任命セラレタル次第ハ、先般本官ノ呈出シタル改革意見第一條ニ、政權ハ總テ一ノ源流ヨリ出ヅルコトトアリ、且ツ近來大院君ガ本官ニ折伏セラレテ政治上容喙ヲ辭退シタルヲ見テ、王妃黨ハ速了シテ思ヘラク、此機ニ乘ジテ羽翼ヲ伸スベシト、遂ニ王妃ニ勸メテ此ノ專斷ニ及ビタル事ヲ洞見シタルニ付、此際王妃ヲ抑ヘ、政治干涉ノ大弊害ヲ斷ツハ頗ル緊要ナリト自信シ、飽クマデ決心ヲ示シ、必ラズ改革意見書ヲ下戻シ、東徒征討ノ兵ヲ撤回スベシト主張シタル處、總理大臣、外務、度支等ノ諸大臣ハ中間ニ立テ處置ニ苦ミ、協議ヲ凝シタル末、右三大臣ノ外、宮内大臣、軍務大臣代理ノ五名ハ互相誓約シ、百難ヲ排除シテ改革

ヲ斷行スルコトニ相談相調ヒ、遂ニ本月六日ニ於テ誓約案及ビ其續條ヲ以テ本官ニ相談ヲ開ク
 コトニ相運ビタリ。此間ニ在リテ最モ周旋シタルモノハ兪吉濬ナリ。而シテ軍務大臣代理趙義
 淵モ亦屢々當館ニ來往シテ本官ノ説ヲ聞キ、以テ誓約ノ端緒ヲ開キタル都合ニ有之候。其他ノ
 四大臣中ニハ金允植、魚允中ノ二人ハ其意思稍ヤ堅カリシモ、金宏集ハ聊カ決斷ニ躊躇シタル
 ヤニ及傳聞候。扱テ五大臣ノ誓約並ニ續條ハ、翌七日別紙甲號ノ通り條正ヲ加ヘテ返戻シタル
 處、即日總理大臣參内シテ國王ノ勅覽ニ供シタリシガ、陛下ニモ頗ル賛成アリシ由ニテ、其ノ
 趣通知ニ接シタルニ付、直チニ宮内大臣ヲ經テ内謁見ノ事ヲ奏上シ、同八日午後二時參内シテ
 例ニ從ヒ内謁見ヲ遂ゲ候。當日本官ノ言上並ニ勅答ハ別紙乙號ノ通りニテ、國王、王妃トモ打
 解ケテ御相談有之、朴泳孝ノ赦免、徐光範以下ノ赦免並ニ宗廟誓告ノ各要件ハ孰レモ其日謁見
 ノ際内定致候。然ルニ本官山縣大將ニ面會ノ爲メ仁川ヘ赴クベキニ付、其前夜(即チ十日ノ夜)
 總理、宮内、外務、度支、農商ノ五大臣、外ニ趙義淵、金嘉鎮、安駟壽、兪吉濬ノ四氏ヲ招キ
 之レニ朴泳孝ヲ加ヘテ晚餐ヲ饗シ、其ノ序ニ於テ内治改革ノ方針及ビ當局大臣已下ガ將來心得
 可キ要點等ヲ演説致候。翌十一日朝ハ本官下仁ニ付、不在中總理大臣ヲ促シ新大臣ニ協辦ノ豫
 撰ヲ行ヒ、兵權統一ノ方法ヲ講ジ、宗廟誓文並ニ公文式等急要ナル勅令ヲ革定セシム可キ旨杉
 村書記官ニ申合メ出立致候。

大臣協辦及ビ警務使ノ任命、五勅令ノ發布

同月十四日本官仁川ヨリ歸京シタル處、嘗テ申含メタル準備大抵相調ヒ居候ニ付、本官ハ大
 臣、協辦ノ撰定ニ向ヒ聊カ意見ヲ述べ、十五、十六兩日ノ協議ヲ重ネテ準備全ク整頓シタルニ
 付、同十七日ニ至リ之レヲ發表セラレタリ。舊新大臣、協辦等ノ姓名左ノ如シ。

總理大臣(原)	金	宏	集			
內務大臣	朴	泳	孝	同協辦	孝	重夏
外務大臣(原)	金	允	植	同	李	完用
度支大臣(原)	魚	允	中	同	安	駟壽
軍務大臣	趙	義	淵	同	權	在衡
學務大臣(原)	朴	定	陽	同	高	永喜
法務大臣	徐	光	範	同	鄭	敬源
工務大臣	申	箕	善	同	金	嘉鎮
農商大臣(原)	嚴	世	永	同	李	采淵

警務使

尹 雄 烈

右人撰ノ要旨ハ素ヨリ獨立主義ノ人々ヲ集メタルモ、各衙門若クハ協辦ニハ可成丈外國事情及ビ其語ニ通ズル者ヲ撰ビタリ。

其曰公文式正殿視事條例並ニ大廟誓告、軍制改革及ビ軍國機務處廢止ニ關スル五勅令發布セラレタリ。

大院君訪問及ビ兩度ノ内謁見

右ノ如ク政府ノ組織相調ヒタルモ、或ハ中途ニシテ大院君ノ妨害ヲ受ケン事ヲ懸念シタルニ付、翌十八日本官自ラ同君ヲ其邸ニ訪問シ、推シテ同君ガ再ビ政事ニ干渉セザルコトヲ慥メ、引續キ王室典範制度ノ必要ニ談及シタル處、同君ハ王室ノ典範ハ王室一家ノ典範ナレバ、國王及ビ王族ガ自ラ之レヲ制定スベキモノニシテ、臣下ニ喙ヲ入レシム可キモノニアラズ。況ンヤ外國臣ノ干預ヲ受クルハ甚ダ嫌フ所ナリト主張シタル故、本官ハ王室ノ典範ハ本ト王室繼統上ノ秩序ヲ保チ、永ク幸安ナランコトヲ希望シ制定セント欲スルモノニシテ、即チ王室ノ紊亂ハ延イテ國家ニ波及シ、國家ノ變亂ハ延イテ王室ニ及ボス當然ナリト種々之レヲ説破スルモ、同

君ハ終ニ悟ル所ナクシテ已ミヌ。然ルニ兩三日ヲ隔テ同君ハ我が皇室典範ノ譯本ヲ一覽シテ俄カニ前説ヲ翻シ、岡本柳之助ニ書ヲ寄セテ前日ノ失言ヲ謝シタリト云ヘリ。翌十九日午後二時ニハ前例ニ隨ヒ内謁見ヲ許サレ度シト宮内大臣ヲ經テ前以テ奏上シ置キ、同刻參内謁見ヲ遂ゲ候。其日御談話ノ次第ハ別紙丙號ノ通りニテ、國王、王妃トモ御滿悅ニテ、耳ヲ傾ケ本官ノ陳述ヲ聽取セラレ、且ツ兩陛下殊ニ世子宮ノ身上、李竣鎔ノ野心ニ關シ尤モ打解ケタル御談話アリテ、偏ニ本官ニ依頼セラル、御様子十分ニ見受ケタリ。當日ハ寒氣甚ダ烈シカリシ處、改革ノ爲メ其前左右内官ヲ廢止セラレ、煖室ノ火焚サヘ御差問アル旨御物語ニ付（謁見室甚ダ寒カリシ）本官ハ昨日マデ幾百人トナク御側ニ奉仕シタル内官輩ヲ前後ノ御見計ヒナク一時ニ之レヲ廢止セラレテハ俄カニ御困難遊バサル、ノミナラズ、廢止セラレタル内官等モ、一旦職ヲ離レ飢渴ニ迫ルトキハ上ヲ怨望スルニ至ルベシ。依テ幾人歎ハ御詮議相成候テ可然旨申上ゲタル處、國王ニハ笑ヒヲ含ミナガラ、此兩三日已來ハ我等夫婦ニテ何事モ差圖シ居レバ、恰モ國王ト近習トノ兼帶同様ナリ。十人程デモ内官アラバ始メテ國王ヲシクナリテ大ニ都合ヨロシカル可シトノコト、後ニ至リテ聞ケバ兩陛下ニハ、日本公使ハ自國臣下ノ及バヌ處マデ注意シ吳レ實ニ親切ナリト申サレタル由、同二十一日宮内大臣ヨリ内謁見ノ通知有之候ニ付、同日午後二時參内シタル所、國王ヨリ其翌二十二日大廟誓告等ニ關スル下問アリシ外、略ボ前回同様ノ御

談話有之、然ルニ同日ハ本館ニ軍務大臣、協辦、度支辦、楠瀬少佐、岡本柳之助ノ五名ヲ招キ軍務制改革ノ打合ヲ爲ス約束致シ置キタルニ因リ、夕方前退闕致候。其日國王ニハ風氣ニテ面部腫レ、明日ノ行幸如何哉ト氣遣ヒ居タル處、翌二十二日病勢一層重キ趣キニテ其日ノ行幸ハ延期トナレリ。

大院君ノ深意、國王、王妃ノ憂慮並ニ朴泳孝ノ信任

大院君ハ常ニ權譎ヲ以テ人ニ接遇スルハ今日始メテ分リシ事ニアラザルモ、先般來ノ言語、舉動ヲ考フルニ、實ニ前後矛盾、彼此筋ノ立タザルコトノミ多ク有之候。要スルニ同君ガ別ニ懷ク所ノ深意アレドモ之レヲ公言スルヲ憚リ、得意ノ權譎ヲ以テ一時ヲ彌縫スルモノト察セラレタリ。近頃同君ノ言貌ニ就キ其意思ノ所在ヲ推察スルニ、同君ノ眼中ニハ國家ナク、又人民ナク、唯ダ杞憂スル所ハ其家ノ行末ト愛孫李竣鎔ノ身上ニ止マリ、只管ラ自身ノ生存中ニ其ノ孫ヲシテ翼羽ヲ伸バサシメ、以テ其心ヲ安ンゼント欲スルニ外ナラザルガ如シ。而シテ李竣鎔ハ祖君ノ鍾愛ニ乗ジテ之レヲ利用シ、以テ自家ノ非望ヲ遂ゲント試ミ、遂ニ國王已下ニ恐懼ヲ興ヘシメタルト推測セラレタリ。

同君ノ王室典範ノ制度ニ異論ヲ唱ヘ、李竣鎔ノ外行ヲ拒ミシハ、皆同原因ニヨリ來リシガ如シ。過日朴泳孝入閣ノ時ニ、同君ハ之レニ向ヒ、卿ハ何故ニ今少シ時ヲ待タザルヤト云ヒ、又金嘉鎮ニ向ヒ、余今閑地ニ退キタルモ食力未ダ衰ヘズ、且ツ長白毛兩眉ニ生ゼリ。(俗間白毛眉ニ生ズルハ長壽ノ祥ナリト云フ)ナド云ハレテ、陰ニ時ヲ待テ再ビ政權ヲ取ルノ意思ヲ示シタリ。李竣鎔ガ野心ヲ懷キ居ルコトハ近來人々皆知ラザルモノナキ程ナルモ、大院君ノ深意亦前迹ノ如シトスルトキハ、國王及ビ王妃ガ將來ヲ案ゼラル、事ハ無理ナキ事ニテ、且ツ聰明ノ質ニアラザル事世ニ知レ渡リ居レバ、一層將來ヲ案ゼラル、コトト推測セラレタリ。去ル十九、二十ノ兩日本官内謁見ノ際、此事ノ御話ニ推移リ、深ク兩陛下ノ御感情ヲ引起シタルガ如シ。國王、王妃ハ大院君ニ反シ、王室典範ノ制定ヲ以テ今日ノ急務トセラル、事ハ亦此邊ニ原因シタルコトト知ラレタリ。

又朴泳孝復舊任用ノ顛末ハ略ボ前ニ記載セシガ、復舊ノ詮議ニ先チ早クモ王妃ヨリ内使ヲ朴氏方ニ發シ、尙ホ引續キ官服ヲ調成セヨトテ服地ヲ賜ハリ、同時ニ縫女工ヲ送ラレタリト言フ。右ハ本月七、八日頃ノ事ナリシガ、同十日復舊ノ御沙汰有之、王妃ヨリ新ニ邸宅ヲ賜ハリ、嘗テ官沒セラレタル財産モ返附相成リ、同十三日始メテ參内シテ兩陛下及ビ王大妃ニ謁見シ、殊ニ國王、王妃トハ打解ケ、去ル十七年事變已來ノ談話申述べラレタル趣ニテ同氏モ大ニ悦ビ居

リ候。

爾來屢々謁見ヲ許サレ、兩陛下ノ御信用厚キニ赴キタル様子ニテ、去ル十九日本官謁見ノ際ニ兩陛下ヨリ爾來兩陛下ト本官ノ間ニ於ケル御傳意ハ必ラズ朴泳孝ヲ以テス可キ旨申出デラレタル程ニ立チ至リ候。最初本官ノ希望ハ朴氏ヲシテ兩陛下ノ親近ヲ得セシメ、從前宮中ニ行ナハル、猜疑離間等ノ陰險手段ヲ一掃シ、以テ改革ノ進路ヲ清メント欲シタリシガ、近頃丁度思フ壺ニ當リタルガ如クニ有之候。是ノ上ハ兩陛下ガ朴氏ニ對セラル、信用ヲシテ益々厚キニ至ラシムルコト頗ル緊要ト存候。

明治二十七年十二月二十八日

特命全權公使 伯爵 井 上 馨

誓 言

惟我輩朝鮮人肅然其誓

一日、以脱清國之駕馭建獨立之根基翼贊中興之鴻業奉護

王室定爲國是確秉不撓不屈之心排

百難而力行不已事。

二日、國家之基礎不固則不足以安 王室上下同秉此義一念無怠事。

三日、室室戚里敢行干涉大政政府各大臣共斥絕以矯政出多門之宿弊事。

四日、政府各大臣對

大君主陛下擔着國務之責成事。

五日、推舉潔正賢能之人其進退黜陟不敢容私事。

六日、立四民同等之法事。

右六條之誓政府各大臣光行倡論必固守勿矢永遵母違堅協同之心去傾軋之習矢死摩他不敢言退各掌現任之職期有實施之効署名于下質之神明後采任官亦宜同此署名服受誓言有渝此誓天必殛之。

開國五百三年十一月十日

總理大臣
宮內大臣
外務大臣

度支大臣
軍務署理大臣

續條

第一

各大臣以下至勅任之官一心設誓廉守正忘身扶國事。

第二

大君主陛下以及各大臣爲本國獨立丕基期臻鞏固視井上伯爵擬顧問官其所陳釐政二十條必期次第修舉但方其實施或自我有所諮詢或自伯爵有所勸告則當傾心聽受事。

第三

凡當政府議大小政事以及政令之時

大君主陛下親臨聽其會議經

上裁後施行雖係出自

大君主陛下聖慮之事須先下政府審議之得其協贊方可施行即如進退勅任奏任官以及同品待之招聘

員亦須依此而行事。

第四

制定

王室典範以昭

御極繼承宗戚分義事。

第五

王后陛下雅守坤儀止內助

大君主陛下聖德母或干涉大政事。

第六

政府會議依將來所設規例不可撓奪變改事。

第七

交涉事務一任外務大臣辦理責成不得稍涉傍岐事。

第八

刑律一依定例裁處目

王室內室以下母或侵越干涉事。

第九

朝鮮政況ノ報告

凡募借內外國債事宜須先由度支大臣附之政府會議相孚奏候上裁方可施行除此以外不可妄圖借款或訂政府擔當之約事。

第十

各大臣以下勅任官選擇知時務者久任責成毋或挾私移換改差而現在者如有不堪其職之亟行改差事。

第十一

軍制將行改正先將宮中兵一千五百人扈衛禁軍武藝廳別監皆歸軍務衙門管轄令照法編制事

第十二

警務擇可堪人授任責成一洗從前捕廳陋規事

第十三

凡徵收國稅統歸度支衙門掌管而明定

王室費額至從前

王室之私蓄財貨須於此時覈計明確定爲

王室財產統歸之宮內大臣掌管事

但

王室財產未至覈明整理以前宜暫由度支衙門監督事

第十四

宮內府制度亟行改正先將宦官罷遣至官女亦可量宜節減事

第十五

以上所開各條項講究宜何如實行辦法務期不遺後弊事

井上伯内謁見次第

十二月八日公使參内謁見始末筆記。此日陪席各大臣ニハ金總理大臣、李宮内、金外務、魚度支、趙軍務等ナリ。

井上 去ル一日内謁見ノ時、貴國內政改良ノ事到底成效ナキモノト見テ、寧ロ斷念セザル可カラズトノコトヲ奏上致シタル後、總理大臣始メ四大臣ハ每度我館ニ就キ本使ノ回意ヲ促シ、殆ンド脅迫同様ノ強談ヲ爲シ、又五大臣ノ誓約並ニ條目モ有之、旁々其意見ニ同意ヲ表シ、改良ニ從事スルコトトシテ、本日ハ斯ク内謁見ヲ請フニ及ビタル次第ナリ。

大君主

我が上下ハ此際同心協力以テ改良ニ從事セントテ團結シ、最早動かザルナリ。幸ヒニ卿モ亦此大業ヲ翹賛スト云フ。朕ノ満足何ゾ之レニ如カンヤ。

(是ニ於テ陛下ハ各大臣ニ姑ク退出ヲ命ジ、本使ヲ御側近ク召サル、旨仰セアリ。)

本使呎尺ニ進ミ、五大臣ノ誓約並ニ政府ノ職務權限ニ關スル條目書ヲ榻上ニ繕キ、其ノ文字ノ意義ニ付刪正スベキ點、並ニ一項ヲ加フベキ理由ヲ奏上シ、陛下ハ一道理ナレバ然カスベシト御答ヘアリ)

井上

本日ハ充分秘密ヲ保タレ得ルト存ズレバ、本使モ赤誠ヲ吐露スベケレバ、兩陛下ハ心ヲ傾ケ、虚心平易ニ御聽聞アラセラレンコトヲ(此ノ時王妃ハ國王背後ノ密接ノ一間ニアツテ本使ノ奏言ヲ傾聽セラル)本使熟々王室部内ノ有様ヲ目撃スルニ、兎角兩陛下ハ憂心忡々始終御疑念ニ堪ヘザルガ如キモノアリ。事々物々疑念ノ種子トナラザルナキヤトノ案念ハ本使ノ胸中ニ浮ベリ(大君主、王妃、然リ)其ノ次第ハ大院君ノ孫李竣鎔ハ本年六月二十一日(我が七月二十三日)事變後屢々大鳥公使、杉村書記官ニ向ツテ王妃ヲ廢スルコトヲ以テセリ。竟ニ我が公使ノ同意ヲ得ザリシカバ、却ツテ己ノ陰謀ヲ知ラレタルヲ悔イ、之レト相疎スルノ念ハ一面大院君ヲシテ書信ヲ送り、好ミヲ清人ニ通ゼシメ、一面ハ東學黨ヲ教唆シテ内外相合シテ日本兵ヲ逐斥シ、後己ノ慾望ヲ逞フセント計リシ證據ハ歴々トシテ存セルナリ(東學黨ヘノ往復書翰ニ徵スルコトヲ得)去レバ彼ノ陰險ナル手段ハ嘗ニ廢妃ノ一事ノミナラズ、或ハ世子ノ位ヲ褫ハントノ潛心モアリタルナラン。此等ノ密計ハ何時カ兩陛下ノ御聞キニモ達シ、聖意

ヲ多ク惱マスベキハ必然(大君主、然リ)又朴泳孝歸國セシ砌リニ行ナハレタル風説モ、是レ亦タ御驚駭ノ種トナリタラン(大君主、然リ々々)此ノ如クシテ兩陛下ノ意ヲ逡巡沮喪セシムルノ結果、中宮ニハ御一族、即チ閔氏ヲ援ケテ以テ不意ノ災禍ヲ避ケントセラル、ニ至レルモノナラン。必竟スルニ兩陛下ノ御身上孤獨ノ姿ニシテ頼ミ少ナケレバ、成ル可ク信用スルニ足ルベキモノ、即チ外戚ニ依頼スルト云フコトニ推シ移リタルナラン(大君主、中宮、皆曰ク、然リ)御心痛モ左モアルベシ。然シ乍ラ閔氏ガ世道トシテ國政ヲ主宰シタル當時ハ抑モ如何ナリシヤ、閔氏ハ多ク無辜ノ良民ヲ驅ツテ悲慘ノ境ニ沈メ、生命、財産ヲ奪フガ如キ非道ヲ行ヒタリ。然レドモ兩陛下ハ當時所謂閔氏ハ正當ノ國稅ニ依リ(事實ヲ摘擧セシム、之ヲ略ス)宮内ノ需要ヲ充タスモノナリト、曷ゾ圖ラン是等ハ一ニ此不正ニ得タルモノナラントハ、故ニ民間ノ感情ハ直接ニ閔氏ニ怨ヲ結ブモ、亦タ間接ニ王妃ハ怨ノ府トナラザル能ハザルナリ。去レバ今ノ時ニ當ツテ此等閔氏ニ依ラント欲シ、以テ内政ニ參與セシメントノ思召アラバ、是ノ民心ヲシテ此上王室ニ怨ヲ深カラシムルモノナリ。事理已ニ此ノ如クナル以上ハ、兩陛下ハ何ニ據ツテ安固ヲ得ラルベキヤ。

本使已往ニ於テ屢々奏上致シタル如ク、中宮ニハ只ダ宮中ニ在リ、大君主ノ徳ヲ輔ケ内政ニ關與セラル、如キコトナキニ於テハ、本使ハ兩陛下並ニ世子ノ地位ノ安寧ヲ保護致ス可シ、去レバト云ツテ本使一個人トシテハ何等有力ナルモノニアラザルモ、本使ハ即チ日本ヲ代表スルモノナレバ、此ノ日本政府ノ有スル勢力ナルモノハ、必ラズヤ兩陛下ヲシテ安固ナラシムルニ足ル可シト信ズルナリ。

大君主

然リ、卿ノ言ノ如シ、李竣鎔ノ事ニ付テハ朕頗ル疑ヒナキ能ハズ。彼ハ六月事變後切リニ朕ニ告ゲテ云フ。日本公使ハ廢妃ニ意アリ、且ツ彼ノ心事圖ラレズ、或ハ朝鮮國土ヲ奪略スルノ意ナシトスベカラズ。宜シク其舉動ニ注目シ、苟クモ輕卒ノ舉アルベカラズ云々ト。朕ハ當時深ク彼ノ奏言ヲ恠ミタレバ、之レニ向ツテ、否、日本政府ハ去ル惡意アルモノニアラズ、我ガ獨立ヲ助ケ以テ富強ニ導向セントスルモノニシテ何等懸念ナカルベシト。彼曰ク、否々臣公使館ノ内幕ヲ察スルニ、敢テ然ラズシテ隱然野心ヲ挾ムモノノ如シ。故ニ朝鮮宗社ノ爲ニ一考スレバ速カニ清國ト好ミヲ通ジ、之レト相結托シテ我國ノ安寧ヲ保持セザル可カラズト。奏スルコト再三、朕ニ竟ニ迫ルニ清兵ノ平壤ニ來ルヲ幸ヒ、親翰ヲ送り以テ彼ノ歡心ヲ迎フル事ノ得策ナル旨ヲ薦メ、終ニ之レヲ信ジ、朕モ一片ノ書ヲ送ルニ至レリ。今日ハ公使ト隔意ナク眞情ヲ抛ツテ秘密ヲ告ゲント欲ス。故ニ此ノ事實ヲ明カスナリ(此時王妃ハ李竣鎔曾テ袁世凱ト共

同シテ廢妃ノミニアラズ、直ニ國王ヲ廢シテ己レ之レニ代ラントノ隱謀モアリタリト聞ケリ。彼レ未ダ若年ニシテ前後ノ利害得失ノ考ヘモナク、動モスレバ隱然密計ヲ企ツル如キコトアルハ嘆息ノ至ナリ。今卿ノ奏言ニ據レバ、彼レハ相方ノ間ニ立チテ感情ヲ傷ケントシタル跡歴然タリ。

井上

李竣鎔ノ如キ隱謀家ヲシテ無爲ニシテ京城ニアラシムルハ不得策ナリ。故ニ時機ヲ見計ヒ外國ニ出テ少シク識見ヲ廣ムル方可ナラント存ジ、前日謝罪ノ爲メ來館面見ノ際、同人ヨリ統營使ヲ辭職シ、外國ニ出テ新知識ヲ得タシト云フ、且ツ日本駐劄公使トシテハ如何トノコト故、直チニ同意致シタリ。且ツ曰ク、或ハ恐ル大君主陛下ノ許可ヲ得ルニ至ルヤ否、答テ曰ク、充分罄盡力シテ御許可アルヤウ周旋スベシト約シ置キタリ。尙ホ渡海ノ上ハ八年位ハ滞在シテ充分力學シテ其知識ヲ伸暢スルニアラザレバ無用ナリ。彼曰ク、實ニ然リト、付テハ間モナク辭職スベシト思ヒノ外、一回辭表ヲ提出シタルモ聞キ届ケラレズトテ終ニ今日マデ勤續セリ。惟フニ同人ハ表面外國公使ヲ希望スルガ如キ舉動ヲ粧ヒ、眞實ハ尙ホ現職ニ戀々スルニアラザルカラ疑ハシム。故ニ今回軍務ヲ軍務衙門ニ統轄スルハ此ノ上ナキ好機ナレバ、其ノ時機ニ於テ全ク兵權ヲ同衙門ニ收ムル方得策ト存ズ。去レバトテ一旦辭表ヲ呈シタルモノヲ聞キ届ケラレ

大君主

ザルハ何ノ意味カアルコトナラン。李竣鎔辭表ヲ呈シタルヲ以テ、朕ハ早速聞キ届クベシト主張シタリシニ、大院君間ニ居テ、敢テ外國ニ遣ハス本心ニアラズ、是非傍ヲ離レシメザルニアリ。其ノ切望ニ餘義ナク不許可ヲ容レザルヲ得ザル次第ナリ。同人ヲシテ日本公使ニ任ジ、駐劄セシムベシトノ卿ノ言、朕尤モ同意ナレバ追テ左様スルコトトセン。

大君主

丙子和約以前ニ在ツテ兩國ノ情意阻隔セルヲ以テ、之レヲ患ヘ朴定陽ヲ暗行御使トシテ東萊釜山ニ赴カシメ、並ニ朕ガ一族閔承鎬ヲシテ密旨ヲ附シ、慶尙道ニ至リ情ヲ探ラシムル等熱心ニ日本トノ交通ヲ暖タメントセリ。然ルニ此等ノ風説ハ何時シカ斥倭主義ノモノヲ刺戟シ、終ニ隱謀ヲ企ツルモノアリ、一夜ノ中ニ朕ガ三代ハ火藥爆發ノ下ニ殞サレタリ（因ニ云フ、王妃ノ實父閔致祿父子ノ居室床下ニ火藥ヲ爆發セシムルモノアリテ一家之レガ爲ニ亡ブ）。然レドモ丙子年、江華ニ彼我全權ノ會同アリテ兩國

王妃

ノ媾和俎豆ノ間ニ成リ、朕及ビ朕ガ一族ノ希望ニ終達スルヲ得タリ。夫レ此ノ如ク朕ガ貴國トノ交際ヲ親密ナラシメ、因テ以テ我國ノ富強ヲ圖ラントセシハ一朝一夕ノ故ニアラズ。今ヤ卿、我國ニ就テ大イニ盡ス所アラントハ、何ノ幸ヒカ之レニ如カン。朕ハ卿ノ奏言ニ從ヒ敢テ内政ニ干渉セザルハ勿論、朕ガ只管ラ内政ノ事、着々歩ヲ進

メ國家ノ隆盛ニ赴カンコトヲ希フナリ。
卿ガ奏セシ如ク、我國ノコト何時何等ノ椿事ヲ生ジ、王室ニ危険ヲ生ズルヤ知ルベカラザレバ、常ニ危懼ノ念ハ知ラズ知ラズ種々ノ疑惑ヲ生ジ、女性ノ淺間シキ此ニ漸ク同族ノ庇保ヲ必要トスルノ念生ズルニ至レリ。若シ王室ニシテ萬全ヲ得、始終安寧ナルニ於テハ何故外戚ヲシテ國務ニ掌握セシムルノ必要アラシヤ、卿、幸ヒニ之レヲ諒セヨ。

井上

兎角此際不安心ノ點ヨリ閔氏ニ御依頼相成リ度シトノ御考ヘモ一應無理ニハアラザレドモ、如何セン、貴國ノ臣民ハ舉ゲテ閔氏ガ從來慘酷ナル施政ノ行爲ヲ厭惡スル所ナレバ、今再ビ閔氏ヲ隱カニ王宮ニ引キ入レ、密議ヲ凝ラサル、如キコトアリテハ、人心恐懼ヲ生ジ、向背ヲ定ムル能ハズ、且ツ引イテ王室ノ安全ヲ妨グル等再ビ困難ヲ惹キ起スベキハ必然ナリ。且ツ聞ク閔氏ノ或者ハ東學黨ヲ教唆シテ已失ノ權力ヲ回復セントスル如キ隱謀ヲ企ツルモノアリト（此ニ於テ閔氏其他ノモノ内密ニ王室ニ出入シテ王宮内外ノ連絡ヲ付ケ、種々ノ手段ヲ施スモノノ人名ヲ記載シタル紙片ヲ取り、國王ノ御覽ニ供ス）即チ閔燦植、閔應植、閔泳詔、閔泳煥、閔泳達、沈相薰、李載純、李畊植ノ諸氏等常ニ密カニ大闕ニ入り、國王ニ昵近シ、種々ノ企ヲ爲スト聞ク、就中閔

泳詔ハ玄興澤、金主事某、李寅榮、金學均、金鴻陸等諸人ヲ使囑シテ各公館トノ間ヲ往來セシムルト云ヒ、又閔燦植、閔應植、沈相薰等ハ東學黨ヲ教唆スト云ヘリ。

大君主

東學黨ト閔氏ガ通ジテ隱謀ヲ爲ストハ不可思議ナリ。如何トナレバ東學黨ノ起ルヤ彼等ハ揚言シテ曰ク、閔氏ハ國賊ナリ、之レヲ殲サザルベカラズトテ、閔氏トハ氷炭相容レザルノ徒ナリ。然ルニ此ノ兩者ガ結托シテ以テ隱謀ヲ逞フセントスルガ如キハ有り得ベキ筈ナキニ似タリ。

井上

東學黨ノ始メ起ルヤ、或ハ口實ヲ此レニ借リタルナラン、然レドモ本ト是レノ不平黨ニシテ、其主義モ必ラズ一定セザルナリ、閔氏ノ一旦政權ヲ失フヤ、其一門ハ滿腔ノ不平ヲ抱イテ野ニ散在シ、主義ヲ以テ合フト云フヨリ、寧ロ不平ト不平ト意氣相投ズベキハ所以ナキニアラザルナリ。

大君主

然リ、姑ク其ノ動靜ヲ察セバ其ノ手掛リヲ得ベキナリ。而シテ閔泳詔ハ嬪殿（世子宮）ト叔姪ノ間柄、閔泳煥ハ中宮殿ト從兄弟、李載純ハ王族等ノ關係ヨリシテ、毎ニ王宮ニ出入シテ入侍スルコト多シ。去リ乍ラ此等ノモノ出入スルガ爲メ一般ノ感情ヲ害スルノ恐レアラバ、爾今宜シク之レヲ止ムベシ。

井上

右様ノ人物又ハ種々ナル人物ガ王宮内ニ出入シ、又ハ探偵等ニ御信任アレバ、終ニ疑

心暗鬼ヲ生ズル様子ナリ。則チ内宮ノ言ヲ真正ト御聞キ込ミ等アリテ、各大臣又ハ各國公使館等へ御内意ヲ通ゼラル、如キハ、宮内ノ秘密ト秩序ヲ保ツ上ニ於テ、甚ダ害アリ、一例ヲ舉グレバ過日本使ガ入謁ノ際ニ於テ、國政ノ改良ハ到底望ミナシト斷言シテ退出シタル翌日、宮中内官ノ使者ナリトテ或ルモノハ英館ニ就キ、日本公使ノ怒氣ヲ解クノ途ナキヤト語リタル由、惟フニ是ノ事ノ如キモ大君主ヨリ御申付カ、又ハ内官等ガ御憂色ヲ見テ自ラ命ヲ矯メテ此ニ至リタル歟ナラン。

大君主

然リ、其レニ就キ思ヒ合スコトアリ。

井上

之レヲ聞ク、大君主並ニ中宮ハ是レマデ入侍ノ主事等ヲ相手ニ各館ニ直接ニ往來セシメ、外交上ノ事柄ヲ密議セシメラレタルコトアリトカ、若シ當局者タル外衙門ヲ差シ置キテ君主自ラ外國使臣ト交渉スルハ、該大臣ヲ他國外人ニ向フテ御信任ナキヲ表白セルニ同ジ、又其ノ事柄ノ次第ニテハ此レガ爲メ一場ノ困難ヲ生ゼラル可キナリ。

大君主

成程左様ノ事從前ナキニシモアラザリシガ、以來ハ屹度謹ムベシ。

井上

今ヤ東洋ノ大勢ヲ通觀スルニ、支那ハ已ニ内部ノ腐敗ヨリシテ今日ノ交戦ニ連戰連敗ヲ執リ、殆ンド收拾スベカラザル境遇ニ沈ミ、最早之レニ頼ルト言フ事ハ其効之レナカラシ。果シテ然ラバ貴國ハ何レニ依ルベキヤト云ヘバ、我ガ日本ニ頼ルヲ最一ノ得

策トスルナリ。去レバ日本ハ從前ヨリノ好意ヲ引續ケ、可及丈ノ御世話ヲナスハ當然ナリ。然レドモ貴國ニ於テ始終疑ヒノ淵ニ彷徨シテ、却テ我ノ歡心ヲ失フ如キ舉動アラバ、竟ニ日本ノ好意モ水泡ニ歸セザルヲ得ズ。縱へバ此ニ一美婦アリト假定セヨ、其婦人ハ數多ノ男子ニ向ツテ愛ヲ割キ、媚ヲ呈スルトセンカ、終ニ能ク一男子ノ爲メ喜バレザルナリ。國ノ事、是レト稍ヤ相似タルモノアリ、一依信ヲ定メズ、各國ニ向ツテ愛嬌ヲ振り蒔カントセバ、終ニ能ク一國ニ信ヲ得ベキニアラザルナリ。

大君主

卿ノ言ノ如シ、我國上下共ニ今日ハ貴國ニ依ツテ國歩ヲ進メント期スルモノナリ、焉ンゾ他意アランヤ（此時王妃ハ國王ニ耳語セラル）朕又近日朴泳孝ヲ採用スルニ意アリ、卿ノ考ヘハ如何、果シテ同意ナラバ着手スルコトトセン。

井上

朴泳孝身上ニ關シテハ本使モ奏請スル所アラントセシニ、陛下ヨリ先ヅ寛大ノ御言葉アリシハ幸ヒナリ。同人ハ多年他國ニ流寓シ、幾多ノ辛酸ヲ嘗メ、心膽ヲ鍊リ、經驗ヲ積ミ、殆ンド國家ヲ憂ヒテ寢食ヲ安ゼザルナリ。同人歸國ノ際離間策ノ爲メ一頓挫セシモ、本使着任後屢同人ヲ招キ其ノ意志ヲ叩キシ時、日兵ヲ借り王宮ニ入り、王妃ヲ廢シタル上ニ非ザレバ改良ノ効ハ舉ラザルベシト口外シタリシトノ風説ヲ耳ニスルニ至レリ。果シテ眞ナル乎ヲ尋ネシニ、左様ノ事ハ神明ニ誓ヒ口外セシコト之ナキニ、

何人歟離間策ヲ以テ申シ觸レタルナリトノ事ニ有之、同人ハ一意王室ニ忠誠ヲ盡シ、國家ニ盡瘁スルノ外他志ナク、毫モ疑フベキ廉ナシ。去レバ此ノ國家多事ノ時ニ當リテ斯カル人物ヲ採用セラル、ハ頗ル有益ノ事ト信ズ。

大君主
中宮

卿ニシテ已ニ同人ヲ信用スル其レ此ノ如クンバ、朕何ゾ疑ヒヲ存センヤ。即チ大臣ニ命ジテ復舊任用ノ義取計ラハン。

井上

早速ノ御採用本使満足ニ堪ヘズ、尙ホ將來同人ガ必ラズ共王室ニ誠實ヲ盡シテ、決シテ異心ナキハ本使ノ敢テ兩陛下ニ向ツテ保證スベケレバ、御信用アツテ可然、又タ復爵ノ上ハ兩陛下モ速カニ謁見ヲ賜ハリ、已往ノコトハ朕全ク之レヲ論ゼザルベシ。自今國家ノ爲メ誠實ヲ盡スベシトノ御語ヲ賜ハラバ、同人ハ兩陛下ノ徳ニ感泣涕血シテ必ラズ一身ヲ擲ツテ王室ニ忠勤ヲ盡スノ感情ヲ起スベシ。尙ホ甲申年ノ役ニ關係アリシ人々ハ殘ラズ御赦免アリテ兩陛下ノ寛大ナル特典ヲ仰ガシムルヤウ願ハシク存ズ。朴泳孝ヲ赦シ復職セシムル以上ハ、其他ハ隨ツテ然ラザルヲ得ズ。又タ朴泳孝ハ國例ニ據ルモ復舊後肅拜ヲ受クルノ例ナリ、殊ニ同人ハ駙馬ノ對遇ヲ受クル身分ナレバ、朕ハ早速召見スベシ。又中宮ニハ同人ノ幼時ヨリ親シク育長セラレタル緣故モアレバ、一刻モ速カニ召見ヲ望マル、ナリ。已ニ昨日玄興譯ヲシテ禮服ノ胸牌ヲ（品位ニ據ツ

大君主
中宮

テ差等アリ）贈與セラレタルニ、同人ハ落涙シテ感領セリト云フ。

井上

左モアルベシ、兩陛下ニ於テ斯ノ如ク同人ヲ御信愛相成ル上ハ、同人モ必ラズ兩陛下ノ恩遇ニ感泣シ、必ラズヤ兩陛下ノ安泰ヲ計ルベシ。尙ホ本使モ充分同人ニ申シ聞カセ置クベシ。

兩陛下

今日卿ノ奏言ハ大ニ朕ヲシテ釋然タラシム、朴泳孝ヲ採用スルニ就テハ尙ホ同人ハ多ク卿ノ忠告幫助ヲ煩スナリ。

右ニテ退出ヲ奏ス。

井上伯退京ニ際シ希望

先般馨再ビ當地ニ赴任シタル已來既ニ四十餘日ヲ經過シ、其間四回内謁見ヲ許サレ、近來貴國ニ於テ屢々與リタル内閣ノ争鬪ヲ初メ、宮中ト内閣トノ衝突、及ビ日本維新後釜山へ日本使節ヲ派出セシ已來、昨年六月ニ至ルマデ經過セシ事歴、並ニ昨年六月以後日本政府ノ意嚮多少兩陛下ニ於テ御疑念ノ點ニ至ルマデ詳細御内話ヲ謹聽シ、始メテ雲霧ヲ散ジタルノ快心ヲ生ジタルハ、實ニ兩國ノ友誼ヲシテ益々親密ナラシメタル參考ニ有之候。右等ノ事實ヲ考察シ、内外無事平穩ヲ保維シ、一方ニハ政務改良ノ歩ヲ進ムルノ工夫ヲ廻ラシ、熟ラ利害ヲ剖析シ、縷縷鄙見ヲ

兩陛下ニ内奏シ、且ツ之レヲ書面ニ認メ、施政要綱ト題シテ

兩陛下へ内奏シ、一方ニハ之レヲ以テ新内閣大臣ニ與へ、且ツ其ノ詳細ヲ陳述セントスルニ當リ、右施政要綱ヲ脱稿セシ後追々事實ニ據リ調査スレバ、種々ノ弊端ヲ發見セリ。内ニシテハ

宮内ノ未拂貢又ハ官制ハ既ニ施行ノ名アリテ其實ナク、或ハ舊官吏ト新官員ト共ニ藉ヲ宮内ニ存シ、或ハ新官吏ノ現員ハ官制ニ過ギ、或ハ官制ノ外、別ニ舊官吏ヨリ使令ニ至ルマデ依然存スルノ奇觀アリ。就テハ之レニ對シ工夫ヲ定メ、苛酷ニ涉ラザルノ掃除方法ヲ案出セザル可カラズ。之レヲ外ニシテハ政府財政モ整理緒ニ就カザルノミナラズ、宮内又ハ各部大臣ハ度支ノ困難如何ヲ顧ミズ、唯ダ支出ヲ是レ競ヒ、恰モ攫取ニ類似スル如キ、或ハ度支部内秘密ニ顧問官モ知ラザル別途ノ收入金ヲ貯へ、或ハ度支大臣ハ一ニ大臣ノ私談ニ應諾シ、内閣員ニ評議スル所ナク金員ヲ支出シ、又ハ未ダ處分ヲ要スベキ從來ノ不始末ニ付テモ、如何程ノ金額ヲ要スルヤ推算ノ立チ難キ事少ナカラザルハ實ニ落膽ヲ極メタリ。凡ソ此等ノ事、主トシテ改良ノ名アリテ實ナキノミナラズ、却テ政府ヲ紊亂スル所以ノモノナリ。今馨ガ歸國ニ際シ、陛下並ニ各大臣ハ縱令馨勸ムル所ノ政施要綱ヲ嚴守シ、必ラズ失望ナカル可シト御明言相成候へドモ、之レヲ既往ニ徵シテ將來ヲ推ストキハ、馨當地ヲ去ルノ後、再ビ舊態ノ如キ嫌ヒナキヤ否ヤ窺カニ惑ナキ能ハザルナリ。故ニ馨ハ從來ノ現況ニ加フルニ前言落膽ノ事實アルヲ知リナガラ、歸國ノ上、本國政府ニ向ヒ朝鮮財政ノ整理漸ク緒ニ就キ、且ツ内閣員等ノ交迭モ屢々ナラズ、平和ヲ維持スルニ足ルト明言保證シ、當初ノ意思ヲ實行セシムル能ハズ、何トナレバ則チ若シ馨ハ漠然トシテ之ヲ本國政府ニ向ツテ保證シ、之レヲ勸誘シ、當初ノ意志ヲ實行セシメントス

ルニ及ンデ、一方ニハ

兩陛下、各大臣等證言ノ平和維持、並ニ財政整理ノ事實全ク之レト相反シ、或ル黨派相軋リテ政務改良ハ度外視セラレ、政府モ依然今日ノ如ク或ハ惟ダ目前ノ出來事ニ孜々トシ、或ハ閣員屢々交迭シテ平和ノ實擧ラズ、或ハ法令規則ハ無視セラレ、國費濫出シテ財政整理歩ヲ進ムル能ハザル等ノ事アラバ、馨ハ終ヒニ本國政府ヲ欺キタル罪戾ヲ免レザルノミナラズ、終ヒニハ抑モ本國政府ガ朝鮮政府ノ財政困難ヲ洞察シ、爲ニ企圖シタル好意ニ相反スルモ料ラレズ。故ニ寄贈金ノ如キハ最モ財政ニ關係スルモノナレバ、馨ハ今暫ク宮内府並ニ政府財政整理着々歩ヲ進ムルヤ否ヤ實況ヲ三浦公使ヨリ報告ヲ待チタル上ニ非ラザレバ、當初ノ意思ヲ本國政府ヲシテ實行セシムルハ危懼ノ恐レアリ。尤モ電線處分及ビ日本銀行借款延期ノ二事ハ、當初内言ノ通り其實行ヲ上請シ、三浦公使ヲシテ開談ノ訓令ヲ受ケシムル様盡カス可シ。依ツテ此儀ハ兩陛下ヲ始メ各大臣、協辦ニ至ルマデ深ク御記憶アラシコト希望ノ至リニ堪ヘズ。

朝鮮國王ノ誓文

明治二十八年一月七日午後十一時三十分發在京城井上公使ヨリノ電報ニ依レバ、朝鮮國王ノ大廟ニ告ゲタル誓文直譯左ノ如シ。

- 一、清國ニ附依スル慮念ヲ割斷シ自主獨立ノ基礎ヲ確建ス。
- 二、王室典範ヲ制定シ以テ大系承及ビ宗戚ノ分義ヲ明ラカニス。
- 三、大君主ハ正殿ニ御シテ事ヲ見ラレ、國內政務ハ親カラ各大臣ニ詢リ裁決ス、后嬪、宗戚ハ關豫スルヲ許サズ。
- 四、王室ノ事務ト國家事務トハ須ラク則チ分賦シテ相混合スルナカル可シ。
- 五、議政府及ビ各衙門ノ職務權限ハ明カニ制定ヲ行フ。
- 六、人民ノ稅ヲ出ス事ハ總テ法令定律ニ依ル、猥リニ名目ヲ加ヘ徵收ヲ亂行スベカラズ。

- 七、租税ノ徵課及ビ經費ノ支出ハ總テ度支衙門ノ管轄ニ依ル。
- 八、王室ノ費用ハ率先シテ減節シ以テ各衙門及ビ地方官ノ模範トナス。
- 九、王室費及ビ各官府ノ費用ハ一件ノ概算ヲ豫定シテ財政ノ基礎ヲ確立ス。
- 十、地方官制ハ速カニ改定ヲ行ヒ以テ地方官吏ノ職權ヲ節限ス。
- 十一、國中ノ壯俊ナル子弟ハ廣ク派遣ヲ行ヒ以テ外國ノ學術、技藝ヲ傳習セシム。
- 十二、將官ヲ養育シ、徵兵法ヲ用ヒ、軍制ノ基礎ヲ確定ス。
- 十三、民法、刑法ヲ嚴明ニ制定シ、猥リニ監禁懲罰ヲ行フベカラズ、以テ人民ノ生命及ビ財産ヲ保全ス。
- 十四、人ヲ用フルニ門地ニ拘ハラズ士ヲ求ムルコトハ遍ク朝野ニ及ビ、以テ人才登用ヲ弘ム。

井上公使内謁見

一月十七日午後參内。

大君主 去月二十五日卿ヲ引見シタル翌日、即チ冬至日ニ於テ宗廟ニ詣リ、誓文式ヲ舉行スベキ筈ナリシニ、愛憎面部ノ腫物ハ一層脹ヲ増シタル爲メ、朴泳孝始メ諸大臣モ延期スル方可然トノ奏聞ニ依テ、餘儀無ク一時中止スルコトトシ、其レヨリ洋醫ヲ引キテ治療ヲ施シ漸ク治癒ニ及ビタレバ、過日全ク誓文奉告式ヲ舉行シタリ。

井上 已ニ宗廟社稷へ御誓文モ滯リ無ク相濟ミ、且ツ各衙門ノ官制モ目下着手中ナレバ、追國政改良ノ實ヲ舉グルニ至ルベケレバ、先ヅ以テ貴國ノ爲メ至幸ト云フベシ。

大君主 誓文中ニモアル如ク、政治ハ各大臣ニ諮詢シ、又各衙門大臣ノ職權内ニ屬スル事務ハ各主任大臣ヲ統督シ、之レヲシテ責成セシムベシ。

井上

先日各大臣ト議政府ニ相會シ評議シタル結果、軍隊ノ組織ハ尤モ今日ノ急務ニ屬ストハ各大臣共同一ノ意ナリ。然レドモ老弱混合ナル今日ノ如キ兵丁ノ何程多數ナレバトテ國家ノ爲メ何ノ役ニモ立タザル可シ。且ツ従前ノ例ニ據レバ、軍服モ兵丁各自ノ家ニ於テ調製スルト云ヒ、各給料トシテ受クルハ錢穀モ各家ニ持去ルト云フ如キ區々不規則ナル始末ナレバ、是等ハ宜シク速カニ改良ヲ加ヘ、其ノ兵丁中ニ就テ老朽用ニ堪ヘザルモノアレバ之レニ歸休ヲ命ジ、三年間扶助料トシテ三分ノ一ノ俸給ヲ與フルカ、或ハ幾分ヲ減ズルトカ、相當ノ方法ヲ設ケ處置ヲ施サザルヲ得ズ。將又武官ノ始末ヲスルトスレバ、隨ツテ文官ニモ及バザル可カラズ。若シ文武官ノ間ニ於テ彼此不公平ニ厚薄ノ區別アリテハ、一々又紛擾ノ種子ナリ、扱テ兵士ノ種族ニハ八道各地方官ニ屬スル水陸兵アリ、文官ニハ數多ノ非職官並ニ各衙門ノ小使輩（夏役）ニ至ルベシ。去レバ此ノ兩者ニ對シテ一旦手ヲ着クレバ頗ル煩雜ナル可シト思ハル。故ニ決行前ニ於テ豫メ充分綿密ナル取調ヲ遂ゲ、杜撰ナカラシムコトヲ期セザル可カラズ。尙ホ此外、王室、各衙門ノ御用達トモ云フベキモノ（貢人ト稱ス）ノ上納シタル物品代價ノ未拂金モ多額ナリト聞ク、是等ノ諸口ヲ積算スレバ實ニ百萬圓ノ巨額ニ垂ントス。去レバ當年中ニハ到底之レガ始末ヲ付クル能ハザルハ當然ナレバ、先ヅ以テ其ノ

中ニ就キ第一急務ト思考セララル、モノハ、兵丁並ニ各衙門ノ小使輩ノ給料ナリトス。歳末ニ臨ミ人事ノ常トシテ多少越歳ノ準備ヲ爲スニハ給料ヲ待望セザルハナシ。尤モ是レマデ滯リ給料ヲ悉皆渡スト云フ譯ニハ至ラザルモ、セメテハ越歳ノ手當トシテ一ケ月分ナリトモ支給スル方然ル可シトノコトニ評議一決シ、其ノ金額凡ソ拾參萬圓ハ本使ヨリ第一國立銀行ニ相談シ借入ノ約束ヲ整ヘ置キタリ。此ノ外一般文武官ノ始末方ニ至ツテ篤ト調査ヲ要スルヲ以テ來春ニ讓ヅル事トセリ。

大君主

金錢ノ事マデ卿ニ斯克マデ周旋ヲ煩ハスハ寔ニ氣毒ニ存ズルモ、今日ノ場合、外ニ方法モナケレバ一々卿ニ依頼セザルヲ得ザルナリ。

井上

否、本使一タビ貴國改革事業ニ盡カスベシト決心シタル以上ハ、敢テ其ノ苦勞ヲ辭セザルナリ。兵役ノ事ニ關シ本使一言スル所アラントス。貴國ニ於ケル將來ノ兵備並ニ兵制ハ、如何ナル方法ニ於テ定ムベキヤハ目下ノ問題ニ屬スルナリ。縱令ヘバ全國ニ鎮臺ヲ排置スルニハ、第一地形ノ險要ヲ相シ、隣國ノ兵備如何ヲ察セザルヲ得ズ。又兵隊ヲ養フニハ日本ノ現行徵兵令ニ據ルベキヤ否ヤ、假リニ日本ノ組織ニ據ルトセバ、一國ノ壯丁ハ悉ク兵役ニ充ツルト云フ仕組ニテ、現ニ常備兵ハ三年ノ現役ヲ了ヘ豫備兵ニ編入セラレ、又豫備兵ヲ了ヘタルモノハ後備兵ト

ナル。縦へば此ニ常備兵三萬人アリトせば、先ヅ戰時ニ際シ第一ニ其ノ三萬人ヲ繰出シ、次イデ豫備、後備ヲ以テ補充スルヲ得ルナリ。

去レバ貴國ノ編制モ是レト同一ニスベキヤ、將タ又幾分ノ差違アルベキヤハ充分研究ヲ要スル議ナレバ、孰レ來春着手ノ事トスベシ。

右編制前ハ從來ノ兵丁中ヨリ壯丁ヲ撰ビ訓練隊ナルモノヲ組織シ、一時之レヲ以テ近衛兵ニ充ツルコト、致シタシ。

大君主

然リ、兵制ノ事ハ尤モ適當ニ制定セラレザル可カラズ。而シテ鎮臺ヲ設置スルニハ朕ハ咸鏡、平安ノ兩道最モ目下ノ焦眉ニ屬スルモノ、如シ。是レ隣境ノ關係モアリ、且ツ又此ノ二道ノ人民ハ古來慄悍ノ聞エアリ、現ニ平安道人カ往大康米ノ時代ニ遼東ヲ抄掠シテ著シク彼ノ寒心ヲ來タシタルガ如キアリ。

徵兵令ニ至ツテハ我國ハ工商ノ發達兎角遅々トシテ進マザルノ觀アリ、故ニ余ハ嚴重ナルニ於テハ或ハ一層此等ノ點ニ影響ヲ及ボシ、其ノ發達ヲ妨グルコトナキカヲ懸念スルナリ。

井上

鎮臺ヲ排置スルハ獨リ咸鏡、平安ヲ主トシテ論ズベカラズ。凡ソ鎮臺ノ位置全國ニ幾ケ所ヲ要シ、復タ其ノ兵員ハ何萬ヲ要スベキヤニアルナリ。徵兵令ノ如何ニ依ツテハ

陛下ハ商工ノ發達ヲ妨グルナキヤノ御懸念ナルモ、徵兵令中ニモ自ラ免役ノ方法アリ、假令へバ戶主ニシテ老父母ヲ有シ、其ノ扶持ヲナス者ノ如キハ免役ノ部ニ居ルガ如キ是レナリ。尙ホ一層進ンデ寛大ナルモノヲ求メバ、所謂戶主長男ノ如キモノヲ免除ノ部ニ入ルルモ可ナリ。凡ソ貴國ニ於ケル商工業ノ不發達ハ已往積弊多カリシ結果ニシテ、將來政治ノ改良着々歩ヲ進ムルト共ニ之レヲ誘導獎勵スルニハ自ラ途アリ、即チ農商衙門ノ設ケアル所以ナリ。

大君主

然リ、卿ノ言、洵ニ理ナリ、我國モ地方官吏及ビ小吏輩ガ租稅ヲ私シ、或ハ隱田等ノ弊アリ。(隱田ハ官署ノ記録内ニ公ニ記入セラレザル田地)又權門家ナルモノガ、地方小吏ト結托シ、所有田地ノ地租ヲ輕減シ、成規ノ租稅ヲ拂ハザルガ如キ、一々之レヲ摘發シ、正租ニ就カシメバ敢テ軍備上ノ費用ヲ得ルニ難カラザル可シト思ハル。孰レニセヨ此際全國ノ田地ヲ丈量スルノ要アリ。

抑モ我國朝ノ初メニアツテハ、八道ノ田結ハ(地租ヲ納ムルモノ)四百萬結ナリシニ、中古屢々兵軍ヲ經ルニ從ヒ今ヤ僅カニ八十萬結ニ過ギズ。豈驚クベキニアラズヤ。今ヲ距ル十年前、鄭秉夏ニ計リ、貴國人ナリ若クハ西洋人ヲ聘用シテ充分ニ丈量ヲ爲サシメタシト語リタリシ事アリシガ、終ヒニ實行ニ至ラズシテ止ミタリ。

井上

夫レ等モ略ボ取調ヲ爲シタリ。貴國ノ地方官ナルモノガ一方ニ水害、旱災ノ爲メ一タビ土地ノ荒廢ニ歸スルモノアレバ、直チニ之レヲ免租部類ニ編入シ、他日其ノ復耕ト否トニ拘ラズ永遠國庫ノ缺損タルヲ免カレズ、一方ニ新墾地ノ生ズルトキモ、亦同ジク其稅ハ國庫ニ納マラザルナリ。去レバ此ノ二者共ニ免稅ナルヤト云ヘバ否ラズ、是レ必竟地方官ノ私囊ヲ肥スモノタルヤ明カナリ。

夫レ地方官ノ權力今日ノ如ク漠然過大ナルハ宜シカラズ、過日モ奏上シタル如ク、之レガ幾分ヲ削ツテ中央政府ニ收攬セザルヲ得ズ。然ルトキハ國稅徵收ノ如キモ自カラ中央政府ノ直轄ニ屬スベキナリ。

從來地方官並ニ小使輩ガ何故ニ斯ク地方民ヲ虐ゲ、民財ヲ貪ルヤヲ究ムルニ、即チ賣官、買職ノ結果ニ外ナラズ。宮室ハ地方官ヲ賣リ、地方官等吏ヲ賣ル。之レヲ買ヒタルモノ其ノ元資ノ償還ニ汲々トシテ民血ノ吸收ニ遑ナキモノノ如シ。

斯ノ如クシテ安ンゾ國民ノ富強ヲ望ムベケンヤ。聞クガ如クンバ京城ノ各衙門ノ下吏各倉庫ノ庭直(庫番人)ニ至ルマデ悉ク賣買セザルハナシ。(大君主、然リ、官隸ニ至ルマデ賣買セラル)而シテ何故然ルヤヲ探ルニ、給料ハサテ措キ、内ニ私贓アルガ故ナリ。一利アレバ一害之レニ伴フベキハ數ノ免レザル所ナレ共、賣官ノ弊害タル民生

ニ禍毒ヲ流ス實ニ尠少ニアラズ。賣官ヲナセバ一時ニ王室ニ財ヲ生ズベシ、去レバ一ノ財源ノ如キ考ヘモアランカナレドモ、延イテ國民一般ニ流布スル慘禍ハ殆ンド國民ヲシテ枯死セシムルノ悲境ニ陥ラシムルモノナリ。豈寒心セザルベケンヤ。

土地丈量ノコトノ如キモ、理財上必要ナキニアラズ、然レドモ亦其ノ方法宜シキヲ失スレバ不可ナリ。否、却ツテ地方民心ヲ動カシ、終ニ之レガ爲メ蓆旗ヲ飜ス恐レナキ能ハズ。故ニ之レヲ行ハント欲セバ先ツ充分地方ノ情形ヲ審ニシ、極メテ地方民弊ヲ避クルノ方法ニ則ラザルベカラズ。故ニ着手前ニ於テ地方警察ノ仕組ヲ整へ、其ノ實カノ生ズル上ニアラザレバ、無暗ニ着手スベキニアラズ。

我が日本ニ於テ明治初年土地丈量ニ着手シテ全ク其ノ完結ヲ告グルマデハ、殆ンド官民ノ財産二千萬圓以上ヲ費セリ。而シテ其結果尙ホ各處ニ不平ノ聲ヲ聞キ、或ルニ、三ノモノハ竟ニ蓆旗竹槍ニ訴フルモノサヘアリタリ。

貴國丈量ノ事必ラズ事前ニ慎重ヲ要スルモノ、經驗上本使微衷ノ存スル所以ナリ。尙ホ此ノ事柄ニ就テハ度支顧問官ヲシテ取調ヲナサシメタル上、其ノ着手スルト否トハ警察權ノ實行否ハ諸般ノ準備ヲ經タル後ニアルベシ。

大君主

丈量ノ事、地方ノ人氣ニ關シ民擾ヲ排起スベシトノ言、左モアルベシ。我國ニ於テモ

井上公使内謁見

或ハ人民ヨリ寧ロ地方ノ小吏ナドガ從來ノ所得ヲ失ハン事ヲ恐レテ、地方民ヲ使嗾シ之レト結托シテ紛擾ヲ起スベキハ必然ナリ。

井上 其レ故先刻ノ中央政府ノ集權ガ必要ナリ。又ハ地方警察ノ組織ガ必要ナリト申セシハ此等ノ妨害ヲ豫防スルニハ是非トモ此ノ二件ヲ先ニセザルベカラズ。然ル後適當ノ方法ニ據リ土地丈量ヲ爲スニ於テハ果シテ實効ヲ舉グベシ。

大君主 地方官賣買ノ一事、從前ハ成程此弊アリシニ相違ナキモ、本年五月以來全ク政府大臣ノ手ニ於テ地方官ノ任免ヲ爲セバ、斷ジテ此ノ事ナシ。然ルニ此頃仄カニ聞ク(低聲)政府大臣中密カニ地方官ヲ賣買スルモノアリト、之レガ爲メ朴泳孝ハ切リニ嘆息話ヲ爲シ居タリ。尤モ此事充分ニ秘シテ各大臣ニモ口外セザルヤウ望ムナリ。

井上 曾テ此事モ薄々洩レ聞カザルニモアラズ。殊ニ過日朴泳孝氏ヨリモ地方官一般ニ大改革ヲ行ハントノ提議アリタレドモ、本使謂ラク、目下何程清廉潔白ナル人物ヲ採用シテ地方官タラシムルモ、地方官制等ノ組織整ハザル以上、矢張り從前ト著シキ差異アラザルベシト信ゼラルレバ、未ダ大早計タルヲ免レザルベシトテ拒ミ置キタリ。

大君主 此頃尙ホ賣官行ナハレシトノ事ハ、朕ガ口ヨリ出デタリトノ評判高マリテハ甚ダ迷惑致ス次第ナレバ、只ダ卿ノ含ミマデニ止メ置キタシ。

井上 委細承知致セリ。曾テ奏上致シタル如ク、世子宮ガ此後近衛都督トシテ近衛兵ヲ統率セラレントナラバ、兵制ノ規律又ハ兵學ヲ修メ、軍事上ノ事ニ通曉セラレザル可カラズ。

大君主 就テハ軍務衙門ノ顧問官ナル楠瀬中佐ヲ時々召見セラレテ、軍事上ニ關スル御下問アラバ大ニ有益ナル可シ、又訓練隊ノ練習ニモ臨マレ親シク實地練兵ノ模様ヲ御一覽アラバ如何。

大君主 來春少シク暖氣ニ赴カバ左様スベシ。

井上 來春ニ及バ、壯年者流中逸才ヲ選ミ、二十人位ノ士官生徒ヲ我國ニ送り、戶山學校ニ入學セシメ、軍事上ノ學問ヲナサシメルヤウ詮議アリタシ。又タ京城ニハ士官學校ヲ興シ、專ラ士官ヲ養生セシメラレタシ。何程多數ノ兵士ヲ募集スルモ、士官ニナルベキ人物ヲ養生セザレバ、是レ亦無用ノ長物ノミナラズ、大害物タルヲ免レズ。

大君主 士官生徒ヲ貴國ニ派シ留學セシムル事ハ甚ダ好シ、是レト同時ニ京城ニ士官學校ナルモノヲ興サシムルヤウ致シ度、宜シク卿ノ周旋ヲ煩ハスベシ。

井上 將校士官ノ進級並ニ其ノ待遇ノ如キモ、自カラ普通文官ト區別セラレザル可カラズ。此ノ武官ナルモノハ終身官ニシテ、其ノ老衰用ニ堪ヘザルニ至ラバ退職ヲ命ズル等、

一定ノ制ヲ立ツル必要アリテ、退職後ト雖モ俸給ノ幾分ヲ與フルヲ要ス。若シ然ラズシテ他ノ文官ト同様ニ、其ノ進級黜陟ニモ内閣ニ於テ干涉スルガ如キアラバ、武官ノ感情ヲ害ヒ且ツ之レヲシテ一定軍規ノ下ニ安然服スル能ハザラシムルノ憾ミナキ能ハズ。且ツ兵制ニ關シテハ軍務衙門アリテ、大元帥ニ直隸シ、一切軍事上ノ計畫ヲ任ズル例ニシテ、毎議一回參謀官會議ヲ大元帥ノ下ニ開キ、各鎮臺ノ參謀官ハ之レニ參會シテ將校進級ノ如キモ會議ニ附セラルルナリ。去レバ貴國ニ於テモ目下軍制改革ノ時期ニ於テ參謀部ノ設ケアルヲ要スルモ、如何セン未ダ之レニ充ツベキ將校モ備ハラザレバ、當分軍務衙門ニ於テ之レヲ兼掌シ、追テ人員ノ養生セラル、ヲ待ツテ組織スルノ外アラザルベシ。

大君主

近衛兵ノ編制ハ如何、聞ク所ニ據レバ、貴國ニ於テハ各鎮臺ヨリ尤モ技術優等ニ位スルモノヲ撰拔シテ之ニ充ツルト、果シテ然ルヤ。

井上

否、我國ニ於テハ近衛兵ハ矢張り東京ニ第一師管ノ徵兵適齡者中ヨリ拔擢シテ之レヲ充ツ。其ノ歸休ヲ命ズル等ノ手續キモ毫モ常備兵ト異ナル所アラズ。貴國ノ近衛兵モ當分軍制ノ整理緒ニ就カザル以前ノ訓練隊ヲ以テ一時之レニ充テ、追テ一定ノ編制法ノ設ケナカラザルベカラズ。又軍隊組織上ニ關シテモ貴國ハ我國ノ現行法ニ基クカ、

但シハ當分ノ中、聯隊マデノ組織ニ止メ、一聯隊ハ二大隊ヲ以テスルトモ、其邊ハ適當ノ法ニ於テスベシ。必ラズシモ我國ノ現行法ニ據ラザルベカラズトノ限ニアラザル事ト思考致スナリ。

大君主

近衛兵ノ編制等ニ就テモ卿ハ其ノ宜キヲ察シ、我國情ニ適スル方法ニ據リ組織スルヤウ盡力アリタシ。宮内府官制ノ事ハ急ヲ要スルガ故ニ、宮内大臣ト協力シテ速カニ調査ヲ遂ゲ編制スル事ヲ望ム。其レニ就キ貴國宮内省ノ現行官制ヲ一覽シタク存ズレバ卿ノ手許ニ於テ翻譯ニ附シ閱讀ニ便ナラシメラレタシ。

井上

我が宮内省官制ノ儀ハ公使館ノ書籍中ニ就キ取調べ、若シ無キ時ハ宮内省ニ電報ヲ以テ送付方掛合ヒ申ス可シ。又貴國宮内府官制編纂ノ事ハ顧問官ニ命ジ成ル可ク急ガセ申ス可シ。尤モ是レニ付テハ充分貴國ノ典例慣習ヲ參酌スルノ必要之レ有ルコトト存ズレバ、本使モ一層綿密ニ貴國ノ古典ヲ參照致シ度存ゼリ。終ニ臨ンデ一言ヲ奏シ度キ事アリ、聖聽ヲ煩ハスヲ得ベキヤ如何。

大君主

毫モ差支無シ、緩々暢奏スベシ。

井上

夫レハ貴國ノ法律ニ關スルコトナリ。抑モ貴國ニ於ケル現行法律ナルモノハ何ニ據ルベキヤト申セバ、即チ大明律是レナリ。之レヲ閱スルニ、行政處分モ軍律モ普通刑法

中ニ錯間シ居ルナリ。斯クテハ今日ノ時勢ニ適恰シタルモノニアラズ。宜シク之レヲ分別シテ曰ク刑法、曰ク行政處分、曰ク軍律ト明カニ規定セラレザルベカラズ。從ヘバ租税ノ滯納者ハ行政處分ヲ受ケ、軍人軍律ニ觸レバ軍法會議ニ附セラレテ軍律ニ處セラレ、通常罪犯ハ普通刑法ニ據リ裁判所ニ審問ヲ受ケ、其ノ裁斷ニ據ル等、各法律ノ主能ニ於テ制裁ヲ與ヘラレザルベカラザルナリ。

以上ハ今日開明國ニ行ハル、所ノ制法ナレバ、貴國モ愈ヨ舊弊ヲ矯メ陋規ヲ蟬脱シテ開明ノ治ニ就カント欲セバ、此等ノ法律トテモ改正ヲ要スルナリ。

大君主

然リ、是ノ種法律モ孰レ改メテ編纂セザルベカラズ。

陛下ハ此時我國普通刑法並ニ陸海軍刑法ノ對照表ヲ取出シ、是レハ過日義和君ヲ貴國ニ差出シタシ節、司法大臣ヨリノ寄贈品ナリ。是レニ據ルモ貴國ノ法律ノ整然トシテ秩序アルヲ知ルニ足ルトテ稱賛セラル。右ニテ奏上ヲ終リ退出セリ。

内謁見筆錄

二月十二日、内謁見始末。

井上

貴曆元旦ニハ進宮祝賀ニ及ブベキ筈ナリシモ、折柄有栖川親王殿下薨去ノ訃音ニ接シ遠慮中ニアリシ爲メ、參内伸賀ノ禮ヲ缺クニ至レリ。

大君主

親王ノ薨去ハ寔ニ惜シム可シ。聞ク親王ハ貴國維新ヨリ以來身ヲ國事ニ委ネ勳勞アリシ御方ナル由、嘸ゾ貴國 皇帝陛下ニモ遺憾ニ思召スナルベシ。

井上

親王ハ皇室ノ柱石ニシテ、參謀總長ノ重任ヲ負ハセラレ、而カモ日清ノ交戰中ニシテ薨去アラセラレタルハ返ス〜モ遺憾ノ事ナリ。

大君主

本日ハ各大臣參内ノ上、奏事ヲナスノ定日ナリ。己ニ各大臣モ皆進宮セリト云ヘバ、卿モ同席ニテ奏上ノ模様等一覽セバ如何、(昨夜來聞キ得タル處ハ、昨日議政府會議ニ

於テ内務大臣朴泳孝突如トシテ一ノ提議ヲ爲シ、曰ク各衙門勅任官ハ改革事業ノ不進歩ノ无ヲ自ラ負ヒ總辭職ヲ爲スベシト論ズルヤ、二、三大臣ノ異議アリタルモ、其ノ多數ハ之レニ一致シ、本日奏事ノ定式日ナルヲ幸ヒ、一同ハ直ニ大君主ニ奏聞スベシ云々トノ事、左レバ本日本使ノ謁見ハ諸大臣ノ奏聞ニ當ツテ其ノ處置ニ叡慮ヲ惱マサレ、暗ニ本使ヲ其席ニ列セシメ調理ヲ爲サシメントノ意ニ外ナラザルガ如シ)

井上

承レバ各大臣ニハ總辭職ヲ爲スベシトノ目論見有之由、先刻休憩所ニ在ツテ本使ハ痛ク各大臣ノ淺慮ヲ非難致シ置キタリ。此ノ國家多事ノ時ニ當ツテ、當局者タル國務大臣タルモノガ兒戲ニ類スル舉動ヲナシ、國家ヲ忘レ一身ノ安逸ヲ計ラントスルガ如キハ抑モ何事ゾ。惟フニ諸大臣最初ノ決心ハ、時候溫暖ニ連レ漸ク懈怠シ、春風和氣ノ爲メ搖動セラレタルニアラザルカ。何ゾ其レ豹變スルコトノ速カナル。殊ニ大臣中年長者ニ向ツテハ其ノ霜爲ス自髮ニ對シテモ前後ノ考ヘハ出ソウナモノニト、本使ハ此ニ至ツテ殆ンド貴國ノ事ハ懺厭ニ堪ヘザラシメタリ。申サバ諸大臣ハ此國ノ主人、本使ハ客ナリ。自カラ主客ノ別ナカルベカラズ。然ルニ主人其人ニシテ到底見込ナシトテ厭氣ヲ催シ去ラントスル場合ニ臨ミ、客タル本使ガ如何ニ貴國ノ改良ニ熱心ナレバトテ、此國ノ臣民ニモアラズ、亦タ義務ノ存セザル以上ハ、其レ之レヲ如何ニス

ベケンヤト詰リ、並ニ諸大臣ノ如キハ區々タル小節ニ拘泥シテ、終ニ國家ヲ滅亡ノ淵ニ沈淪スルモ顧ミザルノ動作ナリト。且ツ詰リ、且ツ戒メ置キタリ。本使ハ是レヨリ先キ各大臣ト諸政府ニ相會シ、諸大臣ニ責ムルニ法ヲ無視シ、互ヒノ權限ヲ犯シ、或ハ輕忽事ヲ處シ、毫モ意ニ介セザルガ如キ傾キアル事實ヲ屢々發見シタルヲ以テ、其ノ廉々ヲ審ニ論舉シ、斯クナル上ハ官制、職務權限又ハ法律規則ノ制定頒布ヲ見ルモ徒ニ虛文ニ過キズシテ、更ニ實効ヲ見ザルベシト察セラレバ、如何ニ本使ガ貴國ノ爲メヲ思ヒ、刻苦經營スルニセヨ、必竟徒勞タルベクンバ寧ロ事前ニ止ムルノ優レルニ若カズ。故ニ最早諸大臣ヲ助ケテ改革事業ヲ爲サザルベク決心セリ。故ニ爾今全ク各大臣ト改革上ノ關係ヲ斷チ、各大臣モ亦本使ニ向ツテ御相談ハ爾今無用タルベシト申込ヲ試ミタリ。惟フニ諸大臣ガ此回ノ總辭職ナルモノガ之レニ原因スルカ、將來然ラザレバ例ノ疑心暗鬼ヲ生ジテ互ヒニ猜嫌ノ情、嫉妬ノ心ヲ起シ此ニ至リシカ、孰レニセヨ二者其ノ一ニ出デタルヤ明カナリ。

大君主

卿ガ議政府ニ於テ席上論ジタル事柄ガ總辭職ノ主因トナリタルニハアラザルベシ。又卿ガ國政改良ニ一切關係セザルベシトノ事ハ、朕始メ諸大臣モ當惑致スナリ。何ントナレバ此ノ國歩多難ノ時ニ當ツテ、改革事業ヲ進捗セシムルハ偏ニ卿ノ盡力ニ賴ラザ

ルベカラズ。去レバ諸大臣ノ事務ニ不慣ナル點ハ一々卿ノ忠告ヲ容レ、其ノ開導ヲ請ケザルヲ得ズ。卿モ其ノ勞ヲ吝マズシテ教導ノ責ヲ負ヒ、和衷協同之レヲシテ成功セシメンコトヲ朕ガ重ネテ望ム所ナリ。諸大臣總辭職ヲナサントスルニ至リシ原因ハ、朕モ未ダ知悉スル能ハズシテ、轉々疑訝ニ坐スルモノナリ。就テハ幸ヒ卿モ同席ノ上各大臣ヲシテ其ノ意見ノアル所ヲ以テ具サニ奏セシメ聽聞シテハ如何。

井上 今日ハ他ニ奏上致シ度事有之ニ付、幸ヒニ陛下ノ左右ヲシテ姑ク退席セラレンコトヲ、
(是ニ於テ宮内、外務ノ兩大臣ハ陛下ノ命ニ據リ退出シ去ル)

大君主 威海衛ニ向ヒタル日本軍隊ハ大捷ヲ得タリトノ報知アリタリト朕之レヲ聞ク、甚ダ快
絶勇猛ナル日本軍隊ノ爲メ讚美ニ堪ヘザルナリ。

井上 我が軍隊ノ勇猛ナル此ノ嚴冬朔風ヲ冒シ到ル處偉大ノ奏効ヲ見ル、帝國ノ爲メ大慶ノ
事ナリ。

大君主 然リ、大慶々々。

井上 各大臣ガ總辭職ヲナストノ事ニ付陛下ハ如何ニ被成ル、御思召ナルヤ。

大君主 總理大臣ハ兎角清國崇拜ノ傾キアリ、度支ハ頑固、軍務ハ金錢上ニ關スル醜聞アリ、
此ノ大臣等ハ如何ニスベキ、或ハ其ノ辭表ヲ聞キ届ケ、其他ハ從前ノ通り勤績ヲ命ズ

ベキヤ、其ノ邊ハ卿ノ考案ニ聽カントス。

井上 多少其等ノ不都合モ之レ有ルベシ、去リ乍ラ本使ガ抑モ事ノ初發ニ於テ奏上セシ如ク、
幾度大臣ヲ更迭セラル、モ本來事務ニ老練ニ、才能卓越ナル人物ノアラザル限りハ、
到底無益タルベシ。否、寧ロ進歩ヲ沮喪セシムルナリ。何トナレバ新任大臣ナルモノ
モ矢張り同様ノ人物ニテ、尠シモ事務ニ慣熟セザルハ勿論ナレバ、又是レニ向ツテ初
メニ溯リ事新タニ教訓ヲ始メザルヲ得ズ。而シテ其ノ人物ガ僅カニ慣習シ得タル時分
ニハ再ビ交迭スルトセバ、國務ハ緒ニ就クノ遑ナクシテ終ニ逡巡不振ノ時期中ニ埋没
シ了ルノ外ナキナリ。

故ニ前日本使ガ貴國ノ爲メ屢々得策トスル所ハ、各大臣タルモノ少ナクモ四、五年ハ
國事ニ從事スルノ決心ナカルベカラズ。又陛下モ其ノ思召アツテ必ラズ輕卒ニ各大臣
ノ更迭ヲ行ハセラレザルヤウ望ミタル所以ナリ。

朴泳孝ヲ以テ兩陛下ニ御信用相成度ト奏シタルハ本使ナリ。同人ハ王室ノ宗戚ニシテ
直ニ中宮殿ニモ自由ニ謁見シ、諸事都合宜シカルベシト存ジタルナリ。然レドモ當時
本使ハ思フ所アリ、朴氏ニ向ツテ曰ク、其身王室ノ近親ナルガ故ニ常ニ王室ニ出入セ
バ、或ハ他ノ人ハ云ハン、再ビ世道コソ出來タリトテ頗ル物議ヲ來タスナランカ、然

レドモ此等ノ批評ヲ受クルモ決シテ厭フニ足ラズ、即チ苦心ノ人トナリテ毫モ屈撓セザルノ決心覺悟ナカルベカラスト申シタルニ、同氏モ甚ダ困難ナル場合多々ナラン、再應苦情ヲ訴ヘタルコトアリ。果セル哉、此ノ頃説ヲ作スモノハ曰ク、内務大臣ノミハ王室ニ親近シ、其ノ權力甚ダ強シ。殆ンド昔日ノ世道、第二閣泳駿ノ再來ニ相譲ラズト、即チ本使ガ曩キニ豫想セシ所ト異ナラザルヲ。而シテ此等ノ感ヲ惹キ起スニ至リシ原因ハ如何ト熟考スルニ、朴泳孝氏ガ軍務大臣ノ職權ニ立入タルノ一事ナリ。是レヨリ先キ軍務大臣ハ訓練隊ヲ組織スルニ當ツテ、申泰休ナルモノヲ舉ゲテ其ノ隊長ニ命ジタルニ、朴氏ハ是レニ向ツテ不服ヲ聲シ、其職ヲ他ニ移サントセリ。然ルニ之レニ關係アル我ガ楠瀨中佐ハ大ニ不平ヲ抱キ、其ノ處置ヲ非難シテ本使ニ告ゲテ曰ク、軍隊ノ事ハ他ノ大臣ト異ナリテ左様ニ輕易ニ交迭セシムベカラズ。特ニ訓練隊長ノ如キハ組織尙ホ淺ク、漸ク其ノ訓練ニ着手スルヤ否ヤ、早ク已ニ其ノ移動ヲ見ル如クンバ、到底其技ニ熟スルノ違ナルベシト、其ノ言フ所大ニ理アリ。故ニ本使ハ其ノ移動ノ極メテ不可ナルヲ以テ、軍務大臣ニ向ツテ忠告セシ事アリ、之レヲ聞ク軍務大臣ハ其ノ主唱者ニアラズシテ、寧ロ不同意ヲ唱ヘタルモ、朴内務ハ立入ツテ其ノ不可ヲ論難シタリ、是レ明ラカニ他ノ權限内ニ容喙ヲ試ミタル不當ノ事ナリト云ハザル可カラズ。即チ朴氏ヲ疑ハントスルモノハ云ハントス、渠獨リ權力ヲ專ラニシテ他ノ職權ヲ蹂躪セントスルモノナリト。

大君主

申泰休ヲシテ隊長ノ職ニアラシム可カラズ、異動セシムベシトノ説ハ、朕ガ意ニ出デ即チ朴泳孝ニ命ジタルナリ。其故如何ト云ヘバ、申ハ甲申年ニ於テ其ノ所爲穩カナラザルコトアリ、次ギニ又丙戌年ニ於テ袁世凱ハ大院君其他二三ノ者ト相結托シテ隱謀ヲ企テタル節、今ノ江華中軍黃憲周、京畿監司申猷求ナドト氣脈ヲ通ジ、先ヅ第一着ニ火ヲ大院君ノ邸宅ニ放チ、之レニ口實ヲ借り大院君曰ク、閔族ハ己レヲ害セントノ隱謀ニ出デ、火ヲ我ガ屋ニ放テリ、危險云フベカラズ、宜シク大闕ニ入ツテ國王ト安危ヲ共ニスベシトテ大闕ニ入ルヤ、之レニ内應スルモノアリテ朕並ニ中宮ヲ擁シテ避亂ヲ名トシテ東小門ニ出デシム。此ニ申泰休ハ手勢(壯衛營ノ領官)ヲ率キ門外ニ埋伏シ、朕一行ヲ襲ヒ戰害セントノ謀略ヲナシタル一人ナリ。而シテ大院君ハ一ノ咨文ヲ北京ニ送り、事實ヲ捏誣シ國王ノ不徳ニ出テ、國政紊亂終ニ其身亂軍ノ中ニ斃ル、ニ至レリ。國一日ノ主ナルベカラズ、故ニ孫李峻鎔ヲ建テ王位ヲ繼ガシメタリトノ事ヲ以テ段落ヲ附ケントセリ。其ノ恐ル可キノ密計隱謀ハ閔泳翊ノ手ニ於テ見出サレタリ。然レドモ泳翊ハ是レト同時ニ其ノ身上ニ害ノ加ランコトヲ恐レテ脱シテ香港ニ走

リ、姑ク其ノ凶手ヲ避ケタルナリ。已往ノ事此ノ如シ、今是ニ國家ノ干城タルベキ、而カモ其原素タルベキ訓練隊ノ隊長タラシムルハ甚ダ不安心ニ思ハルレバ、密カニ朴泳孝ヲシテ之レガ改移ヲ促シタル始末ナリ。

井上 去ル御懸念アルモノヲ何故最初軍務大臣ガ奏上スルニ當リ拒否セラレザリシヤ、甚ダ訝シ、蓋シ右ハ趙軍務ノ專斷ニ出デタルヤ如何。

大君主 趙軍務ヨリ任用ノ事ヲ奏上シタルハ事實ナリ。然レドモ當時ハ可否ノ言ヲ發セズシテ只ダ一々首領シタルマデナリ。

井上 陛下ガ殊更ニ可否ノ御言葉ヲ發セラレザルモ、已ニ御首領アリタル以上ハ最早其レニテ御裁可ヲ與ヘラレタルモノト認ムルニ充分ナリ。又從前世道ナルモノガ一國ノ政治ヲ專握シタル場合ト異ナリテ、今日ハ各大臣ナルモノ各其職務權限ヲ有スルナリ。故ニ事ノ軍務ニ關スルモノハ軍務大臣ニ、法務ハ法務大臣ニ、内務ハ内務大臣ニ、各其主任者ニ就キ御相談アルハ當然ナルニ、左ナクテ筋違ヒナル内務大臣ニ軍務ニマレ、法務ニマレ、其他各衙ノ事ヲ御相談アリテハ、勢ヒ偏使ニ涉リ事公平ナル能ハザレバ、以來ハ屹度御注意アラン事ヲ望ムナリ。

大君主

然リ、以來ハ左様スベシ。

井上 陛下ノ御前ニ於テ甚ダ憚リ多キ事ナガラ、過日議政府ニ於テ大院君ト云フ御方ハ姦雄ナリトノ言ヲ披露セリ。同君ハ本使ガ内政干涉ノ不可ナルコトヲ忠告致シタル後、口ニハ再ビセズト云ハル、モ、其實内々誰某ヲ何ノ役ニ採用シ吳レヨナドトノ注文ヲ出サル、由、又農商大臣ナドハ直ニ自身ハ往來セザルモ、中間ニ人アツテ議政府ノ議事ノ模様ナドヲ切りニ内報スルト承リタリ。

兎角此ノ御方ハ無事ニ苦シムト云フ如キ觀アリテ、何カ變事アラバ一躍シテ世道デモ握リ度シトノ考ヘハ始終胸中ニ浮ブナルベシ。去レバ兵制ノ改革ノ際ナドニハ、多數ナル不平心ノ兵丁ヲモ出スコトナレバ、此等ガ忽チ大院君ノ意ヲ迎ヘ、十五年ノ覆激ヲ再演セマジキモノニモアラズ。故ニ本使ガ各大臣ニ向ツテ頻リニ注意ヲ與フルハ、法ハ嚴肅ナラザルベカラズ、若シ一度法ヲ無視スルニ於テハ法ハ死物ト換ラザルナリ。夫レ法ニシテ嚴行セラレンカ、到底非道横行スベキ餘地アルモノニアラザルナリ、之レヲ聞ク先頃大院君ハ朴泳孝ヲ招キ、觀相家ヲシテ暗ニ其ノ容貌ヲ相セシメ、然ル上其者ノ言ニ、兩陛下ニハ險難ノ相アリトカ申上ゲタル由、果シテ此ノ事アリヤ。

大君主 然リ、觀相ノ事アリシ。

井上 是レ笑フ可キ兒戲ニ較シキ事ナレドモ、大院君ニハ何カ爲ニスル所アリテ然ルナラン

カ、何レニセヨ同君ハ不平黨ノ一人タルヲ免レザルナリ。何ニハ兎モアレ各大臣上奏
辭職ノ事ハ差掛リタル問題ナルガ、此ノ議ニ付陛下ノ御思召ハ如何。

大君主

各大臣ノ更迭ハ卿ノ奏言ニ據レバ不可ナリト云フ、然ラバ先ヅ此ノ儘ニスベシ。然レ
ドモ度支ハ平常ノ固執家、又タ此回モ其ノ辭職ヲ固執スルモ圖ラレズ、果シテ然ルト
キハ此ノ分ナリトモ許スベキヤ、卿ノ考ヘハ如何。

井上

此際縱令如何ナル事アリトモ大臣ノ更迭ハ宜シカラズ。總辭職ハ以テノ外ノ事ニシテ
國體上ニモ關係致スナリ。故ニ本使ハ一人ノ大臣モ變更ナキヤウ致シ度シ。成程度支
大臣ハ強性ナル人物ナリ、然レドモ自今各衙門ノ官制モ整頓シ、各々其主管ノ事務ヲ
進捗セシムルニ當リ、軍務衙門ハ兵丁ヲ増スベシ。兵舎ヲ建築スベシ。工務ハ礦山ヲ
起シ、郵便電信ヲ布設スベシ。法務ハ何ニ、内務ハ何ニ、皆銘々其レ々々ニ仕事ヲ始
ムルニ際シ、財政ハ此等多數ノ出費ヲ許サザルニ遇フテハ、度支大臣ノ強性堅執ニア
ラザレバ、誰カ能ク之レヲ拒否スベキ。是レ度支ノ強性ハ以テ此等ノ難局ニ應ズルニ
足ルベシ。今日ノ場合幾程撰ンデ大臣ヲ變更スレバトテ、貴國人中、理財ニ長ジ經濟
ニ秀デタル人ニシテ、強性ヨク事ニ當ル人ヲ得ント欲スルモ得ベカラザルナリ。由之
觀是、大臣ヲ動かスコトノ不得策タルヤ論ヲ俟タザルナリ。

大君主

卿ノ考案誠ニ宜シ、只ダ今日各大臣ノ上奏ニ當ツテ將タ之レヲ如何ニセバ可ナラン。

井上

各大臣皆揃ツテ入闕シタリト云ヘバ、孰レ御前ニ奏スルニ總辭職ノ事ヲ以テスルナラ
ン。果シテ然ラバ陛下ハ之レニ答ヘラル、ニ、幸ヒ今日井上顧問官ニ總辭職ノ事ヲ諮
詢シタルニ、同顧問官ハ各大臣ガ法律ヲ無視シタル事柄ヨリ起ツテ、議政府ノ席上各
大臣ニ忠告シタル所ヲ以テ具サニ奏シ、斯ノ如クナル以上ハ、最早貴國ノ事如何トモ
スベカラズ、況ンヤ此ノ危急ノ時機ニ當リ一身ノ安固ヲ計ラン爲メ總辭職ヲ企ツルナ
ドトハ、國家ノ重キヲ負ヒ、之レト興亡ヲ共ニスル大臣タルベキモノノスベキ事ニア
ラズト大ニ攻撃シ、不滿ノ色アリテ容易ニ折合フ氣色ナカリシモ、朕ハ強ヒテ其ノ再
考ヲ促スニ至ツテ、然ラバ熟考スベシト答ヘタリ。

朕思フニ、諸大臣ガ此ノ國家危急ノ時機ニ坐シナガラ、之レヲ顧ミズシテ職ヲ辭スル
ガ如キハ國家ニ對シテ忠實ナル所以ニアラズ、朕ハ此際大臣ノ辭職ハ一切採用セザル
ベク決心ス。諸大臣タルモノ宜シク身ヲ國家ニ委ネ、朕ガ旨ヲ領シ、各々其ノ職ヲ鞅
掌シ、一日モ其ノ職責ヲ空フスベカラズ云々、又タ諸大臣退出後、殊更ニ總理大臣ヲ
召シ出サレ、陛下ハ同大臣ニ明朝公使館ニ往キ井上ヲ見テ意見ノ有スル所ヲ何トナク
探リ試ムベシトノ事ヲ御含メ相成度シ。然ル後、金總理我ガ館ニ來訪セバ、此回ノ發

動ニ關スル原因等篤ト相糺シ、本使ノ卑見モ披陳致ス可シ。

大君主 然リ、左様スベシ。此期ハ兎角卿ノ盡力ニ據リ調和ヲ望ムナリ。

井上 尙ホ此ニ一言兩陛下ニ望ミ、併セテ其採納ヲ得度キ事柄ハ、稍ヤ破格ノ嫌ヒアリト雖モ、此ノ大政改革ニ際シ、區々ノ小節ヲ顧ミルニ違アラズ、中宮陛下ハ其ノ宗親ニノミヲ限り謁見ヲ許サル時バ、是レ取リモ直サズ疑惑ノ種子タレバ、寧ロ各大臣ニモ一樣ニ謁見ヲ賜ハルノ門ヲ開カル、方、公平ニシテ諸人ノ疑惑ヲ解クノ一方便トナル可シ。併シ乍ラ是レハ貴國ノ舊慣ヲ破ラル、事ナレバ、容易ノ事ニアラザル可ケレバ、姑ク時機ヲ見計ヒ御決行相成方然ル可シ、又タ大院君ガ宮内ニ御同居アル間ハ最モ困難ニシテ不便ナラント察セラルレバ、同宮ニモ其中本邸ニ引取ラル、日モアルベシ、其ノ上ニテ御實行アラセラレテハ如何ヤ。

大君主 今ヨリ百年前ノ王妃、即チ今ノ金總理大臣ノ家ヨリ出デタル金氏ガ、入輿後間モナク宗廟ニ參詣ノ節、輿廉ヲ捲キ市民ノ拜觀ヲ許サレタル事アリ。其ノ詞ニ朕國母トナル、安ゾ赤子ヲ見ル事ヲ厭ハンヤト、後世大ニ其ノ美德ヲ頌ス、今ヤ我が國一新ニ當リ、而カモ國家ノ重キヲ負フ國務大臣ヲ面見スルニ何ノ不可ナランヤ、追々左様ニ致スベシ。

井上 今日ハ已往世道ナルモノガ一人ノ手ニ國政ヲ專横シタル時代ト異ナリ、各衙門大臣ナルモノハ孰レモ平等ノ權利ヲ以テ國政ニ參與シ、其ノ職務權限ニ因リ事務ヲ主宰スレノ責任ヲ有セリ。故ニ陛下ハ此等大臣ニ對セラル、ニハ、尤モ公平ニ同一ノ殊遇ヲ與ヘラレザル可カラズ。若シ互ヒノ間ニ親疎厚薄ノ別アリトセンカ、其ノ感情ヲ害シ、終ヒニ其ノ統一ヲ缺クニ至ラン。而シテ是レヨリ種々疑惑ヲ生ジ、政府部内ハ常ニ風波ノ止ム時ナカルベシ。例ヘバ（此時陛下ノ前ナル卓子ヲ指シ）陛下ノ御前ニ横ハル卓子ヲ以テセンニ、其ノ中心點ハ常ニ四隅ノ卓脚均一ナルニ據ツテ保タレ重力ヲ載セ得ルニアラズヤ。若シ夫レ然ラズシテ其ノ一隅ニノミ重力ヲ偏倚センカ、忽チ中心點ヲ失ヒ、卓子ハ顛覆或ハ破壊スルニ至ラン。其レ此ノ如シ、陛下ノ諸大臣ニ於ケルモ亦宜シク偏セズ、黨セズ、終始ニ和合統一ニ御注意相成度シ。

大君主 卿ノ切當ナル忠告、朕敢テ輕々ニ附センヤ、必ラズ充分ノ注意ヲ加フベシ。

井上 然ル上ハ一般ノ疑惑モ自カラ釋然タルベシ。

右奏シ終ツテ退出ス。

朝鮮公債一件ニ付井上公使陸奥 外務大臣往復電信要略

(二月二日五時三十五分發)

廣島 陸奥外務大臣

京城 井上公使

朝鮮公債一件ニ付幾度トナク申上ゲシニモ拘ラズ、未ダ何等ノ回電ニ接セズ、本官ハ實ニ戰
鬪ニ臨ミ彈藥ノ給與ヲ促シテ之レヲ得ザルモノ、感ヲ懷キ居レリ。今ハ早ヤ致シ方ナシ、若シ
本件ノ成否ニ付諾否ノ御返答相成リ難キ義アラバ、セメテハ返事ガ出來ルトカ出來ヌトカ丈ニ
テモ御返事アリタン。

(二月四日前十二時三十分發)

廣島 陸奥外務大臣

京城 井上公使

朝鮮公債ニ付御配慮ノ段ヲ謝ス、本官ハ茲ニ始メテ活路ヲ得タリ。就テハ右ニ關シ敗財干與
ノ手段、抵當ノ方法、又ハ約束ヲ履行セシムル手段等先ヅ以テ内協議致シ置キ度ニ付、三井、
三菱、澁澤等ノ内ニテ二人程至急渡韓セシムル様致度右御配計ヲ乞。

(二月九日後十時發)

鍋 島

外務大臣

總理大臣へ傳へヨ。

朝鮮公債ノ事ニ付至急大藏大臣ニ面會シタシ、何日頃歸京スベキヤ、若シ急ニ歸京スルコト
出來ザレバ、何人ヨリ其詳細ヲ聞キ得ベキヤ、井上伯へハ最早何トカ決答セザルヲ得ザルニ付

朝鮮公債一件ニ付井上公使陸奥外務大臣往復電信要略

五二九

一應御考へテ請フ。

(廿八年二月十一日午後七時三十五分京城發)

伊藤總理大臣

井上公使

一月二十八日付ノ貴翰今朝落手セリ、右ニ依レバ公債ハ日本紙幣ニシテ、銀行ノ出張所ヲ設ケ正貨ニ引換ヲ爲サシムルノ所ナクテハ正貨ヲ一時ニ流失スルヲ銀行者ハ恐ル、トアリ、此方
法ニ依テ正貨ノ流失ヲ防ガントノ御意見ナルベキモ、是レマデ京城及ビ仁川ノ朝鮮人民間ニ於
テ一時ハ銀ト紙幣ノ間ニ一〇錢以上ノ差アリテ、當節ニテモ猶ホ二錢ノ差アルノミナラズ、地
方ニ至ツテハ銀貨スラモ流通惡シキ有様ナレバ、今我ガ紙幣ヲ全國ニ通用セシメント望ムモ出
來得ベカラズ、到底此ノ急場ニ其ノ効用ヲ爲サズ。縱令ヘ無理押付ニスルモ直グニ全額ヲ引蒙
ルニ至ルハ明ラカナリ。又朝鮮公債ハ先ヅ三百萬圓出來ル云々ノ旨本日「ガイタイ」ヨリ電報
アリタルガ、右ハ銀貨若クハ銀塊ナルヤ、又公債ノ全額ハ右ノ額ニ止マル事ナルヤ承知致シタ
シ。何レニシテモ若シ紙幣ナレバ兎テモ改革事業ノ見込立チ難シ、至急御返電ヲ乞フ。

(二月十六日後發)

鍋

島

外務大臣

總理大臣へ。

井上公使ヨリ左ノ通り電報アリ、本文中昨日ノ電信トハ今朝電送シタルモノナリ。

昨日ノ電信ニ左ノ事ヲ追加ス。

實ハ昨年ノ年越シニ當リ、朝鮮政府ノ困難ヲ極メタルトキ、兎ニ角仁川第一銀行支店長ヲシ
テ十三萬圓ノ貸付ヲナサシメタリ。此時モ可成日本紙幣ヲ文武官ノ俸給ニ充テント試ミタレド
モ到底行ハレ難クシテ、前記金額ノ内七萬圓ハ銀貨ヲ以テ貸シ付ケシメタル始末ナリ。本官ガ
正貨ヲ主張スルハ決シテ我ガ國ノ實際ヲ顧ミズ一途ニ朝鮮ノ利益ヲ計ル譯ニハ無之故、閣下ニ
於テモ何卒正實ニ此點ニ御高慮ヲ與ヘラレ、至急何分ノ御返電ヲ請フ。

(二月十二日午後十二時四分外務省發)

朝鮮公債一件ニ付井上公使陸奧外務大臣往復電信要略

鍋島外務書記官

陸奥外務大臣

伊藤總理大臣へ。

井上公使ヨリ左ノ通り電報アリ、就テハ末松ヲ至急派出スルコト最早極メテ必要トナレリ。早ク派出ニナル様御取計ヲ乞フ。

唯今閣下宛發電シタル直グ後ニテ一月二十七日伊藤伯ノ書翰領受セリ、熟讀スルニ其條件中公債ハ日本紙幣ニシテ銀行ノ出張所ヲ設ケ正貨ニ引替ヲナサシムルトアリ。左ナクテハ正貨モ一時ニ流失スルヲ銀行者恐ル、トノ意ナリ。右ノ條件ハ正貨ノ國外ニ出ヅルノ懸念ニ基キタルモノナルベキモ、今日マデ京城、仁川ノ朝鮮人間ニ於テ一時ハ銀紙ノ間ニ十錢以上ノ差アリ、當節ニテモ尙ホ一錢ノ差アルノミナラズ、各地方ニ於テハ銀貨スラモ尙ホ流通アシキ有様ナレバ今(一)同? (ケチドウ?)ニ我紙幣ヲ通用セシメント望ムモ出來得ベカラズシテ、到底此急場ニ効用ヲナサズ、假令無理押付ニスルモ直グニ全額正貨ニ引替フルニ至ルハ明カナリ。又閣下ノ電報セラレタル如ク、先ヅ三百萬圓儲カニ出來ル云々ノ分ハ銀貨若クハ銀塊ナルヤ、又公債全額ハ右ノ金額ニ留マルヤ承知シタシ。何レニシテモ若シ紙幣ナレバ、トテモ改革事業見込立チ難シ、至急返電ヲ乞フ。

(二月二十七日午後一時發)

廣島 鍋島外務書記官

東京 外務大臣

總理大臣へ。

井上公使ヨリ左ノ通り電報アリ、御參考迄ニ申上グ。

鐵道並ニ電信條約案ニ關スル貴電落手セリ。昨日右兩案ヲ提出シタル處、鐵道條約ノ方ニハ格別異議ナキ様子ナレドモ、電信約案ニ關スル彼レノ意向ハ容易ニ同意セヌ様ニ見受ケタリ。彼レ曰ク、鐵道ハ逆モ我國力ノ堪ヘザル所ナレバ、貴國ノ力ニ依リテ之レヲ建設セザルヲ得ズ、唯々電信ハ不充分ナガラ我國ニテ生徒ヲ養ヒ、此レ迄モ取扱ヒ來レリ。且ツ従前清國ニテ義州線ヲ管理シタルトキニ、貴國人ヲ始メ外國人等之レヲ非難セリ。然ルニ今此ノ如ク條約スルトキハ恰モ支那ヲ咎メテ之レニ當レリト、依テ本官熟考スルニ、此際我が戰勝ノ勢ニ乗ジ、鐵道ヲ取りタル上、尙ホ電信迄ヲ我が手ニ取り入ル、コトハ外見宜シカラザレバ、能ク外國ノ關係

ヲ御熟考アリタシ。依テ電信ハ朝鮮政府ニテ財政ヲ整理シ、金圓拂込ノ都合付キ次第總テ之レヲ讓リ渡スコト、ナシ、電信技手若干彼レニ雇ハセ通信取扱方ニ不都合ナキ方法ヲ立テシメ、然シテ別ニ秘密條約トシテ將來戰爭ノ爲メ必要ナル場合ニハ、臨時我レニテ引受け管理スル約東ヲ爲サバ充分ナルベシト考フ、委細ハ郵便ニテ申進スベシ。

將又京、仁間ノ鐵道ハ内外人共ニ落成センコトヲ希望シ、且ツ居留地取擴ゲニモ關係アレバ何時頃着ノ都合ナルヤ、又朝鮮公債ニ關スル議會ノ都合如何ニ運バレシヤ、御電報アリタシ。

去ル二十三日ノ貴電ニ依レバ、三百萬圓ノ公債ニ對シテ稅關ヲ抵當トスベシトノ御意見ナレドモ、本官ハ稅關抵當ノ外ニ尙ホ京、尙、全羅、忠清三道ノ租稅ヲ抵當ニセンコトヲ希望セリ。右ニ依リテ我が干涉ヲ深クスルノ端緒ヲ開キ、地方ノ改良ヲ助ケ度考ヘナリ。

(二月廿七日午後一時五十五分發)

鍋島外務書記官

陸奧外務大臣

總理大臣へ。

先刻電報ヲ以テ申上ゲタル朝鮮鐵道並ニ電信條約ニ付井上公使ノ意見ニ對シ、鐵道ノ方ハ別ニ異議ナケレドモ、電信ノコトハ成ル可ク丈ケ我手ニ取入ル、コト得策ナリト信ズルユエニ、條約案第九條朝鮮政府ノ買戻ノ期限ヲ幾何年間縮ムルトモ、條約案ノ通り條約ヲ結ブ方然ル可シト思フ。又公使ノ云フ如キ秘密條約ハ他日戰爭ノ起ルニ當リ朝鮮我同盟トナレバ別ニ條約ヲ要セズ、若シ我敵トナレバ條約ハ其効ナカルベシ。何レニシテモ秘密條約ハ不用ナルベシ。又京尙、全羅、忠清三道ノ租稅ヲ抵當ニスルコトニ付テハ、此度ノ貸與金ハ名前ハ日本銀行ナレドモ、其實ハ日本政府ノ金ナルユエニ、彼ノ國土ニ關係ヲ及ボス如キ抵當ヲ取ルコトハ甚ダ好マシカラズ。閣下ニ於テ御同意ナラバ其意味ヲ能ク末松ニノミ込マセ、井上公使ニ傳言スル様御下命アリタシ。

朝鮮財政ニ付キ井上公使具申

朝鮮ヲシテ獨立ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルノ實ヲ舉行セシメントセバ、從來ノ積弊ヲ掃盡シ、健全ナル制度法律ヲ設定シ、之レニ因テ事務ヲ整理シ、一方ニ改良手段ヲ立テ、其目的ヲ達スルコトヲ得ルナラン。他語ヲ以テ之レヲ言ヘバ、今ニシテ根本的改革ヲ行フニアラズンバ獨立ノ實ヲ擧ゲテ、之レヲ永遠ニ保持セシムルコト能ハザルベシト存候。本官着任以來一ニ聖意ノ爰ニアルヲ以テ、之ヲ奉戴シテ朝鮮ノ獨立ノ實ヲ擧ゲシメン爲メ、日夜汲々計畫ヲ怠ラズ、苟クモ此ノ目的ヲ達スルノ障碍タルベキモノハ、務メテ之ヲ閉鎖シテ餘力ヲ遺サズ、大院君不逮ノ謀ヲ企テタルヲ察知シ、之レヲ壓服セシメ、李竣鎔ノ教唆アルヲ知レバ亦從テ之レヲ說服シ、又王妃ノ如キハ簾内ニ在リテ陰譎多シ。曩ニ釐政二十個條ノ後、尙ホ其ノ慣手段ヲ陰然施スヲ察知シ、右上奏ヲ引下ゲ手ヲ引クコトヲ申出ダシ、終リニ又說服セシムル等、或ハ激怒シ或ハ緩言ヲ以テシテ其弊害ハ從來朝鮮ノ痼疾ニシテ、一難ヲ抑スレバ更ニ一難ヲ生ジ來ルヲ以

テ、其弊害ヲ擧ゲ根本的改革ヲ且夕ノ間ニ行ハシムルハ到底期ス可カラザルモノナルニ拘ハラズ、今日ニ至リ遂ニ久シク其ノ腦裏ニ浸染シタル清國ニ屬隸スルノ念慮ヲ絶チテ、剩サヘ從來勢道ナル權力ヲ藉テ以テ一身又ハ一家一族親友又ハ己ニ黨スル者ノ私ヲ營ミ、慾ヲ逞フスルニ便ナルノ弊習ヲモ廓然滅却スルノ決意ヲ喚起セシメン爲メ、茲ニ大君主ヲシテ社稷宗廟ニ誓告セシメ、並ニ内閣各大臣相互間ノ決心ニ付本官ニ對シテ盟誓ヲ行ハシムルニ至リ、大體改革ノ謀略等相企タリ。就テハ今後ノ事業ハ右ノ大體ニ基キ改革ノ實ヲ擧グルニ外ナラズ。然ルニ此目的ヲ達スルニ當リ最モ困難ナルハ、朝鮮政府ノ國庫匱乏シテ現ニ韓曆越年ニ際シ、文武官ノ俸給スラ其ノ支拂額平均三ヶ月ニ及ビ、怨言苦情囂シク、動モスレバ一時騷擾ノ恐レアルヲ以テ、政府ノ狼狽一方ナラズ、屢々本使ニ向テ救濟ノ手段ニ付相談アリタルモ、本使ハ只管ラ之レヲ斥ケ、其依頼ニ應ゼザリシガ、事情切迫如何ニモ傍觀シ難キ勢ヒニ立至リ候ニ付、不得已ニ在仁川第一國立銀行支店長ヲシテ朝鮮海關ノ收入ヲ抵當トシテ十三萬圓ノ金額ヲ貸與セシメ、以テ僅カニ當政府前顯俸給未拂額一ヶ月分ヲ支給セシメ、一時ノ急ヲ救ヒタル始末ニ有之候。併シ乍ラ右ハ當國政府越年ノ資ヲ辨ジタルニ過ズシテ、漸ク新年ニ入ルヤ當月分ノ俸給ニ再ビ延滞シテ無用ノ人ヲ免ジ度候事モ金ナクシテハ第一改良ニ着手セシムル事モ不出來、加之、追追申進候通り朝鮮八道ノ形況ヲ視レバ、東徒ノ擾亂全國ニ蔓延シ、且ツ其國ノ寶藏トモ稱スベ

キ三南地方、即チ全羅、忠清、慶尙ノ三道ハ旱魃ノ爲メ飢饉ノ災ニ罹リ、就中慶尙ノ如キハ全道ヲ通ジテ其災ヲ被リ、又全羅、忠清ノ兩道ハ旱災其一部分ニ過ギザルモ、東徒ノ擾亂此地方ヲ以テ最モ甚シトナスヲ以テ、政府ハ營ニ該三道ノ租稅ヲ收納スルヲ得ザルノミナラズ、却テ十五萬圓乃至二十萬圓ノ巨額ヲ抛テ之レガ救恤ヲ施サル可カラズ。更ニ此道ノ情況ヲ見ルニ黃海道、平安道ハ日、清戰爭ノ兵燹ヲ蒙リタル爲メ、納稅ニ堪ヘズ、又咸鏡ノ一道ハ古來北門ノ鎖鑰トシテ其出ス所ノ租稅ハ舉ゲテ該道邊境ノ防備ニ充ツルノ制例ナルヲ以テ、是レ又政府ノ收入トナスヲ得ズ、以上ノ事情ナルヲ以テ政府本年ノ歲入ハ僅カニ京畿、江原二道ノ租稅アルノミ。之レヲ要スルニ新政府ハ改革ヲ實行シ、政治機關ヲ運轉スルノ費用ハ租稅以外ノ收入ニ依ルノ外其方法ナキ場合ニ陥リタル義ニシテ、是レ本官ガ曩ニ安廣秘書官ニ携帶歸國セシメタル提案ノ生ズル所以、則チ五百萬圓ノ公債ヲ急促スル次第ニ有之候。

爾來本官ハ朝鮮財政ノ從前習慣、現在及ビ將來ニ關シ充分詳細ナル調査ヲ遂ゲ、御報道ニ及ブ可キ心算ニテ精々力ヲ盡シテ調査致シタルモ、諸般亂雜ヲ極メタル上、朝鮮人ヲ對手ノ事故何分速カニ抄取り兼候内、仁尾主稅官來リ日夜勉勵シタル其結果モ充分精確ナルヲ得ガタク候ヘドモ、當國現在財政上ノ情況ニ付テハ粗略ナガラ調査ヲ得タリ。其内借財ノ分ハ確實ナルモノニシテ、歲入ノ分ハ粗略ナルモノニ有之、即チ左表ヲ以テ貴覽ニ供シ候。

朝鮮國內外債現在調(甲子十二月末)

外務衙門	六八八、九九二・〇〇〇
外國債元利未濟高	二二、九三三・〇〇〇
雇外國人給料滯高	七一一、九二五・〇〇〇
計	
度支衙門	一五七、一二一・二三〇
戶曹各貢未下	二八五、二三一・六〇四
宣惠廳貢價及ビ各様未下	四五三、七一三・七三四
各廳料祿及ビ恒式未下	五〇、〇〇〇・〇〇〇
貢未下調査未濟見積高	九四六、〇六六・五六八
計	一、六五七、九九一・五六八
總計	

區別	借入金高	利率	元金償却高	元金償却高	延滞高	子以上元利未濟高合計
正金銀行	一三〇,五〇〇 ^円	年八八朱	九六,四〇〇 ^円	一三〇,五〇〇 ^円	一九二八 ^円	二六,九二二 ^円
招商局	二〇〇,〇〇〇 ^兩	月八厘	九〇,〇〇〇 ^兩	一三〇,〇〇〇 ^兩	一九四六 ^兩	一九九,七二四 ^兩
清國ヨリ借入	一〇〇,〇〇〇 ^銀	無利息	四一,五〇〇	五八,五〇〇	一九八〇〇	八三,五七一
電信公債	一〇〇,〇〇〇 ^銀	月六厘	三三,五〇〇	六七,五〇〇		九六,四三九
同順	一〇〇,〇〇〇 ^銀	同上	二七,〇〇〇	七三,〇〇〇		一〇四,三六六
同	同上	同上	二八,〇〇〇	二二,〇〇〇		二二,〇〇〇
ホンコンシヤン	五〇,〇〇〇 ^銀	月七厘五毛		一三〇,〇〇〇 ^円		一三〇,〇〇〇
ハイバンク	一三〇,〇〇〇 ^円	日計二錢三厘				二五,〇〇〇
第一國立銀行	詳未	詳未	詳未	詳未		六八七,九九二
釜山借款	詳未	詳未	詳未	詳未		一六,九三三
計						六,〇〇〇
グレートハウス						七一〇,九二五
給料滞り						
ダイ給料滞り						
合計						

右表中ニテ差當リ償還ヲ要スルモノハ文武官ノ未拂給料等ニシテ、其高四十七萬六千圓餘ナリ。又清國政府及ビ商社ニ對スル負債五十萬六千圓ノ餘額ハ、今直チニ償還ノ要ナキモノナレドモ、右ノ内ニハ稅關ノ收入ヲ抵當トシテ之レニ先取權ヲ與ヘタルモノモアリ、旁タ當國ノ財政上ニ於ケル外國トノ關係ハ、單ニ右清國政府及ビ商社ニ對スル負債ノ一項ニ止マルヲ以テ、平和終局ノ上ハ之レヲ完濟セシメ置クトキハ、他國トノ關係全ク絶チ、將來ノ我方財政監督上ニ於テ最モ緊要ニ有之候。

又次ノ二項、即チ戶曹各貢未拂及ビ宣惠廳貢價及ビ各樣未拂(貢米未拂トハ從前宮中ニテ買上ゲタル物品ニテ、即チ代價未拂ノ意ナリ)トハ是レマデ商人ニ命ジテ上納セシメタル物品代價ノ未拂額ニシテ、總計四十四萬二千圓餘ナリ。尤モ此項ノ内ニハ十年若クハ二十年ヲ經タルモノモ相混ジ居リ候ヘドモ、多分ハ昨年來ノ未拂ニ係ルモノニシテ、當國從來ノ習慣ニ依ルトキハ、此等ハ一々精確ニ受取ルコトヲ得ザル事情モ有之候ニ付、此際之レヲ處分スルニ當リテモ通常債務履行ノ例ニ依ルコトヲ要セザレバ、之レヲ無利足ノ公債様ノモノニ仕換ヘ、大凡七ヶ年賦ヲ以テ拂渡サシムルコトヲモ得可ク候。

今假リニ此外國債六十八萬八千九百九十二圓ト、之レニ加フルニ文武官未拂給四十七萬六千六百四十六圓、慶尙、全羅、忠清三道ノ救恤金凡二十萬圓、小計百三十六萬五千六百三十八圓

再ビ之レニ加フルニ今般新タニ借入スベキ金五百萬圓ヲ合算スレバ、總計五百三十六萬五千六百三十八圓ト相成リ、是レ即チ朝鮮政府ノ内外ニ對スル負債全額ニ有之候。右ノ内ニテ若シ我國ニテ税關ノ監督權ヲ掌握セントスルニハ、前記清政府及ビ清、英商社ニ對スル負債五十萬六千圓ハ外ニ金主ヲ求メテ税關ヲ抵當トシテ負債ヲ興サシムル見込ニ有之、先般來本官ノ第一銀行ニ勸諭シテ借入ヲ爲サシメントシタルハ此趣意ニ外ナラズ候。

更ニ右公債ノ利率ヲ平均九分トシ、二十ヶ年賦ヲ以テ完済スルモノト假定スルトキハ、初年度ノ元利金償却高ハ十九萬千八百八十九圓トナル、猶ホ此外前記物品買上代未拂高年賦金七萬三百三十六圓ヲ前項ノ外債年賦金ニ合算スルトキハ、總計九十六萬千五百二十六圓トナル。是レ則チ當國政府ガ財政整理後初年度ニ於ケル内外公債償却ノ爲メ支出スベキ總額ナリトス。

以上ハ朝鮮政府ノ負擔トナルベキ金高ヲ表示スルモノナリ。尙ホ左ニ政府歳入ノ概算ヲ掲ゲテ參考ニ供シ候。但シ此歳入ニ關スル調査ハ今暫ク精確ナルヲ得ザル儀ニ有之候ヘドモ、度支大臣其他ノ調査ニ基キ編製シタルモノニ有之候。

種目	金高
地租	五、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
平安道ノ地租	五〇〇、〇〇〇・〇〇〇

紅 蔘 税	一八〇、〇〇〇・〇〇〇
漁業及ビ鹽業税	一二、〇〇〇・〇〇〇
火田蘆田屯田税	三〇〇、〇〇〇・〇〇〇
戶 賦 錢	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
海 關 税	五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
計	七、四九〇、〇〇〇・〇〇〇

本表ニ掲ゲタル歳入總計七百四十九萬圓ハ、現在ノ姿ニテ政府ガ徵收シ得ベキ税金ノ概額ナリ。而シテ此内ノ内外債償還年額九十六萬千餘圓ヲ控除スレバ、粗ボ六百五十萬圓ノ餘剩アリ、是レ則チ當國政府ノ政費ニ宛ツベキ概額ニシテ、政府事務ノ舊ヲ改メ新事務ヲ起サシムル範圍モ自カラ之レニ由テ程度ヲ制限セザルベカラズ。本官ノ見込ニテハ先ヅ六百萬圓以内ヲ以テ程度トシ、急激ナル改革ヲ企テザル限リハ當國政府ノ歳費ヲ充タスニ足ルベシト存ジ候。

當國政府ノ歳出ハ六百萬以内ノ金額ヲ以テ充スヲ得ベキコト前既ニ之レヲ述ベタリ。而シテ曩キニ本官ガ申込ミタル五百萬圓ノ公債ハ銀貨若クハ銀塊ナルヲ以テ、之レヲ兌換基金トシテ其四割、即チ千二百萬圓ナリ。故ニ五百萬圓ニ對シ即チ七百萬圓ノ紙幣ヲ發行セシメ、之レヲ細言スレバ實際七百萬圓ノ効用ヲ爲スベキモノニ有之候。即チ當政府ヲシテ計畫セシムルトコ

ロノ改良事務ヲ實行スルノ費途ニ充ツベキモノニ有之候。

茲ニ財政ヲ整理シ紙幣ヲ發行スルト同時ニ改良ヲ要スベキモノアリ。即チ貨幣制度是レナリ。抑モ現今當國ノ貨幣制度ハ殆ンド皆無ニシテ、其法貨トシテ見ルベキモノハ銅錢ノ一種ニ過ギズ。故ニ諸國ニ於テ價格ノ標準ト定マリタル金銀貨スラ一タビ此國ニ入ルヤ、通常ノ貨物ニ均シク銅錢ノ相場ニ依テ其價格ヲ左右セラレ居レリ。然ルニ此銅錢タルヤ、其量重ク其質粗、到底價格ノ標準トナリ、貿易ノ媒介タルヲ得ザルモノニ有之、從テ此貨幣ノ法貨タル以上ハ物品ニ對シ一定ノ價格成立スルヲ得ベカラズ。此レ則チ財政ヲ整理シ紙幣ヲ發行スルト同時ニ其改良ヲ要スル所以ニシテ、之レニ由テ内外貿易ノ發達ヲ助ケ、金融ヲ圓滑ニナラシメ金利ヲ低廉ナラシムル等、其經濟上ニ及ボスベキ效果モ亦タ少ナカラザルベシト存ジ候。去リナガラ今直チニ之レヲ實行セントセバ、政府ハ多少ノ損耗ヲ招クノ恐レアリ。何ントナレバ日、清戰爭ト東徒ノ擾亂トハ共ニ著シク韓錢ノ需用ヲ増加シ、從テ其金銀ニ對スル相場ヲ暴騰セシメタリ。事前ニ在テハ銀一圓ニ對スルノ韓錢三貫五百文ナリシモ、嗣後漸次騰貴シ、遂ニ一時ハ一圓ニ對シ一貫五百文マデノ高價ヲ現ハスニ至リタルモ、我が征清軍ハ益々北進シテ朝鮮ノ國境ヲ踰ヘ、東徒ノ勢焰モ幾分カ減少スルニ從ヒ、韓錢ノ需要逐次減少シタルモ、尙ホ目下銀一圓ニ對シ二貫五百文マデ低落シタリ。然レドモ之レヲ事變前ニ比スレバ猶ホ一貫文ノ差アリ。未ダ平

常ノ相場ニ復シタルモノト謂フベカラズ。今日ノ情況ヨリ推ストキハ本年五、六月ノ頃ニモ相成候ハ、此改良ヲ實行スルノ時機ニ到達可致乎ト相考候。

前記凡ソ七百五十萬圓近クノ歲入ハ、先ヅ政府ガ徵收シ得ベキモノナレドモ、其整理次第ニ因リ多少増加スルノ見込ナキニ非ラズ。例ヘバ古來邊境防備ノ費用ニ充テタル咸境道ノ租稅ヲ中央政府ニ徵收スルガ如キ、或ハ權門ニ因リ名族士豪ノ輩ガ租稅ヲ免カレン爲メ、廢田ニ歸シタリトテ地籍ヲ沒シタルモノ、及ビ權門ニ寅緣シテ徵收ヲ免カルモノ、又ハ新田ヲ開墾シテ政府ニ届出ラナサバリシモノ、或ハ地方官ノ隱田ト稱シ、同ジク免稅ニ歸シ居ルモノ等、遍ク調査ヲ遂ゲタランニハ、假令現在地籍ニ存スルモノニシテ實際廢田トナリタルモアリ、然レドモ尙ホ幾分カ課稅地ノ面積ヲ増スコトヲ得ベシ。實ニ此田籍ヲ隱蔽シテ免租ヲ謀ルノ弊ハ近年ニ至リ益々甚シキヲ加ヘ、政府ハ之レガ爲メ年々租稅地ノ面積ヲ縮少スルニ至レリ。之レヲ六典條例ニ徵スルニ、往昔當國租稅地ノ面積ハ四百萬結ノ收穫ヲ以テ計リタリシニ（結トハ田租賦課ノ爲メ定メタル收穫高ニシテ、一結ノ收穫ハ凡ソ我が五石ニ當ル、而シテ之レヲ三等ニ分チ、我が貨幣ニ換算シテ遞次六圓、五圓、四圓ニ當ルノ稅ヲ課スルナリ）後三百萬結トナリ、二百萬結トナリ、次第ニ減少シテ今日ニ至リテハ僅カニ百萬結ヲ地籍ニ存スルノミ。此ノ如キ有様ナルヲ以テ、若シ概略ノ調査ヲ施サバ假令遽カニ増シテ四百萬結ノ往昔ニ復スル能ハザル

モ、二百萬結内外ニ達セザルトモ言ヒガタシ、果シテ然ラバ此一種目ニ於テ既ニ一千萬圓ノ收入ヲ得ン。

尙ホ右ノ外政府ノ歳入ヲ減少スル原因亦尠シトセズ。今其ノ一二ヲ擧グレバ、賣官ノ陋習貢米ノ運輸上ニ於ケル弊害ノ如キ是レナリ。當國賣官ノ一事ハ御承知ノ通り専ラ地方ノ官職ニ就テ行ハル、モノニシテ、其價格ハ官階ノ高卑、任地ノ肥瘠ニ依テ同ジカラズ、慶尙監司ノ如キハ先ヅ千萬以內ニシテ、其ノ尤モ廉ナルモノモ、尙ホ一萬圓ニ價ス。此代價ハ赴任ニ先チ王宮内ニアル別庫閣官廳ト唱フル所ニ納付スルノ規例ナリ。斯クテ買官者ガ其任地ニ於テ關門稅其他種々ノ名目ヲ付シ勝手ニ税金ヲ取立ツルコトハ、政府之レヲ默認シ去ルナリ。而シテ此地方官ノ任期ハ通例四年ナルヲ以テ、此期限内ニ於テ先キニ仕拂ヒタル納金ヲ收穫シ、其ノ上一廉ノ財産ヲ蓄積スルノ風ナルガ故ニ、其管下人民ニ苛稅ヲ課スルモ亦自然ノ勢ニ有之候。此レ但ニ地方長官ノ一職ニ限リタルニアラズシテ、其屬僚吏胥雜役等ニ至ルマデ各相當ノ價值ヲ有スル一種ノ株ト相成居リ、上ハ長官ヨリ下ハ小使ニ至ルマデ、大ハ小ニ取リ、小又小ニ取ル、其勢ヒ羽翼ノ互ニ加ハルト同然、賣官ノ重荷ヲ負擔スルハ唯ダ人民アルノミ。更ニ貢稅上納ニ附帶スル弊モ亦タ驚クベキモノアリ、例ヘバ茲ニ百石ノ貢租ヲ漢城ニ持來リ納ムルモノアリ、其ノ上納者ハ實際百五十石ヲ出デザルベカラズ。而シテ此ノ内五十石ハ收稅官吏及ビ其他雜役人

等ガ貢稅上納ニ際シ、種々ノ難題ヲ構フルヲ防グガ爲メノ賄賂トナリテ消失スルモノナリ。將又貢米ノ運搬ニ付テハ一層甚シキ弊習ヲ存セリ。地方米廩ノ蓄積米ヲ回漕スルニ當リ、地方官ハ之レヲ回漕者ニ命ジテ運漕ヲ受負ハシム。而ルニ此受負者ハ故意ニ老朽船舶ヲ擇ビ、之レヲ積載シ漸クニシテ最寄ノ港灣ニ寄航シ、茲ニ積荷ヲ卸シ、舟ヲ打毀シテ難波船體ヲ裝ヒ、當該地方官ニ訴出テ、表向キ正式ノ検査ヲ受ケ、裏面ヨリ彼ニ贈賄シ、中央政府ニ向テ難波船ノ報告ヲ爲サシメ、以テ其積込ミタル貢米ヲ悉皆窃取スルノ狡計ヲ施スモノ少ナカラザル由ニ有之候。

以上叙述セルトコロハ聊カ當國惡弊ノ極度ニ達シタル弊害ニ付、一、二ヲ擧ゲタルモノニシテ、猶ホ此ノ外ニモ右様ノ類例ハ許多アリ。而シテ今若シ嚴重ニ此等ノ惡習ヲ革除シタランニハ、一方ニ於テハ人民ノ負擔ヲ輕カラシメ、又一方ニ於テハ政府歳入ノ幾分ヲ増加スルコトアルベシト存候。

由是觀之、當國政府ハ稅率ヲ改正シ、若クハ實業ヲ獎勵シテ人民ノ負擔力ヲ増加スル等、積極的方法ヲ取ルヨリモ、寧ロ消極的ノ古來因襲セル諸般ノ弊習ヲ矯メ、制度ノ頽敗ヲ整理スルニ因テ歳入ノ増進ヲ得ルナラン。

右ノ如キ概略故、本官ガ周旋者ノ地位ニ立チテ公債ヲ勸誘スル以上ハ、充分確實ナル擔保ヲ

朝鮮政府ニ負ハシメザルベカラズ。就テハ彼ノ五百萬圓ノ公債ヲ愈ヨ貸與スルニ當リ、朝鮮政府ヲシテ左ノ條件ヲ約定セシムル考ヘニ有之候。

第一條 公債ノ抵當ニハ全羅、慶尙、忠清三道ノ租税（尙ホ不足ナリト思惟スルトキハ、更ニ黃海道ノ租税ヲ加フルコトヲ得）ヲ以テスルコト。

第二條 右ノ抵當ニハ先取權ヲ與ヘルコト。

第三條 公債ノ償却ヲ結了スルマデハ、日本政府ノ官吏一人ヲ朝鮮度支衙門ニ出張セシメ、財政ニ付條件ヲ付シ、全體ノ監督ヲ爲サシメ、並ニ其租税ヲ抵當ニ充テアル地方ニ日本官吏ヲ派遣シテ、租税ノ徵收ヲ監督セシムルコト。

第四條 公債ノ償還ニハ全額完済ノ年限ヲ定メ、毎年度末ニ於テ其年度ニ償却スベキ元利金ヲ拂ハシメ、若シ抵當ニ充テタル地方ノ租税事故ニ因リ、此ノ一句□カ（朱書）此償還額ニ充テタル地方ノ租税事故ニ因リ此償還額ニ充タザルトキハ、國庫收入ヲ以テ其不足ヲ補償セシムルコト。

第五條 公債ノ抵當ニ充テタル地方ノ貢租收入ノ手續ニ付テハ、朝鮮人民中ノ財産家ト日本債主ノ代理者トノ間ニ共同組合ノ約束ヲ立テシメ、朝鮮政府ノ命ヲ受ケテ國庫金ノ取扱ヲ爲サシムル方法ヲ定メシムルコト。

第六條 日本人ヲ以テ朝鮮政府ノ總稅務司ニ任ズルコト。

右第一條ニ於テ全羅、慶尙、忠清ノ三道ノ租税ヲ抵當トシタルハ、此三道ハ當國中最モ富饒ノ地方ニシテ、前已ニ述ベタル如ク、國ノ寶藏トモ稱スル程ナルガ故ニ、之レヲ擇ビタルモノナリ。而シテ此三道ニ次グハ黃海道ナルヲ以テ、右三道ニテ不充分ナルトキハ此一道ヲモ加フルコトヲ得ルモノナリ。

第二條ニ掲グル先取權ノ實行ヲ確實ナラシムル爲メ、第五條ヘ記載ノ方法ヲ設ケ、日本人ト朝鮮人ノ組合ニ於テ租税ノ納付ヲ取扱フニ當リ、其收入金ヨリ直チニ償却ニ充ツベキ元利金ヲ支拂ハシムル趣向ナリ。

第三條ニ記載セル日本政府官吏ハ純然タル日本政府ノ出張員トシテ、當國財政ノ全體ヲ監督スルモノニシテ、又財政ノ改良ニ付條件ヲ具ヘテ容喙セシムルノ必要アリ。何トナレバ今日ノ朝鮮人ノ如ク疑惑、離間ヲ事トシテ、最モ財政ノ事ニ未熟ナル官吏ヲ信任シテ、此ノ大金ヲ貸與スルヲ危險ト爲スガ故ナリ。又抵當地方ニ出張スベキ日本政府官吏ハ其地方租税ノ徵收ヲ監督シ、傍ラ地方ノ弊害ヲ矯メ、地方官吏事務ノ熟鍊ヲ得セシムル爲メ、地方官ノ處置ニ容喙セシムルモノトス。何ントナレバ現今ノ如ク地方ニ於テ、賣官、鬻爵等ノ弊害廣ク行ハル、ノミナラズ、官吏ノ事務ニ不熟鍊ナル以上ハ、到底公債擔保ノ取扱ヲ彼等ニ一任スルコトヲ得ザルガ故ナリ。

第五條ニ朝鮮財産家ト日本債主ノ代理者トノ共同組合ヲシテ、公債ノ抵當ニ充テタル地方ノ貢稅ヲ取扱ハシムルコトト爲サント欲スルハ、若シ日本人ノミヲシテ内地ニ在テ右等ノ事情ヲ行ハシムルトキハ、他外國人ニ於テ最惠國條款ニ據リ多少ノ難題ヲ申出ヅルノ恐レアリ。故ニ日本人ト朝鮮人トヲ合同セシメ、且ツ朝鮮政府ノ命ニ依リ國庫金ノ取扱ヲ爲サシメント欲スル次第ナリ。

第六條ニアル總稅務司ハ日本人ヲ以テ任ズルコトハ、既ニ昨臘年越金貸付ノ時ニ當政府ヲシテ豫約セシメタリ。併シナガラ目下英國人「ブラオン」氏同職ニ在ツテ、尙ホ一ケ年間勤續ヲ望ム由ニ有之、此際強ヒテ之レヲ解雇スルモ、英領事ニ對シ面白カラザル感情ヲ與フルノ恐レ有之ニ付、今年中ニ雇滿期トナルヲ待テ日本人ヲシテ其後任者タラシムルコトヲ約束致シ置キタル次第ニ有之候。

近來我邦新聞紙ノ説ク所、並ニ續々渡韓シ來ル有志者ノ論ズル所ヲ聞クニ、何レモ皆日本ノ利益ヲノミ主トシ、或ハ鑛山ヲ我手ニ於テ開クベシト云ヒ、或ハ我ガ人民ヲ内地ニ移殖スベシト云ヒ、或ハ製魚場ヲ設立スベシ等、工業ニ商業ニ只管ラ我利ノミ是レ圖ルヲ唯一ノ目的トスルモノ多々増加セリ。本官ハ我ガ國ノ利益ヲ増進セシメントハ希望スル所ナレドモ、唯ダ一圖ニ日本人民ノ利益ノミヲ圖ルトキハ、則チ朝鮮ノ利益ハ悉ク日本人ニ歸スルノ結果ヲ來ス。

斯ノ如クニ至ルトキハ、朝鮮獨立ノ實ハ何ニ依テ成立スルヲ得ルヤ。是レ則チ日本政府ガ朝鮮ヲ獨立セシメント公言シタル趣意ト矛盾スルニ至ラン。因テ本官ハ朝鮮ニ對シ、將來彼レノ利益ヲ奪ハズ、我ノ利ヲ失ハズ、相互ノ利益ヲ並進セシムノ方針ヲ取ラント欲スル考ヘニ有之候。猶ホ仔細ノ事情ハ岡本氏ヨリ御聞取相成度候。

明治二十八年二月十七日

朝鮮新開港場ノ件

木浦及び大同江ハ共ニ外國貿易ノ爲メ開港セラルベキ旨兼テ傳承致居候。右果シテ事實ニ有之候ハ、其開港ハ可成之ヲ速カニセシムルコト我ガ利益ニ可有之ト存候間、左ニ其理由ヲ具申シ閣下ノ御參考ニ供シ候。

御承知ノ通り當國貿易額ノ半數以上ハ尙ホ本邦商人ノ手中ニ有之候ヘドモ、前數年間ニ於テ清國人ノ商權ハ實ニ著シキ進歩ヲナシ、追々我ガ商權ヲモ壓倒セントスルノ狀況ヲ呈シ居候。今明治十八年ヨリ一昨廿六年ニ至ルマデ九年間ノ統計ヲ見ルニ、

年 度	日韓貿易總額	清韓貿易總額
明治十八年	一、七四七、五四六 ^冊	三一〇、四六八
明治十九年	二、五〇八、六七一	四五五、三三七
明治二十年	二、八五五、四七二	七五一、五九九

明治廿一年	二、九六三、八四四	九一九、八〇八
明治廿二年	三、四〇六、九〇四	一、一九五、五五四
明治廿三年	六、五四五、八七六	一、七二二、七三八
明治廿四年	六、四二四、一七二	二、一八〇、九一三
明治廿五年	四、八一四、四一四	二、二〇〇、七一五
明治廿六年	三、四九二、一五七	二、〇三九、七八三

即チ明治十八年ト廿五、六年トヲ比較スレバ、日韓貿易ハ殆ンド二、三倍ノ進歩ヲナセルモ、清國トノ貿易ハ六、七倍ニ上リ、且ツ我邦トノ貿易ハ年ノ豊凶ニヨリテ着シキ異動ヲ生ゼルモ、清國トノ分ハ殆ンド一定ノ割合ヲ以テ着々歩武ヲ進メツ、アルヲ見ル。之レ實ニ我ガ商人ノ爲メ恐ルベキノ強敵ニシテ、現ニ輸入ノ一方ニ於テハ仁川、元山トモ既ニ此強敵ノ爲メ、我ガ商權ヲ壓倒サレ居タル次第ニ有之候。試ミニ一昨二十六年ノ當國三港ノ輸入表ヲ見ルニ左ノ如シ。

	本邦ヨリ輸入	清國ヨリ輸入
釜 山	八二九、八二二 ^冊	一五、一四九 ^冊
仁 川	八三五、七七五	一、五八五、六一七
元 山	二八三、四四六	三〇四、九三二

即チ仁川ハ勿論、元山ニ於テモ皆清國商ニ勝利ヲ占メラレ、獨リ當港ノミ依然トシテ輸出入トモ殆ンド其ノ全權ヲ我が商人ニ於テ掌握致居候。右ノ如ク當港ノ他ト狀況ヲ異ニセルハ深キ仔細アリテ然ルニアラズ、唯ダ當港ハ從來永ク對州人等ノ在留地トナリ、且ツ本邦ト最モ接近セル爲メ、開港ノ當初ヨリ本邦商人續々入り込ミテ各種ノ商業ニ從事シ、其後清國人ノ渡來マデニ既ニ我が商權ノ基礎ヲ十分確立シ得タルニ因ル次第ニ有之候。

右ノ如ク思考候ニ付テハ、木浦及ビ大同江ニ於テモ我が商人ヲシテ先鞭ヲ着ケシメ、清國人ノ來住マデニハ出來得ル丈ケ我が商權ノ基礎ヲ確カメ置クコト極メテ必要ト存候。殊ニ大同江ノ如キハ從來永ク清國人ノ密貿易地ト相成居リ、其他平安道一般ハ清國ト直チニ土壤ヲ接スル爲メ、相互ノ往來交通モ頻繁ニシテ、又現ニ義州ノ如キハ明朝ノ昔ヨリ兩國陸上貿易ノ中心ト相成居タル爲メ、此地方ノ朝鮮人ハ清國語ヲ解スルモノ多ク、平安道ノ清國ニ於ケルハ、慶尙道ノ本邦ニ於ケルヨリハ其關係數層密ナリシ趣ニ承知致居候。就テハ此際我が商人ニ於テ充分先鞭ヲ着クルノ餘地無之候テハ、終ヒニ大同江ハ恰モ釜山ト正反對ノ狀況ニ陥ルベクト思考致居候。

又木浦ニ於テハ此ノ如ク特別ノ事情ハ無之候ヘドモ、商機ニ拔目ナキ清國人ノコトニ候得バ是レ亦決シテ油斷スベキニアラズ、殊ニ當港商人ノ如キハ最モ警戒ヲ要スル儀ニ有之、何ント

ナレバ當港貿易ハ輸出入トモ全羅道ニ關スルモノ其總額ノ六分ヲ占メ居リ候ニ付、若シ木浦ニシテ開港セラレ候節ハ、當港商人ノ一部分ハ或ハ同處ニ移リ、或ハ支店ヲ同處ニ設クルノ必要有之候處、若シ同處ニ清國商人早ク渡來シ、其商利ヲ占有スルコト尙ホ日清開戰前ニ於ケル仁川ノ如クニ相成候ハ、單ニ同處ノミナラズ、當釜山ノ商權モ最早我が手中ノモノニアラザルベクト存候。

以上述ブル通りニ有之候間、若シ右二港新タニ開カルベキ都合ニ有之候ハ、可相成ハ右ノ開港ハ本邦及ビ清國以外ノ諸外國ヘ對スルモノトシ、即チ清國ハ之レヲ除外致サセ度存候ヘドモ、右ハ或ハ實際行ハレ難カルベキヤニ思考候ニ付、果シテ然ラバ日、清交戰中ニ開港シ、尙ホ戰爭ノ全ク終局ニ至ルマデ或ハ清、韓條約新タニ訂結セラル、マデ、清國人ノ新開港場ヘ來住スルコトヲ禁ゼシムルヤウ致度、右様相成候ハ、一日ニテモ早ク我が商民ヲ勸誘シテ新開港場ニ移住セシメ、出來得ル丈ケ速カニ我が商權ノ基礎ヲ鞏固ニセシムベクト存候。右開港ニ付テハ勿論種々ノ準備ヲ要スル義ニハ可有之候ヘドモ、前述ノ理由ニヨリ可成至急其運ビニ至リ候様希望致候ニ付、右及具申候。敬具

明治二十八年二月五日

在釜山 總領事代理 加藤 增 雄

外務大臣 子爵 陸 奥 宗 光 殿

伊藤首相井上公使へ寄スル書簡

回顧スレバ昨年六月二日朝鮮東學黨ノ反亂アルガ爲ニ出兵ノ廟議ヲ一決シ、突然一旅團ヲ京城ニ派遣シ、一轉シテ朝鮮改革ノ議ト作り、再轉シテ日、清交戦ト作り、爾來殆ソド一周歲、連戦連勝今ハ將ニ大舉其根據ヲ衝キ、最後ノ全捷ヲ占メントスル域ニ到達セリ。此間内治外交經濟ノ事、時ニ或ハ至難ノ境遇ナキニアラザルモ、一方ニ於ケル軍事ノ爲メ一モ痛痒ヲ感ゼシメタルコトナク、幸ヒニ今日マデニ達セシムルコトヲ得タルハ、實ニ邦家ノ大幸、尙ホ此ノ上最終ノ局ヲ結ブニ當リ、縱令百難ニ遭遇スルモ之レヲ排除シ盡シテ大目的ヲ達スルヲ得バ、我が帝國ノ國光ヲ宣揚シ、宇内ノ大國ト比肩併立、所謂維新當初ノ國是方針其全キヲ得ト云フニ至ルベシ。朝鮮國將來ノ地位ハ極東ノ大勢上、戰爭以前ニ於ケルヨリモ尙ホ一層ノ關係ヲ二、三大國ニ有スルヤ論ヲ待タズ、支那ハ最早喙ヲ朝鮮ノ事ニ挾ムヲ得ザルモ、英、魯ノ如キハ却テ容喙シ易キ形勢ヲ顯セリ。之レニ對シテ毎ニ責任ヲ負擔シテ對峙スルハ獨リ日本アルノミ。

日本ニシテ名實トモ其ノ獨立ヲ保護シテ野心ヲ現スコトナクンバ、他國ヲシテ容易ニ指ヲ染メシムルコトナキモ、朝鮮ニ於ケル我ノ處置其ノ當ヲ得ザラバ、忽チ之レヲ非難攻撃シ、隨テ一ノ朝鮮問題ヲ諸強國ノ間ニ喚起スルニ至ルハ瞭トシテ火ヲ睹ルガ如シ。閣下赴任以來、朝鮮王家及ビ其政府ニ對シ施設スルトコロ其當ヲ得、改革ノ初步トシテ國王ノ意思ヲ定メ、政府ノ應ニ執ルベキ方針ヲ確立シタルガ如キハ、順序ニ於テ尤モ宜シク、行政百般ノ事、此ノ軌軸ニ依リ御着手可相成ト確信スルニ餘リアリ。只ダ懼ル、所ハ亂後ノ疲弊、財政上到底出入相償フハ期ス可カラザル事ニシテ、一旦改革着手ノ上、經費續々相嵩ミ、外債ヲ支拂フニ外債ヲ以テシ、終ヒニ救済スベカラザルニ至ル事ニ有之候間、此邊御注意肝要ノ事ト存候。兼々埃及云云ノ御議論有之候得共、同國ハ惡因結果ナルコトヲ能ク、御鑒考有之度候。本大臣因ヨリ朝鮮ノ前途五十年ノ未前ヲ豫論スルモノニアラズ、今日我が朝鮮ニ對スル政策ハ殆ソド與國ノ未ダ異論ヲ容レ能ハザル所ニシテ、其處置ノ奈何ヲ將來ニ注視セントスルモノノ如シ。故ニ此節貸與スル金額ノ處置ニ至テモ、主客ノ位地ヲ明カニシ、國際上ノ關係ト私法上ノ契約トノ別ヲ混同セザル様致度候。百事詳細ハ末松へ申聞置候間御聞取可被下候。其ノ爲メ勿々頓首

三月三日

伊藤博文

伊藤首相井上公使へ寄スル書簡

五五七

井上全權公使閣下

再白 大本營及ビ東京政府ノ事情等詳報ニ及ビ度候ヘドモ、昨今少々風邪且ツ出帆ノ期已ニ切迫、乍遺憾擱筆。

朝鮮國鐵道電信條約ノ儀ニ關シ 遞信大臣答申

朝鮮國鐵道電信條約ノ儀ニ關シ、本月九日付ヲ以テ井上全權公使來翰相添へ御協議ノ趣致承知候。鐵道條約ニ付テハ既ニ及御回答置候ニ付、電信條約ニ關スル意見左ニ及御回答候。

嚮ニ閣議ノ決定ヲ經テ御送附ニ及ビタル電信條約案ニ於テ、朝鮮國內、既設、未設ノ電信線ヲ舉ゲ、或ル年限間一ニ我ガ日本政府ノ所有管理ニ歸セシメントノ計畫ヲ立テタルハ、一ハ數年來ノ經驗上ニ於テ、朝鮮國人電信建築及ビ通信技術ノ未熟拙劣ナル、斷線不通ノ事故陸續發生シ、電信ノ効用ヲ全フスルニ足ラザルノ事實アルヲ認ムルニ由ルト雖モ、他ニ亦三個ノ必要ナル理由存在スルモノアルヲ以テナリ。其理由ハ即チ電政ノ統一、料金ノ低減、占領地トノ連

絡ノ三者ニ有之候。

電政ノ統一ヲ要スル理由ハ、一國內ニ於テハ可成同一ノ符號ヲ以テ各線相互直接ニ連絡ヲ爲シ、器械上ニ於テ互ニ通信ヲ傳送スルノ方法ヲ執ルニ非ラザレバ、電信ノ大目的タル神速敏活ノ通信ヲ圓滑ニ執行スル能ハザルノ憾ナキ能ハズ。然ルニ今一國內ニ於テ二個政府ノ所有線、別個分立スルニ至レバ、傳送授受ノ澁滯スル（從來釜山朝鮮局ニ於テハ使丁ヲシテ彼我兩局間ノ電報ヲ傳送授受セシムルガ如キ迂法ヲ固執セリ）料金計算ノ煩雜ナル、彼我言語ノ相異ナル（歐文、數字等ノ符號ハ相同ジト雖モ、言語異ナル爲メ彼我ノ技手互ニ通信スルコト能ハズ）等許多ノ不便ヲ來スノミナラズ、朝鮮技手ニ於テハ從來我が最モ希望スル和文電信ヲ取扱フコト能ハザルノ憾アルヲ以テ、同國內一般ノ電信ヲ舉ゲ、總テ我が政府ノ管掌ニ歸セバ、朝鮮諺文ハ朝鮮技手ヲ雇入レ、又我が技手ヲシテ之レヲ習熟セシメ、彼我ノ通信ヲシテ神速敏捷ノ効益ヲ得セシムベシト認メタル次第ニ有之候。

料金ノ低減ヲ要スル理由ハ、朝鮮國內ニ統一料金制ヲ施行スルノ必要ト、日本、朝鮮間ノ現行料金ヲ低減スルノ必要トニ在リ。朝鮮國從前ノ料金制ハ遠近等差ノ方法ヲ用ユルヲ以テ、電信發送上許多ノ煩雜不便ナキヲ免レズ、同國ノ電報ヲ整理シ電信ノ効用ヲ一層普及セシメント欲セバ、遠近統一ノ料金制ヲ採用スルコト最モ必要ナリト信ゼリ。且ツ又現今日本ト朝鮮京城

間ニ於ケル一語ノ料金額六十二錢ニシテ、日本、仁川間ノ料金額ハ七十二錢ノ高額ニ登リ、今ヤ兩國間ニ於ケル政治、商業、其他百般ノ關係層一層親密ヲ加ヘ、彼我ノ電信往復從前ニ倍蓰スルノ時ニ際シテハ、斷然彼我兩國間ノ料金額ニ一大低減ヲ加ヘ、以テ交通ノ便利ヲ發達セシメザルベカラズ。此二者ヲ斷行スルニ朝鮮電信管理ノ權ヲ我が政府ノ有ニ歸スル事頗ル必要ナリト思量致候。

占領地トノ連絡ニ付テハ目下遼東半島ニ於ケル我が領地ト、我が本國トノ電信上ノ連絡ハ一ニ朝鮮内地線ニ依ルモノニシテ、其利害ノ關係毫モ我が内地線ニ異ナラズ。今ヤ清國トハ兩國全權大使講和談判中ナルヲ以テ、占領地ノ運命如何ハ素ヨリ豫メ測リ知ルベカラズト雖モ、釜山、京城、義州間ノ電信線ノ如キ、若シ之レヲ朝鮮政府ノ管理ニ復セバ、占領地トノ交通上ニ於テ其不便利勝テ算フベカラザルモノアランコトヲ恐ル。是レ我が管理ニ歸セシメンコトヲ希望スルノ最大理由ニ有之候。

以上ハ朝鮮國內ノ電線ヲ舉テ一ニ我が政府ノ管理ニ屬セシメンコトヲ希望スル理由ノ主要ナルモノトス。然ルニ井上全權公使來翰ノ趣ニ依レバ、可成丈原案ニ基キ協約ノ運ビニ至ラセ度希望ヲ有スレ共、朝鮮政府ニ於テ之レニ對シ異議ヲ唱ヘ原案ニ打合フベキ見込ナキ場合ニ於テハ、掛引上充分ノ餘地ヲ有セザレバ開談ノ後、充分ノ結果ヲ

得難カルベキニ付、豫メ我が折合ヒ得ル程度ヲ定メ度トノ御意見ニ有之、本大臣ハ御來示井上全權公使御意見ノ各項ニ對シ、左ニ鄙見ヲ可申述候。

一、京城ヨリ釜山ニ至ル朝鮮舊線及ビ京城ヨリ元山ニ至ル朝鮮線ニ付テハ前述ノ如ク電政ノ統一、料金ノ低減ノ二點ヨリ觀察シ、可成原案ノ如ク舉テ之レヲ我が管掌ノ下ニ置クコトヲ切望スルハ論ヲ俟タズト雖モ、御來示ノ事情ハ交渉上止ムヲ得ザル所ナルヲ以テ、御申越ノ如ク全州線ハ朝鮮政府ノ自カラ修繕使用スルニ任カセ、元山線ハ相當ノ規約ヲ設ケ當分ニ之レヲ我が政府ニ管理スルコトニ相成ルトモ、我邦ト利害ノ關係最モ尠ナキ部分ナルヲ以テ此二項ニ付テハ異存無之候。

一、仁川ヨリ京城ヲ經テ義州ニ達スル電線ヲ以テ直チニ之レヲ我が戰利品ト見做スヲ得ザルノ點ニ付テハ、嚮ニ御回答セシ如ク御同意ヲ表スト雖モ、該線ハ前項既ニ申述ベシ如ク、我が占領地ニ達スル幹線ナルヲ以テ、管理經營ノ方法其宜シキヲ得ルト否トハ大ニ占領地交通上ノ便否ニ影響シ、其關係ノ重大ナル毫モ内地重要地ノ幹線ニ讓ラズ。殊ニ該線路ハ支那兵退却ノ際、到ル處切斷廢損ニ歸セシメ、大同江以北、鴨綠江ニ至ルノ間數ヶ所ニ沈敷シタル水底線ノ如キ、都テ荒廢ニ歸シ居タルヲ、我が軍隊ニ於テ或ハ修理シ或ハ新タニ水底線ヲ沈敷スル等、鮮ナカラザル勞費ヲ施シ、仁川、京城間ノ如キモ毫モ舊線ヲ用ヒズ、

全ク我が軍隊ノ別個ニ新設シタル所ニシテ、其他漁隱洞湖浦ノ如キ、亦我が軍隊ノ新設ニ係ハルモノナリ。而シテ京城、義州間ノ幹線ハ目下我が軍隊ニ於テ複線工事施行中ナリ。約テ之レヲ言ヘバ、仁川、京城、義州間ノ線路ハ日、韓、清三國ノ共同財産タルノ實アルヲ以テ、今之レヲ朝鮮國ノ所有ニ歸セシムルモ、財産上亦多少ノ煩雜ノ處分ヲ要セザルベカラズ。要スルニ該線路ハ我が占領地ト至重ノ關係ヲ有スルヲ以テ、何卒嚮キニ御回答セシ旨趣ノ如ク、朝鮮政府仕拂濟ノ年賦金額ハ我が政府ヨリ之レヲ朝鮮政府ヘ辨償シ、清國政府ニ對スル年賦殘金償却ノ義務ハ一切之ヲ我が政府ニ引受ケ、該電線ハ釜山、京城間ニ於ケル我が軍用線ト同様之レヲ我が政府ノ所有管理ニ歸セシメ度切望候。

一、朝鮮政府電信技術者養成ノ件、我が政府ニ於テモ成シ得ル限り相當ノ便宜ヲ與ヘ然ルベシト相考候。

右鄙見ノ大要ニ有之候。井上全權公使ヘ可然御回報相成度、爲御參考別紙朝鮮國內現在電信線路圖一葉相添ヘ此段及御答候也。

明治二十八年四月十七日

遞信大臣 渡邊 國武

外務大臣 子爵 陸 奥 宗 光 殿

朝鮮鐵道電信條約ノ儀ニ關シテハ曩ニ及御協議候次第モ有之候處、今般在京城井上公使ヨリ別紙寫ノ通り申來候。就テハ同公使ヨリ上申ノ通、朝鮮國今日ノ事情多少斟酌ヲ要スベキ點モ有之候様被存候ニ付、可相成ハ井上公使ノ意見ニ基キ談判爲致度候ヘドモ、右ハ貴大臣ノ御主管ニ候ヘバ、篤ト御詮議ノ上何分ノ御回答有之様致度此段及御協議候也。

明治二十八年四月九日

外務大臣 子爵 陸 奥 宗 光

遞信大臣 渡 邊 國 武 殿

朝鮮鐵道電信鑛山事業仁川日本人 居留地擴開ニ付列國使臣故障

一、朝鮮國內ノ電信ヲ我が政府ニテ管理スルハ頗ル便利ニ且ツ確實ニ相違ナシト雖モ、此際同政府所有ノ舊線マデヲ擧ゲテ之レヲ我が政府ヘ買取ラントスルコトハ、當政府ハ必然之レニ異議ヲ生ズ可クト存候。依テ原案ニ折合フ可キ見込ナキ場合ニハ、略ボ左記ノ方法ニ從ヒ取極メ候ハ、朝鮮政府ノ感情ヲ損セズ、且ツ我が方ニモ都合宜シカル可クト存候。

一、京城ヨリ釜山ニ至ル朝鮮舊線處分ノ事。
右ハ京城ヨリ西路、水原、清州、公州及ビ金州等ノ市府ヲ經過シテ大邱ニ至リ、同處ニ於テ我が軍用電線ト同一ノ路ヲ取り、以テ釜山ニ達スルモノナレバ、我が軍用電信ト其線路ヲ異ニセリ。故ニ之レヲ存立スル必要アリ、依テ之レヲ買取ルヲ止メ、朝鮮政府ヲシテ隨意ニ修繕ヲ加ヘテ之レヲ使用セシメ、双方協議ノ上、京城、大邱、釜山間ニ於ケル電信料

ヲ同一ニ定メ、互ニ競争ノ弊ヲ避ケ候ハ、差支ナキ儀ト存候。

一、京城ヨリ元山ニ至ル朝鮮電線處分ノ事。

右ハ前線同様之レヲ買取ルヲ止メ、朝鮮政府所有ノ儘條件ヲ定メ、我ヨリ之レヲ管理ス可シ。

其條件左ノ如シ。

我管理中ハ管理規則並ニ電信料ハ我ガ政府隨意ニ之レヲ定ムルコト。

修繕ハ我ガ政府之レヲ擔當スルコト。

朝鮮政府ノ官報ハ無料ニテ取扱フコト。

將來朝鮮ニテ電信ヲ充分ニ取扱ヒ、破損ノ場合ニハ迅速ニ且ツ完全ニ修繕シ能フ技術者ヲ得ルニ至リ、並ニ地方人民靜謐ニ歸シ、妨害ヲ被ムル掛念ナキニ至ラバ之レヲ朝鮮政府ヘ還付シ、其管理ニ任ス可シ。

一、仁川ヨリ京城ヲ經テ義州ニ達スル舊線處分ノ事。

右電線ハ世人之レヲ清國線ト稱スレドモ、明治十八年十二月二十一日韓海底電線續約ニ於テハ之レヲ朝鮮電線ト認メ、且ツ事實ニ於テモ朝鮮政府ハ之ガ爲メ清國ヨリ借入シタル債額十萬兩ノ内三萬六千五百兩ヲ返却シ居ルニ因リ、殘額六萬餘兩ヲ返却セバ全線朝鮮政府

ノ管理ニ歸スル約束ナリ。而シテ目下京城、義州間ニ於ケル我ガ軍用電信ハ總テ此舊線ヲ使用セリ。依テ本線ヲモ京城、元山線ト同様ノ條件ヲ以テ我ガ政府ニテ之ヲ管理シ、後來清國政府ヨリ負債殘額ヲ請求シタルトキハ、我ガ政府之レヲ立替置キ、追テ朝鮮ニテ電信ヲ充分ニ取扱ヒ、破損ノ場合ニハ迅速ニ且ツ完全ニ修繕シ能フ技術者ヲ得ルニ至リ、並ニ地方ハ安寧ニ歸シ暴民ノ掛念ナキニ至ラバ之レヲ朝鮮政府ニ還付シテ管理セシメ、同時ニ我ガ立替ノ還付ヲ受クベシ。

一、朝鮮政府ノ電信技術者ヲバ可成速カニ練習セシムル方法ヲ設ク可シ。

右ハ電信條約ニ關スル鄙見ノ大要ニ有之候。尤モ朝鮮政府ヘ向テハ當初御廻送ノ草案ニ從ヒ既ニ提出致シ置キ候ニ付、可成丈同案ニ基キ協約ノ運ビニ至ラセ度希望ヲ有シ居候ヘドモ、前陳ノ通り朝鮮政府ノ内部ニハ種々異論アル由追々致承知候ニ付、本官ハ掛引上充分ノ餘地ヲ有セザル以上ハ、開談ノ後進モ充分ノ結果ヲ得難カルベシト思考致候間、特ニ鄙見ヲ條陳シ閣下ノ御熟考ヲ仰ギ候。猶ホ委曲事情ハ末松氏ヘ縷述致候間、熟ト御聞取ノ上至急何分ノ儀御回示相成候様致度此段及内申候也。

明治二十八年三月二十四日

特命全權公使伯爵 井 上 馨

外務大臣 子爵 陸 奧 宗 光 殿

本月六日外務大臣金允植來館申出候ニハ、一昨日(四日)米、露二國公使ヨリ同大臣ヲ訪問致度旨通知アリタル故、多分李竣鎔一件ニ關シ、此程大院君ヨリ書面ヲ送リタル儀ニ付面談ヲ求ムルナラント考ヘ居タルニ、當日ハ來訪モナク、突然米、英、露、獨四ヶ國代表者ノ連署(其後佛國理事官代理ヨリモ同様ノ書面ヲ送リタリ)ヲ以テ朝鮮國內ニ於ケル鐵道電信及ビ鑛山事業ヲ舉ゲテ單一國人ニ任托スルハ不可ナリトスルコト、並ニ仁川港ニ於ケル日本居留地ノ擴開ハ各外國商民ニ取り大ニ損害アリトノ趣意ヲ以テ別紙寫ノ如キ照會狀ヲ送リ越シタリ。右ハ朝鮮政府ニ於テ頗ル當惑ナル儀ニ付如何取計ヒ可申乎、一應本官ノ意見ヲ承知シ、其上ニテ右四國代表者ニ對シ何分ノ回答差出度所存ナル趣相談有之候ニ付、本官ハ兎ニ角熟考ノ上可及返答旨ヲ告ゲ、前顯照會文寫ヲ預リ置キ、爾後暫ク時機見計ヒ中ニテ、未ダ何等返答不致候。尤モ本官ノ意見ハ、該四國代表者ノ申出ニ對シ、朝鮮政府ニ於テハ敢テ兎ニ角ノ抗論ヲ爲サズ、可及丈輕ク受流シ、彼是面倒ナル關係ヲ生ズベキ種子ヲ蒔カザル様返答致シ候事ニ當國ノ外務大臣

ヘ相含メ可申見込ニ有之候。依テ別紙相添ヘ此段及具申候。敬具

明治二十八年五月八日

在朝鮮 特命全權公使伯爵 井 上 馨

外務大臣 子爵 陸 奧 宗 光 殿

英美俄德公領事聯合照會

照會事、照得、本公使等近聞。

貴政府行將廣建鐵路、並擬將建築鐵路之利權、訂立遠年期約、受與單一國人合股之公司、且許該公司、以專得操持各路電線之益、而國中鑛產、一俟察驗詳晰、即又准其按穴開採等情、本公使等窃思。建築鐵路、架設電線、與夫一切利國便民之舉、原屬當今急務、各友邦聞信之餘、無不欣羨、誠以革故鼎新、推廣商務、莫此爲先也、特是若將利權、獨歸於一、則於振興之實跡、未免有碍、鑒觀往事、歷驗不爽、故 貴國政府、今茲此舉、文明各國、咸以爲不然。何者。設使將各工業、招集各國民人、票投承充、則互有此賽、可得最上之工耕、最廉之費用、而收効無

殊、且可免因偏、而令人生妒之患、然本公使等、窃以各本國政府之意、非係欲爲各本國工商等、獨討取便宜之計、不適欲得公平比賽、各逞其長、務使無黨無偏、以符條約內所稱、照最優之國、一體相待之條而已、且再有一件、亦可以此條類及之者、因又聞。貴國政府又擬於毘連仁川各國租界之處、將地畝一大段、劃作增廣日本租界、專爲日本人之用、等情、本公使等窃料、所傳非謬、查仁川濟物浦各國租界一區、各國民人、均得霑其利益、且條約內裁、凡各外國國民人、儘可於相難租界、不逾於十里之外、永租地畝、云々、今若於口岸附近地方、割劃地基大段、爲單一國民之私用、則於所稱租界外永租地畝之典、與別國國民、大有虧損、而於條約內所裁、最優相待、有利均霑、未臻至當、至本公使等所呈以上各節、並無有欲梗阻 貴國民人、自出資本、自出才力、以承辦各項事業之意、所以諄々致意者、只以外國商務之在 貴國者、既屬推廣、則具有關涉者、自未便坐視受困、甘讓捷足者先登獨享其利、而無比賽機會、以昭公允也。

朝鮮內閣騷動ノ件

(廿八日五月廿一日午後零時三十分發)

朝鮮內閣騷動ノコトハ去ル十九日發英文電報ニテ申進メタル通り事實ナリ。其結果トシテ趙軍務大臣ハ遂ニ免官トナリ、總理大臣ハ辭表ヲ出シ、外部、度支ノ兩大臣モ辭表ヲ呈スルノ決心ナリト聞ク。事態度甚ダ面白カラザル次第ナレドモ、本官ハ殆ンド手ノ附ケヤウニ困却セリ。何トナレバ今回騷動ノ首謀者ハ矢張朴泳孝ニシテ、之レヲ壓ヘザレバ纏マリ付カズ、然ルニ今之レヲ壓ヘテ結果ヲ見ンニハ十分強大ナル壓力ヲ加ヘザルベカラズ。其結果ハ露國ヲシテ朝鮮ノ事ニ容喙セシムルノ機會ヲ作爲スルト同然ナリ。又更ニ考フルニ、黨派ノ軋陰謀ハ朝鮮人ノ固疾ニシテ、到底之レヲ除クコトハ覺東ナシ。今假リニ朴泳孝ヲ抑制シテ一時ヲ彌縫スルモ、亦忽チ同様ノ事ヲ生ズルコト疑ヒナシ。右ノ事情ナルガ故ニ、我ガ對韓政策ノ方針確定セザルニ當リ、餘リ立入りテ干涉シテ他國ノ容喙ノ機會ヲ與フルハ不得策ト思惟シ、事變經過ヲ注視

シ居ル處ナリ。我が對韓政略ノ方針ヲ一定スルコトハ、目下一日モ忽ニスベカラザル急務ナリ

京城井上公使

陸奥外務大臣殿

(廿八日五月廿一日外務部三十八號)

朝鮮內閣員分離并總辭職動議ノ件

朝鮮ノ現內閣ハ嘗テ報告ニ及ビタル如ク、客年十二月十七日ヲ以テ組織セラレ、其人々ニハ總理大臣金宏集、外務大臣金允植、度支大臣魚允中、農商大臣嚴世永、學務大臣朴定陽ハ舊任ノ儘ニシテ、內務大臣朴泳孝、法務大臣徐光範、軍務大臣趙義淵(元代理)、工務大臣申箕善ハ新任ノ人ニ有之候。但シ工務大臣申箕善ハ久シク忠清道某邑ニ居住セシ處、再三ノ詔命ニ因リ一度上京出勤シタルモ直チニ歸郷シタルニ付、協辦金嘉鎮氏ハ始終其代理ヲ爲セリ。右內閣員ニ就キ之レヲ色別スルトキハ、

- 金 總 理、 金 外 務、 魚 度 支、
- ノ三氏ハ保守派ニシテ、多少支那臭味ヲ帶ビ、大院君トハ客年夏已來ノ舊縁モアリ、前內閣ニ在ツテハ有爲ノ人々ナレバ、權力自カラ此レニ歸スルガ如ク、而シテ內閣書記官長ノ地位ニ當ル兪吉濬ハ其參謀タルガ如シ。又、
- 朴 內 務、 徐 法 務、

朝鮮內閣員分離并總辭職動議ノ件

ノ二氏ハ新ニ外國ヨリ還歸シタル廉ヲ以テ改新派ト稱セラレ、朴氏ノ如キハ國王ノ駙馬トシテ名位ハ各大臣ノ上ニ居リ、且ツ俄カニ兩陛下ノ御信任ヲ得タルニ付、其權力ハ幾ンド保守派ヲ凌駕スル勢ヒ有之、其ノ外、舊日本派ナル金嘉鎮、安駟壽、趙議淵ノ三氏ハ自カラ一黨ヲ成シテ中立ノ姿ヲ有セリ。前陳ノ有様ナレバ若シ平和ニテハ萬々協和一致シテ同内閣ニ立ツ可キ見込ナキモ、目下國歩艱難恰カモ胡越同舟トモ稱ス可ベキ時節、殊ニ各大臣ノ嚮キニ協同一致以テ國事ニ從フ可キ旨ヲ誓約シ、本官モ亦内閣組織ノ初メ新舊兩派ノ人々ニ向ヒ嚴重ニ忠告シテ分裂ヲ防ギ置キタルニ付、容易ニ不和ヲ來スコトナカル可シト考ヘ居リ候所、新内閣組織後二、三週日ヲ經テモ猶ホ舊派ノ人々ハ依然諸事ヲ專斷シテ、新任各大臣ニ相談セザル旨新派ノ人々ヨリ苦情有之候ニ付、一月初旬總理大臣ニ向ツテ毎三日ニ一回内閣會議ヲ開キ、重要ノ政務ハ内閣會議ヲ經タル後、上裁ヲ得テ施行候方可然旨勸告シ、當分其方法ニ從テ行ヒ來リシ處、新派ノ議論ハ往々過激ニ涉リ、熱心ニ事大ノ舊例ヲ破壊センコトヲ勸メ、舊派ハ之レニ反シテ差支ナキ限りハ舊例ヲ維持セントスル傾キアレバ、双方ノ間ニ漸ク衝突ヲ生ズルニ至レリ。今双方ノ内幕ニ立入りテ之レヲ分析スルニ、舊派ノ人々ハ朴、徐二氏ヲ疑ヒ、此二人ハ新ニ外國ヨリ歸來シテ海外ノ事情ニ通ジ居ル上、背後ニ日本政府ノ援助ヲ有スレバ、早晚政府内ニ跋扈スルニ相違ナシト速了シ、且ツ嚮キニ二、三大臣ニテ專斷シタル文武官ノ進退黜陟モ今ハ新派ノ

諸大臣ヲ憚リテ自由ナラザル廉モアリ、旁々以テ新派ノ人々ヲ疎外シ、三度ニ一度ハ相談ニ及バズシテ事ヲ執行スルコトアリ、又新派ノ人々ハ金、魚ノ舊大臣ヲ以テ事大ノ餘臭ヲ帶ビ、陽ニ改革ヲ唱フルモ内心大院君ノ指呼ニ從テ事ヲ處分スルモノト速了シ、早晚之レヲ政府外ニ逐出シ、政府ヲバ新派ノ一手ニ掌握セント企圖シタルハ衝突ノ根源ニシテ、猜疑離間又外ヨリ之レニ乘ジ、大院君此ノ機ニ乘ジ混雜ヲ興サシメント謀リ、屢々人ニ向ヒ總理、外務、度支ノ三大臣ハ我黨ナレバ能ク我ガ指揮ニ從フモノナリト物語リタルヲ新派ノ人ハ聞傳ヘ、初メヨリ舊派ノ諸大臣ハ大院君ト結托シ居ルニ相違ナシト益々疑ヒヲ屬シタル處「忽チ又大院君ハ窃カニ舊派ト通謀シ、朴、徐二氏殺害ノ計畫ヲ爲シ居ルト傳フル者有之」ノ由ニテ、其疑惑益々相高マリ所謂ユル疑心暗鬼ヲ生ズル勢ヒニ陥リ申候。之レト同時ニ反對派ノ疑惑モ益々相高マリ、以爲ラク朴氏ハ頭ニ國王、王妃ヲ戴キ、傍ラ日本公使ノ勢威ヲ藉リテ政權ヲ專ラニセント企圖シ居レバ、取リモ直サズ第二ノ勢道ナリトテ其專横ノ廉々ヲ擧ゲテ之レヲ攻撃スルニ至レリ。抑モ朴氏ノ國王、王妃ニ親近ヲ得タルコトハ、最初本官ノ忠告ニ出デタルコトニテ、當王室ノ習慣ハ常ニ國王、王妃ノ側ニ伺候、若クハ奉仕スルモノハ宗室、外戚、内官、若クハ親狎ノ近官ニシテ、國務大臣ナドハ國王ニ於テモ引見ヲ賜フコト甚ダ稀レナリ。況ンヤ王妃ヘハ古來ノ慣例ニ於テ全く謁見ヲ許サレズ、又國王ノ引見トテモ儀式一邊ニ止マリ、政事上ノ奏聞ハ皆ナ承政院

ニ出シ、夫レヨリ内官ノ手ヲ經テ之レヲ爲ス例トナレリ。故ニ國王、王妃ノ周圍ニハ所謂ユル宗室、外戚ノ外、狎邪小人ノ集合ナレバ、兩陛下ハ恰モ霧中ニ彷徨セラレ、疑惑危懼ノ四字ヲ胸中ヨリ去ラセラル、能ハザル次第ナリ。幸ヒニ朴氏ハ順良ノ性質ニシテ、外國ノ事情ニ通ジ居リ、且ツ其身駙馬ナレバ王妃ニ拜謁スルコトヲ許サレ候ニ付、同氏ヲ兩陛下ニ紹介シ、中外ノ事情ニ通ズル楷梯ト爲サバ、内官狎臣等ハ浮言虚説ヲ逞フシテ兩陛下ヲ惑ハスヲ得ズ、所謂ユル暗夜ニ燈ヲ掲ゲタル位ノ効能アル可シト豫期シタル處、外間ニテハ其實情ヲ悟ラズ、却テ之レヲ以テ朴氏ヲ攻撃スル口實トハ爲スニ至レリ（但シ朴氏宮中ニ出入シタル以來、中外ノ情意ハ稍ヤ疏通シタルモノ、如シ）

本年二月初旬訓練大隊長申泰休ノ進退ニ付、朴内務ト趙軍務トノ間ニ一ノ衝突興レリ。右申泰休ハ嚮キニ内閣ノ同意ヲ以テ上奏ヲ遂ゲ、參領（少佐ニ當ル）ニ任セラレタル處、其後朴内務大臣ヨリ同人ハ去ル甲申年（明治十七年）冬ノ變亂ニ袁世凱ノ先鋒トシテ王宮ニ攻入リタル者ナレバ、之レヲ隊長トスルハ不都合ナリトノ議論出デ、若シ同人ヲ免職セザルコトナラバ内務大臣自ラ辭職ス可シトノ決意ヲ示シタルヲ以テ、軍務大臣ハ大ニ當惑シテ當館へ來リ内々ニ本官ノ意見ヲ尋ネタルニ因リ、本官ハ内務大臣トシテ武官ノ進退ニ干涉スルハ職權外ナリトノ意ヲ以テ朴氏ニ忠告シ、其事一旦落着ニ歸セシガ、夫レヨリ趙軍務ハ全ク意ヲ決シテ舊派ニ身

ヲ寄スルニ至レリ。

其前後ニ當リテ内閣ニ於テ新二年號ニ立テ、在松坡ノ清帝功德碑ヲ仆シ、迎思門ヲ除キ、清使接待ノ爲メ古來設ケタル慕華館弘濟院ヲ毀ツノ議アリテ、新舊兩派ノ爭論題ニ上レリ。其内功德碑ヲ仆シ、迎思門ヲ除クコトハ舊派ノ同意ヲ得タルモ、年號ハ既ニ清國ノ年號ヲ廢シ、開國何年ト稱スル已上ハ新二年號ヲ興スニ及バズ、且ツ又慕華館弘濟院ノ兩建物ハ故ラニ之レヲ毀ツニ及バズ、其名ヲ改メテ他ニ使用シテ差支ナシトノ議論ヲ以テ舊派ノ人々ハ之レニ同意セザルニ付、遂ニ一場ノ問題トナリ、國王ニモ新タニ年號ヲ興スコトニハ稍ヤ御同意ノ傾キアリシモ、本官ハ目下ノ急務ハ獨立ノ基礎ヲ鞏固ニス可キ實務ヲ舉グルニ在リ、瑣々タル虛名ニ拘泥スル時ニアラズトノ趣意ヲ以テ兩派ノ人々ニ忠告シタル處、新派ノ人々ハ不満足ナガラモ一時本官ノ說ニ服シタリシガ、引續キ法務參議張博氏ノ進退ニ付、兩派ノ間ニ再ビ小衝突興レリ。抑モ張博ハ法務衙門ニ於テハ羽利ノ一人ニテ、曩ニ同衙門協辦金鶴羽ノ暗殺セラレタル後ハ、同衙門ノ權力ハ幾ンド同參議ノ一手ニ歸セシ有様ト爲リ、同氏又舊派俞吉濬等ト親交アリテ重大ナル裁判事件ハ皆之レト相談シタルガ如シ。從來法務衙門ニ於テ大院君又ハ閔氏ニ關係アル罪犯取調ノ際ニハ、掛官皆危懼ヲ懷キ之レヲ避クルモノ多カリシニ、張參議ハ獨リ難局ニ當リ我ガ領事ノ立會ヲ得テ取調ヲ爲セシ人物ナリシガ、其後同人ハ收賄ノ評判高キニ因リ、警務廳

ニテ探偵ヲ盡シ、聊カ端緒ヲ得タルニ付、本官ハ内務、法務ノ兩大臣ニ向ヒ、相當ノ手續ヲ踐マシテ嚴重ニ取調ヲ爲ス可シト忠告シタルニ拘ラズ、徐大臣ハ敢テ其罪ヲ查實セズ、直チニ當人ニ諭シ辭表ヲ奉呈セシメント試ミタル處、當人ハ其說諭ニ服セズ、徐大臣ニ對シ却テ不敬ノ言ヲ漏シ、若シ收賄ノ嫌疑アラバ法廷ニ於テ取調ヲ受ケタシト申シ募リタルニ付、朴、徐兩大臣モ幾ンド其處分ニ當惑シタリ（當時内務、法務ノ兩大臣ハ王妃ノ内意ヲ奉ジ、收賄ニ言寄セテ張參議ヲ斥ケントシタリト云フテ切リニ兩大臣ヲ攻撃セシモノアリ）然ルニ本官竊カニ張博ノ人ト爲リヲ聞クニ、剛強ニシテ稍ヤ事理ニ通ジ、殊ニ明律モ精シク、裁判官トシテハ得難キ人物ノミナラズ、收賄事實ノ有無不明瞭ナリトノ事ニ付、徐、朴兩大臣ト内談ヲ遂ゲ、同人ヲシテ不敬ノ辭ヲ謝セシメ、舊ニ仍リ法務參議トシテ使用スルコトニ相成リ候ヘ共、此一事モ幾分カ亦新舊兩派ノ分裂ヲ助ケタルモノ、如シ。又之レト略ボ同時ニ政府ハ慶尙道鎮撫使李重夏ノ報告ヲ輕信シ、總理、内務、度支ノ三大臣ヨリ奏上ヲ經テ同道内某々邑ノ租稅ヲ免ジタルコト官報ニ相見エ候ニ付、本官ヨリ斯克一官員ノ報告ヲ信ジ、重大ノ租稅ヲ減免スルハ不都合ナルノミナラズ、嚮キニ度支大臣ト約束シタル財政上ノ諸事本官ノ意見ヲ聽クベシトノ趣意ニ背クモノナリト云フ趣ニテ、右三大臣ニ詰問ノ書面ヲ送り候處、右奏上ハ三大臣ノ名ヲ以テシタルモ、其實内務大臣ノ同意ヲ待タズシテ奏上ヲ遂ゲタルコト相分リ、其結果ハ新派ニ向テ舊派

ニ攻撃スル一ノ材料ヲ與ヘタリ。

右ノ如ク新舊兩派軋轢ノ熱度漸ク相高マリ、陰ニ陽ニ互相拮排セントスル氣焰盛ナルニ付、二月八日日本官議政府ニ赴キ、各大臣列席ノ前ニ於テ二、三大臣處務ノ不都合ヲ擧ゲテ之レヲ咎責シ、且ツ今日國歩艱難ノ時ニ當リ、新舊各々黨ヲ立テ相軋轢スルハ當初ノ誓約ニ背キ、國家ヲ以テ己ガ任ト爲ス國務大臣ノ心得ト思ハレズ、此際須ラク一致協和シテ國事ニ從フ可シトノ趣意ヲ以テ痛ク攻撃ヲ加ヘタル處、新派ノ人々如何ニ感ジタリケン、同十一日朴内務大臣ノ發議ニテ、各大臣皆之レニ同意シ、國王ニ向テ辭表ヲ奉呈スル運ト相成申候（此時新派ノ内意ハ内閣總辭職ヲ爲サバ、國王ヨリ必ラズ本官ヲ召シテ御下問アル可シ、然ルトキハ本官ハ新派ノ肩ヲ持ツニ相違ナケレバ、次期ノ内閣ハ新派ノ人々ニテ組織スルヲ得可シトノ妄想ヲ畫キ、舊派ノ人々ハ亦内閣總辭職ヲ以テ本官ノ内意ニ出デタリト誤了シ、遂ニ辭表奉呈ニ一致スルニ至レリト聞ケリ）

翌十二日午後本官ハ國王ノ御招キニ應ジ參内候處、各大臣控所ニ相揃居リ候ニ付、本官ハ一同ニ向ヒ痛ク總辭職ノ不心得ナル所以ヲ說イテ之レヲ責メ、尋ネテ謁見候處、國王ヨリ「内閣各大臣一同辭表ヲ奉呈スベキ様子ニ付、如何ニス可キヤ」トノ御下問有之候ニ付、本官ハ右上奏ハ御採用相成リテハ宜シカラズ、依テ陛下ノ思召ヲ以テ之レヲ斥ケラレ、猶ホ本件ニ付キ總

理大臣ヲシテ本官ニ就キ相談スル様御諭相成候テ可然云々、委細（二月十二日内謁見始末筆記御參照）奉答ニ及ビ候處、翌十三日總理大臣金宏集來館ニ付、内閣ニ於テ辭職協議ニ至リタル顛末熟ト相尋ネ、之レニ依テ同發議ノ新派、即チ朴泳孝ノ口ヨリ出デタルコト、並ニ總理大臣モ全ク誤了シ居リシコト確ト相分リ候ニ付、翌十四日ハ新派ノ二大臣、即チ朴泳孝、徐光範、及ビ署理大臣金嘉鎮ノ三氏ヲ招キ、其不心得ヲ責メ、且ツ自今國家多難ノ際、協同一致シテ其局ニ當ラザル可カラザル旨嚴シク忠告致候處、同三氏ハ聊カ抗論ヲ試ミタルモ、結局本官ノ忠告ニ從フ可キ旨申出候。依テ翌十四日ハ總理、外務、度支、軍務ノ四大臣ヲ相招キ候處、總理、外務、軍務ノ三大臣來館シテ、素ヨリ本官ノ忠告ニ異議ナキモ、獨リ度支大臣ハ疾ト稱シテ來會セズ、門ヲ閉ヂ、客ヲ謝シ、辭職ノ決心ヲ相示シ居ル趣傳聞致候ニ付、總理、外務兩大臣ニ托シテ同大臣ノ來館ヲ促シ候處、翌十六日午後來館ニ付、本官ヨリ「目下國家多難ノ際ニ當テ重責ヲ擔フ國務大臣ハ容易ニ其職ヲ辭ス可カラズ、右ハ客年冬各大臣ノ相約シタル「確秉不撓不屈ノ心排百難而力行不已」並ニ「一心設誓廉潔守正忘身扶國」等ノ誓言ニ違背スル旨説明シテ嚴シク相詰リ候處、同大臣モ遂ニ其決心ヲ翻シ、本官ノ忠告ニ從フコト、相成申候。右ノ如ク新舊兩派ノ重ナル大臣ハ、一同本官ノ忠告ニ從フベキ旨申出デタリト雖モ、猶ホ新派ノ諸大臣ハ果シテ改正シタルヤ否ヤ甚ダ被疑候ニ付、齋藤、杉村等ヲ派シテ裏面ヨリ之レヲ説カシメ

タル後、同十八日午後再ビ朴、徐二大臣並ニ金署理大臣ヲ招キ、更ニ忠告ヲ加ヘ候上、其決心ヲ相尋ネ候處、右三氏モ愈ヨ本官ノ忠告ニ服シ、舊派諸大臣ト將來一致協力シテ國事ニ從フ可キ旨確答ニ及ビ候ニ付、夫レニテ總辭職ノ議中止シ、内閣ノ折合舊ニ復シ申候。

明治二十八年五月一日

特命全權公使 井 上 馨

二月二十五日謁見始末筆記拔萃

本使入謁、例ニ據リ寒暄ヲ叙ヘ了ツテ宮内大臣等退出ス。

井 上 先般内閣大臣總辭職ノ儀興リシ已來、本使ハ新舊大臣ノ間ニ處シ調停方取計ノ末、漸ク協和ノ收局ヲ告グルニ立至リタリ。依テ今日ハ右ニ關シ一ト通りノ顛末ヲ奏上致スベシ。

大君主 諾。

朝鮮内閣員分離并總辭職動議ノ件

井上 調停ノ第一着トシテ朴内務、徐法務、金署理工務ヲ我ガ館ニ招キ、其辭職ノ提議ヲ爲スニ至レル理由ヲ問答致セリ。

其問答ノ大概ハ左ノ如シ。

朴内務 昨今ノ如キ内閣諸大臣ノ間柄折合甚シク協和ヲ缺ク様ニテハ、改革事業モ到底好結果ヲ見ル能ハザルベシト思ハル、故ニ寧ロ本大臣等幾人ハ現職ヲ去リ、他ノ一派ヲシテ主義同ジキ人政府ニ立ツテ共ニ國務ニ從事セバ、部内ノ一致結合ヲ得ルノ便宜アルベケレバ、却テ國家ノ爲メ至幸ト云フベシ。是レ本大臣等姑ク退イテ徐々其成績如何ヲ傍觀セント欲スル所以ナリ。

井上 貴大臣等辭職ノ意ハ姑ク之ヲ可ナリトセン。而シテ其善後策、即チ其後任者タルベキモノハ如何、果シテ適當ニ満足ナル人物ヲ獲ベキ見込ナリヤ。余ノ所見ヲ以テスレバ貴國人ニシテ而カモ經綸ノ大才ヲ抱キテ國家ノ樞機ニ處スベキ人物ハ、八道ノ野ニ鐘太鼓ヲ敲キテ尋ネ廻ハルモ恐ラク之レヲ得ルニ難カラシ。若シ諸君ニシテ此人物ナラバト目指スルモノアラバ、試ミニ之レヲ聞カン（三大臣默然答フル者ナシ）其人材ノ容易ニ得ベカラザルコトヲ之レヲ思ハズシテ、一朝ノ憤リニ國家ノ重キヲ忘レ、退隱セントスルガ如キハ、恰モ兒戲ニ類スルモノト云ハザルベカラズ。

朴内務等

辭職ノ原因ハ前段ノ如ク獨リ自他協和シ難キノミナラズ、聞ク所ニ據レバ舊守黨ナル某々大臣ハ、大院君ト暗々裡ニ結托シテ密カニ我々ヲ陥擠セントスルモノ、如シ、齊シク新政府ニ立ツモノニシテ、其レ此ノ如キ裏面ニ隱險的手段ノ伏在スルアリトセバ、到底是等ノ一派ト終始ヲ共ニスル能ハザルハ必然、結局彼レ存スルカ我レ亡ブルカ、早晚一波瀾ヲ生ズルヲ免カレザルベシ。而シテ吾々ノ最モ釋然タル能ハザルハ、内閣ノ公席ニ於テ相見ルヤ、彼ノ所謂老成者ト唱フル連中ハ、表面和氣溫容ニシテ議論相衝突シ、口角沫ヲ生ジテ爭フガ如キコト曾テ之レアラザレバ、外見上主義一致スルカト思ハル、モ、其裏面ニ至ツテハ大ニ之レト相反シ、實ニ氷炭相容レザルノ言行多ク顯ハル、アリ。

井上 諸君曷ゾ其レ曉ラザルノ甚ダシキヤ、新舊大臣ノ一致協和ハ却テ或ル者ノ爲ニ忌マレ、其離間者ハ常ニ鼻息ヲ窺ヒツツアルコトヲ、今ヤ又半バ其術中ニ陥リツツアルコトヲ、余ガ毎々諸君ニ忠告セシ如ク、所謂疑心暗鬼ノ爲ニ誤ラルルコト勿レトハ蓋シ之レヲ謂フモノアリ。此頃大院君ハ切りニ來訪者ニ向テ總理、外務、度支、軍務ノ四大臣ハ、昨年事變後予ト同腹ニシテ今日ト雖モ互ニ氣脈ヲ通ジ、予ガ命令トナレバ一モ二モナク服從シテ背カザルモノナシト得意ニ吹聴セリト。惟フニ是レ大院君ガ今日巧ミニ新

舊大臣ノ間ニ風波ヲ起サシメ、竟ニ與黨派ヲシテ鬪争ノ餘リ一混雜ヲ政府内ニ起サシメントノ魂膽ニ出デタルモノニシテ、諸君ハ之レヲ是レ曉ラズンバ終ヒニ其術中ニ陥ランノミ、豈ニ深く戒心セザルベケンヤ云々。

朴内務等

又云ク、彼等ノ或ル者ハ密カニ刺客ヲ放ツテ暗殺ヲ隱謀スルモノアリトカ。

井上

何レノ國ト雖モ國政改革等ノ行ハル、時代ニアツテハ、多少凶暴者ヲ出スハ數ノ免カレザル所ナリ。其例ヲ舉グレバ我國維新以來先キニ廣澤參議アリ、後ニハ大久保參議アリ、比々皆然リ、近クハ文明國ノ首班タル佛國ニ於テサヘモ其大統領ノ凶手ニ斃サレタルガ如キ深ク恠ムニ足ラザルナリ。抑モ國務大臣トシテ國家ト存亡ヲ共ニスルモノ、死ヲ恐レテ何事カ成ルベキ、宜シク肚胸ヲ据エ死ヲ甘ンジ國ニ殉ズルノ覺悟ナカルベカラズ。又タ此回ノ衝突ハ年號ヲ新ニ起スベシ、迎思門慕華館ヲ破毀シテ清國崇拜ノ念ヲ割斷スベシトハ新大臣ノ主張シタル所ナルガ如シ。余ハ最初ヨリ此說ニ感服スル能ハズ、何ントナレバ虚ヲ去リテ實ニ務ムベシトハ余ガ主トシテ貴國ノ爲メ忠告スル所ナリ。年號ヲ作り家屋ヲ毀テタレバトテ何程カ人心ニ感動ヲ與フベキゾ、所謂舊大臣連中ナルモノガ此等兒戲ニ類スル處置ヲ拒絶シタルハ強チ無理トセザルナリ。之レヲ要スルニ新大臣ハ兎角何事モ輕忽ニ失シ、極端ニ奔逸スルノ嫌ヒナキ能ハズ。

井上又

我が日本ガ維新以來如何ニ刻苦經營セシヤニ付、證ヲ據キ例ヲ舉ゲテ一條ノ歴史話ヲ爲シ、朴氏等ガ意見ノ投合セザルヲ以テ不耐忍ニモ直チニ職ヲ退カントスルガ如キハ國家ニ忠誠ナル所以ニアラズト説キ、何ハ兎モアレ大臣總辭職ノ原因ハ他ノ離間策ノ爲メ疑心暗鬼ヲ生ジタルガ如キハ國家ヲ誤マルモノト云ハザルヲ得ズ。

朴氏等

成程左様云ハルレバ一應道理ナキニアラズ、然レドモ由シ一步ヲ進メテ假リニ吾々ガ疑惑ヲ解キ和衷協同國政ノ改良ニ從事セントセンカ、果シテ彼ノ老人株ナル大臣タルモノ、吾等ト同情ヲ表シ釋然事ヲ共ニスベキヤ否ヤハ頗ル疑フベシ云々。

井上

他ノ疑心ヲ解クト否トハ暫ク措キ、先ヅ以テ自己ノ疑惑ヨリ去ルノ考ヘヲ爲スコソ必要ナルベシ。倩々當國人ノ習慣ヲ察スルニ、世道ナルモノガ國政ヲ專握シタル時代ニアツテハ、離間策ナルモノガ大ニ流行シ、是レヲ以テ唯一ノ處世手段ト爲シタルガ如シ。縦ヘバ或ル者ハ自家ノ地位ヲ求ムル爲メ之ヲ以テ他ヲ陥擠シ、又或ル者ハ他人ノ爲メ之レヲ賣リ廻ツテ陰ニ助成スル等、事々物々此筆法ヲ用ヒテ互ニ相争鬪スル有様ナリシ。必竟スルニ離間ナルモノガ買ハルレバコソ賣リ廻ハルモノアルナリ。縦ヘバ（此時余ハ「マツチ」ノ一個ヲ執リ）此「マツチ」ヲ買手ガアレバコソ賣手ノアル所以ナリ。若シ然ラズシテ何程賣リ廻ラントスルモ、之レヲ買フ人ナケレバ瓦礫ト何ゾ撰

バン。之レヲ放擲シテ顧ミザルニ至ランノミ。之レヲ總フルニ諸君モ向後決シテ此惡習慣ノ爲メ、此ノ離間策ノ爲メ誤ラレザル様、即チ何程離間ヲ嚮ギ行フモノアリトスルモ一切頓着セザルコト、セバ、終ヒニ斯カル弊害ヲ一掃スルニ至ランノミト、諄々乎トシテ説キ去リ説キ來ルニ及ンデ、朴、徐、金ノ三氏ハ曰ク、兎ニ角今回ノ事ハ本使ノ調停ニ一任シ、我々ハ疑念ヲ去リ公正ニ就キ、専心國務ニ從事スベシトノ事ナリシ、是ニ於テ再ビ金總理、金外務、魚度支、趙軍務ヲ招キ（但シ魚度支ハ病氣ト稱シテ來ラズ、依テ翌日之レヲ招キタリ）余ハ略ボ前段ニ均シキ口調ヲ以テ説破スル所アラントシタルニ、此四大臣ニハ最初辭職等ノ考ヘモナカリシニ、朴内務ハ突如トシテ辭職ノ上、公疏ヲ爲サンコトヲ提議シタリト云ヘリ。其理由トシテ同大臣ハ昨年六月以後新ニ組織セラレタル政府ナルモノガ、改革上一事ノ能ク決行シテ寸効ヲ奏シタルモノナシ、斯クテハ我々ハ上大君主陛下ノ聖意ニ奉答スル能ハズ、下ハ國民ノ輿望ト相反スルモノナレバ、宜シク自ラ答ヲ引キ總辭職ヲ爲スヲ可トスベシ。若シ諸大臣ニ於テ異議アラバ本大臣獨リ先ヅ上疏シテ印綬ヲ解クベシ云々、夫レ内相ノ就職僅カニ二ヶ月ニ過ギズ、而シテ其職責ノ擧ラザルヲ嘆ズルコト此ノ如シ。我々ノ如キハ昨年六月中旬内閣組織以來引續キ重職ニアルノ身ナレバ、自カラ曠日ノ多キヲ知ルベシ。

殊ニ謂ヘラク、此提議ノ起ル、恐ラク内相自身一己ノ意見ニモアラザルベシ、大君主始メ貴公使トモ熟議ニ成リタルナラント、毫モ怪シム所アラズシテ直ニ之レニ同意ヲ表シ、齊シク上疏退職ヲ爲スベシトノ議ニ一決セシナリ。將又謂ヘラク、朴氏ノ提議ニシテ深キ魂膽アリトセバ、勿論善後策ナドニ至ツテモ疾ニ成算アルベシ、果シテ然ラバ是ゾ却テ國家ノ爲メ至幸ト云フベシ、本大臣等ハ寧ロ喜ンデ之レニ賛同スルモノナリ、何トナレバ嘗テ聲言スル如ク、吾々ハ決シテ官職ニ戀々スルガ故ニ此ノ重職ニアルヲ好ムモノニアラズ、去レバト云ツテ自家ノ力善ク此難局ヲ匡濟スベキヤト云ハバ不才不能敢テ當ラズト云フノ外ナキモ、坐シテ國家ノ危亡ヲ傍觀スルハ忍ビザル所、故ニ可及丈ノ心力ヲ張ツテ局ニ當ラント決心シタルモノナリ。云々ト。

之レニ對シテ諸大臣ノ辭職沙汰ハ是レ全ク相互ノ疑惑ヨリ生ジ、他ノ離間策ニ陥ラントスルモノナリ。貴大臣スラ謂ラク、余ニモ總辭職ハ同意ノ上ノ事ナルベシ云々、是亦一ノ疑心ニ外ナラザルナリ、余ハ始メニ揚言セシ如ク、不偏不黨虚心平氣ヲ以テ諸大臣トノ間ニ均一ノ交際ヲ保タントスルモノニシテ、安ンゾ彼レニ厚ク此ニ薄キノ理アラシヤ、其レ之レヲ思ハズシテ本使ニ向テ敢テ一言ノ相談ナク、直ニ邪推ヲ下シテ總辭職ヲ爲スベシトハ餘リノ輕舉ト云ハザル可カラズ、何トナレバ余ハ目下貴國公債